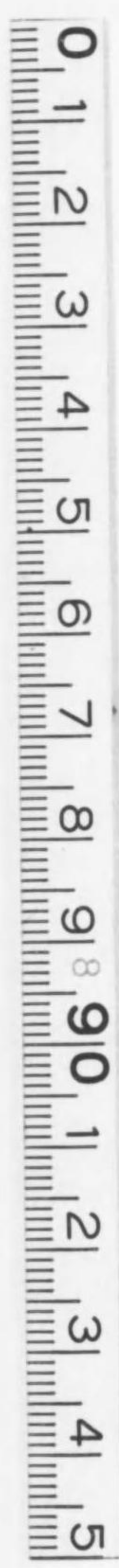


913.32-1327



1200500757290

913.32
I 32



始



35.5.20

913.2
I.32



池田龜鑑著

伊勢物語に就きての研究上

東京 大岡山書店刊行



緒言

過去數ヶ年、不肖芳賀博士記念會の依囑によりて、源氏物語の調査に従事したり。その間、源氏物語と密接不離の關係を有する平安朝文學全般に就きての基礎的知識無くば、到底所期の目的は之を達する能はざるべきことを痛感せり。よりて源氏物語そのものの研究に伴ひて、同時代の重要なる諸作品、就中、竹取物語・伊勢物語・大和物語・落窪物語・土佐日記・和泉式部日記・紫式部日記・枕草子・大鏡等に對して傳本を尋ね、系統を究め、本文を校勘し、文意を解釋することとなし、その業をつづけて現在に及べり。而して今や源氏物語校本の事一段落を告げ、これが刊行に就きての具體的方法を

議せらるるに當りて、此等諸本の調査も亦あはせて略豫定に近き
進行を見るに至れり。

元來此等の調査は源氏物語研究の必要上なされたるものにして、特に之を刊行して他人に示さむとする意志のもとになされたるものにはあらず。されば、從來屢々此等を篋底より出して公表すべしとの友人諸氏の勸告を受けたる事ありしと雖、常に意に止むることなくして現在に及びたるものなり。未熟なる著書を慌しく公にするが如き、もとより學徒の爲すべき所にはあらず。さりながら、學界に未だ知られざる新資料を久しく私し、自重を名として研究の経過を秘するが如きも、亦決して學に忠實なる所以にあらず。今や源氏物語校本の草稿成り、寸暇を得るにあたりて、嘗て願ふことなかりし刊行の事を、改めて靜かに考慮するの

機會を得たり。乃ちここに舊稿中より伊勢物語に關するもの一部分を選び、之に若干の修訂補正を加へ、更に疑義を勘へ、一先づ研究の一過程として報告し、以て友人諸氏の深切なる勸告に答へむことを決意するに至れり。

本書は上述せしが如く研究の途上に於てなれるものなり。今日までに調査し得たる資料の如き、九牛の一毛にも及ばざるべし。のみならず、それ等の校合も未だ正確を保し難く、又諸本に對する判斷も恐らくは正鵠を失するもの多からむ。もとより之を以て直に定説となすが如き意圖を有するものにあらず。今後更に努力を重ねて誤を正し、足らざるを補はむことを期すると共に、他日何人かによりて精到該博なる大研究の成されむ時、その前に名なき一小礎石たり得むことを祈るものなり。

本書の内容は伊勢物語に關する考察なり。されどその成れる事情よりすれば、上に述べたるが如く、源氏物語研究の一過程として見るべきもの、著者にとりては即ち所期する源氏物語研究中の一部分に外ならず。今此の小著を源語研究體系の一小部門として世に出すに際して、新たに想起するは藤村作先生・吉田彌平先生の多年に互りて垂れ給ひし恩情なり。もし兩先生在しませざれば、源氏物語校本及び諸種の研究はをろか、本書の如きささやかなる報告もなほ且容易に成し得ざりしならむ。ここに特記して兩先生に滿腔の謝意を捧げ奉る。なほ橋本進吉先生・久松潜一先生は、東京帝國大學研究室に於て常に親しく指導と鞭撻とを賜ひ、城戸甚次郎氏・笹野堅氏は内に在りて、西尾實氏・三條西公正氏を初め友人先輩の諸氏は外に在りて、それぞれ暖き好意をよせて激勵

せられ、大津有一氏・松田武夫氏は、本書刊行に際して、調査に校正に日夜殆ど獻身的の援助を惜まれざりき。更に大岡山書店主八木重良氏は、經營上全く成算なき本書の出版を引受けて犠牲的に奔走せられ、精興社支配人山田一雄氏外當事者諸氏は、本書の印刷にあたり熱誠に終始して盡力せられたり。又藏書家諸氏並に圖書館・文庫の當事者諸氏は、本書の爲に貴重なる襲藏の祕籍の閲覽を快諾せられ、種々好意ある便宜を與へられたり。本書の成れるは全く此等の諸氏の美はしき友情の賜にして、寔に感激に堪へざる所、ここに記して謝意の一端を表す。

著者もとより淺學菲才、今蒼惶として本書を成す。もし幾多の誤謬によりて世を惑はすが如き事あらば、その罪決して輕しとせず。願くは大方博雅の士の寛容と叱正とを仰ぐと同時に、不肖亦

自ら驚馬に鞭うつて刻苦を重ね、この罪の幾分を將來に償ひ得む
ことを。

六

昭和八年四月

池田 龜 鑑 識

伊勢物語に就きての研究 上

凡例

一 本書の目的

本書は元來源氏物語研究の参考資料として編纂されたものであるが、伊勢物語専門研究者並に一般平安朝文學研究者にも役立つならは幸甚である。源氏物語以外のもの、例へば竹取物語・土佐日記・枕草子等も、もし出版當事者に經營上の成算が立てば、逐次刊行する豫定である。

一 本書の組織と方針

本書は上巻を校本篇とし、下巻を研究篇とした。研究篇に於ては最も基

礎的なる本文に關する部分に限つて之を採り、いやしくも解釋・評論等に互る部分はすべて之を除くこととした。現存諸本の寫眞は、上卷に於て古寫本の重要なるもの、下卷に於て古板本の重要なるものをあげ、これ等に關しては圖版と同時に、簡單なる説明を附することとした。これ等の諸本は、古寫本に在りては、先づ大體の系統に大別し、その系統内に於ける近似せる諸本を一群として類聚し、これを出來得るかぎり、年代順に配列した。次に板本に在りては、先づ古寫本の場合と同様に系統によつて分類し、刊記あるものは年代順に擧げ、次いで刊記なきものに及ぶこととした。本書の校訂もしくは研究に於て諸本をあげる際にも、またこの方針に従つた。上卷は校本篇であるから、校異を出さざる異體字並に通用字の表、伊勢物語諸本章段對照表等を附録としてをさめ、かつ五句引による和歌の索引を附することとした。下卷に於ては、現存伊勢物語の諸本を解説し、その系統を論じ、原典研究の歴史を明かにし、伊勢物語に關する諸種の書志學的・國語學的事項について私見をのべることとした。本書に

於ては註釋史的事項にはふれず、主として原典研究の方面のみに限ることとしたから、註釋書の解説は従つてこれをなさざることとした。

一 本書校本の底本

底本を選択する際には、最も普通に行はれ、或は行はれつつある本を採る場合と、最も誤字の少ない善本を採る場合とがある。前者は例へ善本でなくとも、多數の學者の研究の基礎となり、また註釋書の類にも多く引用されてゐる便宜を有し、後者は必ずしも一般に廣く通行する本でなくとも、その學問的に純粹なる點に於て著しく優れたる特徴を有する。彼は量を主とし、普遍的性質をとり、これは質を主とし、特殊的性質をとる。右の二つの態度を伊勢物語に適用すれば、拾穂抄や新釋の本文、或は流布本の本文を底本とするものは前者に屬し、時頼本の如き本文を底本とするものは後者に屬する。本書に於てはこの二つの立場を調和して、室町以

後盛に行はれ、現存諸本の大部分を占めてゐる所の定家本系統にして、しかも定家自筆本に還元せられ得べしと考へられる。天福二年正月廿日未巳申刻凌桑門之盲目連日風雪之中、遂此書寫爲授鐘愛之孫女也。同廿二日校了の奥書ある天福本を選び、そのうち最も定家自筆本に近いと推定される三條西伯傳家藏傳定家筆本伊勢物語を假名本の底本として用ゐ、一方「寛永廿未癸歲九月吉日二條通鶴屋町澤田庄左衛門板行」の刊記ある本を以て眞名本の底本に充てた。

一 比較に用ゐたる諸本及びその略號

校合に用ゐたる諸本はその數四十三種類より云へば定家本系統(更に天福本武田本流布本に三分する)古本系統・大島本系統・朱雀院塗籠本系統・眞名本系統の五系統七類に互り、その中定家本以外の系統のものは現在までに調査し得た殆んど全部を採用した。これを書寫年代よりすれば、今日

までに調査し得た鎌倉及び南北朝時代の古寫本の全部、室町時代古寫本の大部分、及び江戸時代の寫本刊本の重要なものは悉く之を網羅した。右の中古寫本に於ては、零本でもこれを採用したが、斷簡として諸家に存するものや、他書に引用されてゐるもの、及び所在は明かでも校合未了のものはすべて之を省いた。然し大島本の卷末に附せられた皇太后宮越後本と小式部内侍本の數段は特に校合中に加へた。今本書に於て校合に用ゐたる諸本とその略號とを左に示す。

天	天福本	
冷	冷泉爲和筆本	宮内省圖書寮藏
玄	法橋玄津筆本	架藏
道	道遙院筆本	三條西伯傳家藏
實	三條西實隆筆本	同
三	三條西本	同
紹	紹巴本	同

東大國文學研究室本

東京帝國大學國文學研究室藏

色川本

靜嘉堂文庫藏

傳二條爲重筆本

三條西伯爵家藏

武田本

第四高等學校本

第四高等學校藏

岩瀨文庫本

岩瀨文庫藏

宮內省圖書寮本

宮內省圖書寮藏

傳尊應准后筆本

三條西伯爵家藏

高野本

高野辰之博士藏

流布本

千葉本

千葉胤明氏藏

七海本

七海兵吉氏藏

傳飛鳥井雅世筆本

宮內省圖書寮藏

山崎宗鑑筆本

架藏

傳明融筆本

倉野憲司氏藏

一條兼良本

架藏

傳四條隆重筆本

七海兵吉氏藏

奈良京物語

同

豐原統秋筆本

架藏

片假名書入本

同

傳飛鳥井雅俊筆本

同

古本

傳爲相筆本

七海兵吉氏藏

傳慈鎮爲家兩筆本

須田竹次郎氏藏

傳良經筆本

守屋孝藏氏藏

承久本

七海兵吉氏藏

傳飛鳥井榮雅書入本

架藏

傳慈鎮筆本

靜嘉堂文庫藏

肖	傳肖柏筆本	宮内省圖書寮藏
最	最福寺本	最福寺藏
時	時頼本	最明寺藏
大	大島本	大島雅太郎氏藏
神	神宮文庫本	神宮文庫藏
塗	朱雀院塗籠本	
不	不忍文庫本	大島雅太郎氏藏
群	群書類従本	架藏
丹	丹表紙本	同
眞	眞名本	
内	内閣文庫本	内閣文庫藏
桂	桂宮本	宮内省圖書寮藏
九	九條本	架藏

天明本

架藏

一 諸本に於ける章段の配列とその有無

伊勢物語は諸本によつて章段に出入があり、且その配列も種々異なるを以て、本書の校本に於ては、底本にあつて諸本にない章段を各々その條下に此段ナシと記し、底本にない章段は「定家本に見えずして他本に見ゆる章段」として、それぞれ別に卷末に掲げることとした。又諸本に於ける各段の配列順位は明かに示して置かなかつたが、この章段の有無や順位は、伊勢物語系統論上に重要なものであるから、別に「伊勢物語諸本章段對照表」として掲げることとした。

一 諸本に示されたる校異の取捨

諸本中本文に補訂を加へ、或は校合書入を施したものは、第一書寫の際生じた誤謬を原本によつて訂正したと認められるもの、第二他本との校合の結果を示したものの、第三私案を記載したと考へられるものの三種がある。本書の校合に於ては第一以外のものは之を採らないこととし、第二の場合に於ても「イ」イ本或は「何本」と他本との校合の結果なることを明記しないものに限り特に左の如き符號によつてこれを示した。

イ 補入 簡單なものは補入の文字の左傍に○を附してこれを示し、長いものや特に補入の場所を詳細に示す必要がある場合には、一々その旨を斷ることとした。例へば

まされり 眠毛爲何
女かゑし(ふたりしてノ歌ノ右肩ニ書入レタリ)

ロ 見せけち 見せけちの部分は左に傍線を引いてこれを指示し、若しその右傍に書入れある場合は括弧内にこれを示した。左の例の上は原形であり、下は本校本のよつた形式である。

むかしの人は——むかしの人は
あらさらけらし——あらさら(り)けらし

ハ 並列 本文と書入とがそのまま並列してある場合には、本文の右に・を附し、書入の部分は之を括弧内に收める事とした。

カヘリニケリ——カヘ(エ)リニケリ
書入が朱筆なる場合には「朱」と記してその由を斷ることとした。

一 本書に於ける校異の取捨

イ 語句の相違 底本と諸本との語句の相違はたとへ誤謬と思はれるものも一々拾録して漏らさざらんことを期し、左の如き方法を以てこれを示した。即ち先づ相違のある本の系統を示す略號(例へば「天流古等」)を記し、底本の行數を符號(例へば①②③等)を以て表し、次に底本の語句を再録して、その直下に異本の語句を擧げて底本と如何なる相違あるかを對照して示すこととした。例へば

流 ⑦しのふのみたれしのみもみたれ雅

古 ⑧いちはやきいちはやく慈

もし底本の語句の他本に見えざる時は、例へば

流 ②その女世人にはまされりけりナシ豊

やや長き時には、例へば

塗 ⑥このうたは以下はらにあちはひてマデナシ不群丹

校異が同系統の數本に互つて一致する場合には、その本の略號を列記することとし、例へば

武 ①むかし人はむかしは四岩

塗 ①おとこ男ありけり不群丹

底本との校異が同系統の本に於て異なる場合には次の如くした。

大 ④かれはなにそとなんかれはなにそと大あれはなに

そとなむ神

□ 假名遣の相違 諸本に於ける假名遣の相違は總て之を擧げる

こととした。例へば

いほり——いをり かは——かわ

おとこ——をとこ をんな——おんな

かへし——かえし——かゑし

これを示す方法は語句の場合に準ず。但し漢字の間に「の」を入れて讀む習慣あるもの、例へば

梅花——むめの花

世中——世の中

二條后——二條の後

などは「の」の有無を一々掲げず。又活用語に於て語尾を送るものと送らないものといづれも一々斷らないことにした。例へば

思ひて——思て

給ふ——給

申す——申

ハ 漢字と假名の區別

漢字と假名とは特別の場合の外これが異

同を示さないことを原則とした。例へば

昔——むかし 衣——ころも

春——はる 月——つき

等は無論、假名遣に關係あるものにあつても

猶——なを 官——くわむ

思ふ——おもふ

の如く諸本に於て「なほ」「くはん」をもふと使はれる例のない字はもとより擧げないこととした。又

庵——いほり 河——かは

男——おとこ 女——をんな

返し——かへし

等も擧げないこととした。但し次の様に底本と異つた假名遣の場合、例へば

庵——いをり 河——かわ

男——をとこ 女——おんな

返し——かえし——かゑし

又本によつて別の読み方のある場合、例へば

我——われ——わか

右の如きは一々その異同を記することを原則とした。

ニ 漢字の異體字と通行字

漢字の異體字は出來得る限り改めた

ので、異體字と通行字は、特に校異を出さざることを原則とし、如何なる異體字、通行字のあるかは、別に表として掲げた。

ホ 假名の異體

異體の假名は印刷の都合上悉く現行普通の字體

に改めたので、異體との相違はこれを擧げないこととした。従つて平假名と片假名とも區別しない方針を取つたが、時頼本からの引用は大部分原本通り片假名によることとした。次に「む」と「ん」とは區別せず、「つ」と「つ」なく、「く」と「く」なくのやうにをどり點を用ゐたる

と用ゐざるとの差異も亦之を省略した。

へ 聲點 聲點はすべて載せないこととした。

ト 勘物 底本の行間並に卷末に存する勘物はまとめて後に掲げ
たが、前者に於ては底本の如何なる語句に對する註であるかを括弧
内に説明し、その語句の所在は頁數例へば四・一六・二六等行數例へば
⑩⑬⑭等によつて明かにした。但し他本の勘物との校異は一切舉
げないこととした。

チ 本文の同一 底本と冷泉爲和筆本とはきはめて密接な關係が
あり、系統論上重要なを以て、特に注意をうながすために、補入見せ
けち等の形態の同一までも之を擧げることとした。例へば

天 ⑫のほりぬか[○]かたはに[○]のほりぬか[○]かたはに冷
天 ①いひちき^レり^レける^レいひちき^レり^レける冷

上卷(校本篇) 目次

伊勢物語校本	一
目次	一
本文	三
勘物	三九
校異を出さざる異體字並に通用字の表	三七
伊勢物語諸本章段對照表	三九
伊勢物語和歌索引	三六七
伊勢物語古寫本聚影
目次
圖版

伊勢物語校本

伊勢物語校本目次

一	むかしおところるかうふりして	三
二	むかしおところ有けりならの京は	六
三	むかしおところありけりけさうしける女の	八
四	むかしひんかしの五條に	一〇
五	むかしおところ有けりひんかしの五條わたり	一三
六	むかしおところありけり女のえうましかりけるを	一五
七	むかしおところありけり京にありわひて	二二
八	むかしおところ有けり京やすみうかりけん	二三

三	むかしおとこつのかくに	八九
四	むかしおとこつれなかりける人の	九二
五	むかし心にもあらて	九三
六	昔わすれぬるなめり	九四
七	昔おとこ色このみなりける女に	九五
八	むかしきのありつねかりいきたるに	九七
九	むかし西院のみかと	一〇一
一〇	昔わかきおとこ	一〇六
一一	昔女はらから	一〇九
一二	昔おとこ色このみとしるく	一一一
一三	むかしかやのみこ	一一四
一四	むかしあかたへゆく人に	一一四

一五	むかしおとこ有けり人のむすめの	一二六
一六	むかしおとこいとるはしき友	一二〇
一七	むかしおとこねんころに	一二三
一八	昔おとこ有けりむまのはなむけ	一二三
一九	むかしおとこいもうとの	一二四
二〇	昔おとこ有けりうらむる人を	一二六
二一	昔おとこ人のせんさいに	一二八
二二	むかしおとこありけり人のもとより	一二九
二三	むかしおとこあひかたき女に	一三一
二四	昔おとこつれなかりける女に	一三三
二五	むかしおとこ思かけたる女の	一三三
二六	むかしおとこふして思ひ	一三四

八

八 むかし左のおほいまうちきみ……………二〇五

八 三 むかしこれたかのみこ……………二〇九

八 三 三 むかしみなせに……………二一八

八 四 むかしおとこ有けり身はいやしなから……………二三四

八 五 昔おとこ有けりわらはより……………二三七

八 六 昔いとわかきおとこ……………二三二

八 七 むかしおとこ津のくにむはらのこほり……………二三三

八 八 昔いとわかきにはあらぬ……………二四一

八 九 むかしいやしからぬおとこ……………二四三

九 〇 むかしつれなき人を……………二四四

九 一 むかし月日のゆくをさへ……………二四五

九 二 むかしこひしさに……………二四六

九 三 むかしおとこ身はいやしくて……………二四七

九 四 むかしおとこ有けりいかゝありけむ……………二四九

九 五 むかし二條の后に……………二五二

九 六 むかしおとこ有けり女をとかくいふこと……………二五四

九 七 むかしほり河のおほいまうちきみ……………二六〇

九 八 昔おほきおほいまうちきみ……………二六一

九 九 むかし右近の馬場の……………二六三

一〇〇 むかしおとこ後涼殿の……………二六五

一〇一 むかし左兵衛督なりける……………二六六

一〇二 むかしおとこ有けりうたはよまさりけれと……………二七〇

一〇三 むかしおとこ有けりいとまめに……………二七二

一〇四 むかしことなることなく……………二七四

九

一五 むかしおとこかくてはしぬへし 二七六

一六 昔おとこみこたちの 二七七

一七 むかしあてなるおとこありけり 二七八

一八 むかし女ひとの心を 二八四

一九 むかしおとこもたちの 二八五

二〇 むかしおとこみそかに 二八六

二一 昔おとこやむことなき女のもとに 二八七

二三 むかしおとこねむころに 二八九

二三 昔おとこやもめにてゐて 二九〇

二四 むかし仁和のみかと 二九一

二五 むかしみちのくにゝておとこ女 二九四

二六 むかしおとこすゝろに 二九六

二七 むかしみかど住吉に 二九七

二八 昔おとこひさしくをともせて 二九九

二九 むかし女のあたる 三〇〇

三〇 昔おとこ女のまた世へす 三〇一

三一 むかしおとこ梅壺より 三〇二

三三 むかしおとこちきれること 三〇四

三三 むかしおとこありけり深草に 三〇四

三四 むかしおとこいかなりける事を 三〇六

三五 むかしおとこわつらひて 三〇七

定家本に見えずして他本に見ゆる章段

あめのいみしうふりくらして 三〇九

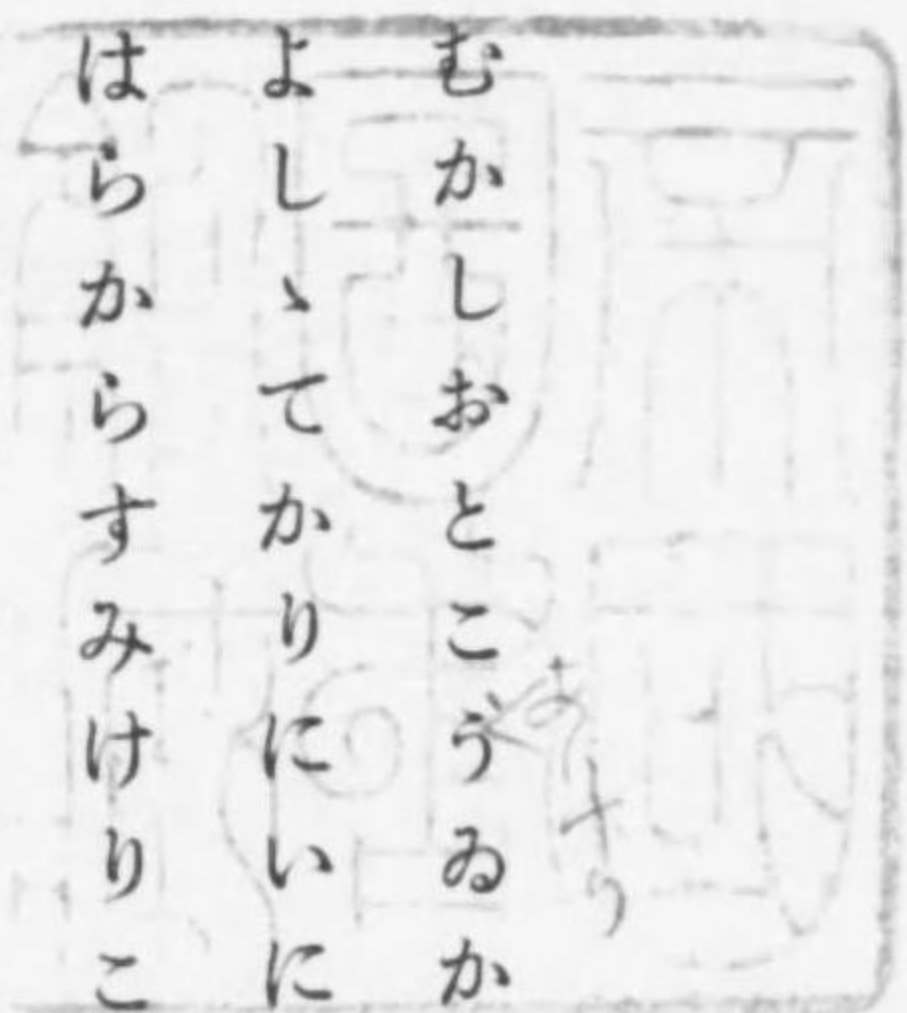
むかし女をぬすみて 三一〇

むかしおとこ女をきふし	三二一
いまの長願寺といふ所に	三二二
むかしおとこある人にしのひて	三二三
むかしありけるいろこのみける女	三二四
むかしおとこならの京に	三二五
をなしおとこ女のうゐもきけるに	三二六
むかしおとこえあふましかりける人を	三二六
むかしおとこすゝろなるみちを	三二七
むかしおとこすゝろなるところに	三二八
むかしありはらの行平	三二九
むかしおとこありけりわりなきことを	三三〇
むかし物おもふおとこ	三三一
むかしいろこのむ人ありけり	三三二
むかしすき物ともあつまりて	三三三

むかしおとこはるかなるほとに	三三四
むかし色このみたへにし人の	三三四

本

文



1 ちむかしおとこ^あうの^あか^あう^あふりしてならの京かすかのさとにしる
 2 よしゝてかりにいにけりそのさとにいとなまめいたるをんな
 3 はらからすみけりこのおとこかいまみてけりおもほえすふる
 4 さとにいとはしたなくてありければこゝちまとひにけりおと
 5 このきたりけるかりきぬのすそをきりてうたをかきてやるそ
 6 のおとこしのふすりのかりきぬをなむきたりける
 7 かすかのゝわかむらさきのすり衣しのふのみたれかきりし
 8 られすとなむをいつきていひやりけるついでおもしろきこと
 9 ゝもや思けん

みちのくの忍もちすりたれゆへにみたれそめにし我ならな 10
くにといふうたの心はへなりむかし人はかくいちはやきみや 11
ひをなんしける 12

武 ⑧をいつきて―をひつきて ⑩むかし人は―むかしは四岩

流 ⑦しのふのみたれ―しのふもみたれ雅 ⑧をいつきて―をひつきて七明奈片 ついておもしろきことゝもや思

けん―つゐておもしろきことゝもや思けん隆―ついでおもしろきことゝもや思けん七 ⑩むかし人は―むかしの

人は七

古 ①此一段落丁相 第一段ヨリ第七十段マデヲ缺ク良 うゐるかふり―うひかふり宵―うゐるかふり最 ②いに

けり―いき(に)けり爲―ゐにけり榮―ゐに(いき)けり最 いとなまめいたる―いとなまめいたる最 ③このお

とこ―かのおとこ最―ソノオトコ時 かいまみてけり―かゐまみてけり最 おもほえず―ヲモホエス時 ④お

とこの―をとこの爲―おとこ承 ⑤けるかりきぬの以下第二段ならの京ははなれこの迄切取ラレテナシ最 ⑧

をいつきて―をひつきて榮―おひつきて宵 ついておもしろきことゝもや思けん―つゐておもしろきことゝも

やおもひけむ爲―ついでおもしろきことゝもやおもひけむ承宵時 ⑩たれゆへに―たれゆえに爲時 ⑪心はへ―

コ、ロハエ時 むかし人は―むかしの人は爲―むかしの人は宵 いちはやき―いちはやく慈

①うゐるかふり―うゐるかふり大神 ②いにけり―いきけり大神 なまめいたる―なまめきたる大 ③このおと

大

こ―かのおとこ大神 かいまみてけり―かいはみてけり大―かひはみてけり神 おもほえず―をもほへす神

④おとこの―おとこ神 ③いひやりける―やれりける大―いひやりける神 ついておもしろきことゝもや思

けん―つひておもしろき事とやおもひけん大―おもしろきことゝもやおもいけむ神 ⑩たれゆへに―たれゆえに

神 みたれそめにし―みたれそめけん大 ⑪心はへ―こゝろはえ大 むかし人―むかしの人大神

①おとこ―男ありけり不群丹 うゐるかふり―うひかふり不―うゐるかふり群丹 ②いにけり―いきけり不群丹

いとなまめいたる―いとなまめきたる不群丹 をんなはらから―をむなはら不群丹 ③このおとこ―かのを

とこ不―かのおとこ群丹 かいまみてけり―かゐまみてけり不 ④いとはしたなくて―いともはしたなく不群

丹 おとこの―男不群丹 ⑥おとこ―をとこ不 ③いひやりける―やれりけるとなんいひつきてやれりける不

群丹 ついておもしろきことゝもや思けん―おもしろきことゝもや不群丹 ⑩みちのくの―みちのくに不群丹

たれゆへに―たれゆえに不 みたれそめにし―みたれそめけむ不群丹 ⑪心はへ―こゝろはえ不

盗

昔男裏頭爲而平城京春日郷知由爲而雁往遣利其郷爾最媚有女朋比住遣利此壯士垣間 1
見而遣利不所念古郷爾最强而有希禮波心地迷爾遣利壯士著有遣留狩衣之裾乎鑽而歌 2
乎書而遣其壯士信夫摺之狩衣乎何著有計留 3
春日野廻釋紫摺衣信夫廻亂限不被知諾何云計留次面白言與乎將思 4
道奥廻信夫鉞摺誰故亂始似志吾不成莫爾諾云歌廻心齒得也往古人右壹早閑麗乎何 5

爲計留

眞

① 雁往遣利—雁爾往遣利天 壯士—壯夫天 ② 壯士—壯夫天 ③ 御紫—御紫天 信夫廻亂—信夫亂九

二 むかしおとこ有けりならの京ははなれこの京は人の家またさ 1
 たまらさりける時に、しの京に女ありけりその女世人にはま 2
 されりけりその人かたちよりは心なんまさりたりけるひとり 3
 のみもあらさりけらしそれをかのみめをとこうちものかたら 4
 ひてかへりきていかゝ思ひけん時はやよひのついたちあめそ 5
 をふるにやりける 6
 おきもせずねもせてよるをあかしては春の物とてなかめく 7
 らしつ 8

天

④ まめをとこ—まめおとこ色 ⑤ そをふるに—そほふるに紹

武流

④ まめをとこ—まめおとこ四岩宮尊高 うちものかたらひて—うちものかたらいて高
 ① 人の家—人のいゑ飛山一片 ② その女世人にはまされりけり—ナシ豊 まされりけりその人かたちよりは心
 なん—ナシ七 ④ まめをとこ—まめおとこ千七飛山明—陸奈豊片 ⑤ かへりきて—ナシ豊 そをふるに—そほ
 ふるに千—そほふるに七一豊

古

① おとこ—をとこ相 人の家—人のいへ承—人のいゑ慈時 また—いまた最時 きたまらさりける時に—きた
 まらさりしとき最—サタマラサリケルトキ時 まされりけり—まされりた(け)りける爲 ⑥ かたちよりは—か
 たちより最 ④ あらさりけらし—あらさら(り)けらし爲 まめをとこ—まめおとこ爲承榮慈 ⑤ かへりきて—
 かへりきて最 ついたち—つゐたち爲最 そをふるにやりける—そほふるにやりける承榮時—そほふるにや有
 けん背—そほふるにやりける最 ⑦ おきもせず—をきもせず最

大

① ならの京は—京はしまりけるときのならの京大—みやこのはしまりけるときのならのきやうは神 人の家—人の
 いゑ大—ナシ神 また—いまた大神 きたまらさりける時に—きたまらさりける時大 ② 京に—二字分不明大
 には—二字分不明大 まされりけり—まさりけり大神 ③ その人—その人なん大 まさりたり—まさりたり
 神 ④ まめをとこ—まめおとこ神 うちものかたらひて—うちものかたらいて神 ⑤ そをふるに—そほふるに
 大—そはふりけるに神 ⑥ やりける—やりける大—よみてやりける神 ⑦ おきもせずねもせて—をきもせず
 ねもせて大

塗

① ならの京は—みやこのはしまりける時ならのきやうは不群丹 また—いまた不群丹 きたまらさりける時に

八
 ① さまさらさきりける時不群丹 ② さまされりけりさまさりたりけり不群丹 ③ その人ナシ不群丹 さまさりたり
 さまされり不群丹 ひとりのみも一人所のみも不群丹 ④ かへりきてかゑりきて不 ついたちつひたち不
 そをふるにうちそほふりけるに不群丹 ⑦ おきもせずをきもせず不

昔男在計利寧良花洛者別此京者人之家未定計留時長安女在計利其女代之人爾者勝有
 計利其人從質心何勝有計留獨耳爾毛不有計羅志其乎彼斂夫打物語而還來而如何將念
 時彌生朔雨曾保零爾遣計留

寤不爲寐不爲夜留乎明而者春魂左長雨晚津

眞 ② 將念一將思天 ④ 寐不爲一寤不爲天

三 むかしおとこありけりけさうしける女のもとにひしきもとい
 ふものをやるとて 1

四 思ひあらはむくらのやとにねもしなんひしきものにはそて
 をしつゝも二條のきさきのまたみかともつかうまつりたま 2 3 4

はてたゝ人にておはしましける時のこと也 5

天 ③ むくらのやとにむくらかやとに重

流 ① ひしきもといふものをひしきものを干

古 ① おとこをとこ最 ひしきもといふものをひしきものといふものを背ヒシキモトイフヲ時 ③ そてをし
 つゝもそてをしもつゝ慈 ④ つかうまつりたまはてツカフマツリ給ハテ時 ⑤ おはしましけるをはしけ
 る最一ヲハシマシケル時

大 ① ひしきもといふものをひしきといふものを大ひしきものといふものを神 ④ 二條のきさき一五條のきさ
 い大 またいまた大 つかうまつりたまはてつかうまつらて大つかうまつりたまはて神 ⑤ にて一

字不明大 おはしましけるをはしける大

塗 ① おとこをとこ不 ひしきもといふものをひしきといふものを不群丹 ④ 二條のきさき一五條后不群丹
 またいまた不群丹 つかうまつりたまはてつかうまつらて不群丹 ⑤ おはしましけるおはしける不群丹

昔男在計利假性爲計留女許爾網裳與云物乎遣左

有念者葎屋戸爾眠毛爲何引敷物爾者袖乎爲爾裳二條后宮末帝爾毛祇承不賜直人爾

而御坐計留時事與社

眞 ① 網裳一網裳天 ② 眠毛爲何一眠毛爲何天

四 むかしひんかしの五條におほきさいの宮おはしましけるにし
 のたいにすむ人有けりそれをほいにはあらて心さしふかゝり
 けるひとゆきとふらひけるをむ月の十日はかりのほとにほか
 にかくれにけりありところはきけと人のいきかよふへき所に
 もあらさりければ猶うしと思ひつゝなんありける又のとしの
 む月にむめの花さかりにこそをこひていきてたちてみるてみ
 れとこそににるへくもあらすうちなきてあはらなるいたし
 きに月のかたふくまでふせりてこそを思いてよめる
 月やあらぬ春や昔のはるならぬわか身ひとつはもとの身に
 してとよみて夜のほのくくとあくるになくくかへりにけり
 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

武 ⑦うちなきて―うちなきて高
 ⑧おほきさいの宮―おほきさいの宮の千雅 ⑨ふかゝりけるひと―ふかゝりける人の豊 ⑩いきかよふへき―

古

ゆきかよふへき飛山明一片 ⑥むめの花さかりに―むめの花のさかりに千 たちてみるてみれと―立てみる
 てみれと千七 ⑧ふせりて―みふせりて奈 ⑩かへりにけり―かへりにける片
 ①むかし―むかしをとこ最 おほきさいの宮―おほきさいの宮の相爲榮―おほきさいの宮の最―ヲホキサイノ
 宮ノ時 おはしましける―おはしましけり宵最―ヲハシマシケル時 ②たい―たる最 ほいには―ほるには最
 ―ホニハ時 ③ゆきとふらひけるを―ゆきとふらひける最 十日はかりのほとに―十日はかりに宵 ④きけと
 ―きゝけれと榮 いきかよふへき―ゆきかよふへき最 ⑤ありける―ナシ時 ⑥むめの花さかりに―梅の花の
 さかりに最 いきて―いきてみ慈 たちてみるてみれと―たちてみるみれと慈―たちていみれと最―タ
 チテミキテミレト時 ⑦こそに―こそには爲 ⑧かたふくまでふせりてこそを―かたふくまでふせりてこそを
 爲 ⑩夜の―ナシ最 なくくかへりにけり―なくくかへりにけり最―ナクナクカヘ(エ)リニケリ時

大

①おほきさいの宮―おほきさいの宮の大 神 おはしましける―はしましける大 ②ほいには―ほには神 ③
 十日はかりのほとに―とをかはかり大―とうかはかり神 ほかに―はかに神 ④いきかよふへき―きよる大―
 いきよるへき神 ⑤思ひつゝ―おもひて神 ⑥むめの花さかりに―まへのむめのはなさかりなるに大―まへの
 むめのはなさかりなるを神 たちてみるてみれと―みれと大神 ⑦こそに―こそには大 ⑧かたふくまでふ
 せりてこそを思いてよめる―かたふくまでふせりてこそを思ひいてよめる大 ⑩あくるになくくかへり
 にけり―あくるになむなくくかへりにける二條のきさきとを神 くる―二字分不明大

塗

①おほきさいの宮―おほきさいの宮の不―おほきさいの宮の群丹 ②心さしふかゝりけるひとゆきとふらひけ

古

①おとこ—をとこ相 ②みそかなる所—人しけくもあらねはみそかなるところ最 かとよりもえいらて—かと
 よりえいらて最—カトヨリシモエイラテ時 わらはへ—わらは最 ③ついひち—つひち爲慈—つひち榮宵時—
 つひち最 かよひけり—かよひける慈 ひとしけくもあらねと—ひとしけくもあらねとも宵—ナシ最 ④すへ
 て—すゑて相承宵時 いけともえあはて—いけともえあはて爲慈最時—いけともえあはて榮 かへりけり—かへ
 りにけり最—カヘ(エ)リニケリ時 ⑧とよめりければ—とよみければ承—トヨミ(メリ)ケレハ時 ⑨いといたう
 —いといたく慈—いといたふ最 あるし—るし不明最 ⑨を—ナシ承 ⑩せうとたちの—せうとたち最

大

②かとよりもえいらて—かともいらて大神 ③ついひち—ついひち神 かよひけり—ありきける神 ひとし
 けくもあらねと—ひとたかしからねと大—人たかしくもあらねと神 ④たひかさなり—たひかさなりに神 ⑤
 いけともえあはて—かのおとこえあはて大—おとこえあはて神 かへりけり—かへりにけり大神 ⑥さてよめ
 る—さてつかはしける大 ⑨二條のきさき—五條のきさき大神 世のきこえありければ—ほのきこえありけれ
 は大—よのきこえありければ神 ⑩とそ—とそなん大

差

①しのひて—忍不群丹 ②みそかなる—しのふ不群丹 えいらて—いらて不群丹 わらはへのふみあけたる—
 ナシ不群丹 ③ついひち—ついひち不群丹 ひとしけくもあらねと—人たかしくもあらぬと不—人たかしくもあ
 らねと群丹 ④すへて—すゑて不 いけともえあはて—かの男えあはて不—かのおとこえあはて群丹 かへり
 けり—かへりにけり不—かへりにけり群丹 ⑥よめる—つかはしける不群丹 ⑦とよめりければ—とよみける
 をきゝて不群丹 心やみけり—えんしける不—えんしける群丹 ⑧二條のきさき以下ナシ不群丹

昔男在計利東五條渡爾最忍而往計利儉在所成波從門毛得不入偃子蹈開有計留從築牆
 悉通計利人集雖不有與每重計禮者主聞付而其通路爾每夜人乎居而守爲氣禮波彼男往
 與得不相還計利然讀

人爲被知吾通路關守者宵々殊内毛眠勿何諾讀計禮者最痛心病計利主繼而計利二條
 后宮爾偃而參計留乎余聞在計禮波背人達守爲給計留常社

眞 ②重計禮者—重計禮九 彼男—男天 ⑤余聞在計禮波—余聞在計禮者(波)天 背人達—皆人達九

六 むかしおとこありけり女のえうましかりけるをとしをへてよ 1
 はひわたりけるをからうしてぬすみいて、いとくらきにきけ 2
 りあくたかはといふ河をみていきければ草のうへにをきたり 3
 けるつゆをかれはなにそとなんおとこにとひけるゆくさきお 4
 ほく夜もふけにければおにある所ともしらて神さへいといみ 5
 しうなりあめもいたうふりければあはらなるくらに女をはお 6

くにをしいれておとこゆみやなくひをおひてとくちにをりは
 や夜もあけなんとと思つゝゐたりけるにおにはやひとくちにく
 ひてけりあなやといひけれと神なるさはきにえきかさりけり
 やらゝ夜もあけゆくにみればゐてこし女もなしあしすりを
 してなけともかひなし

しらたまかなにそと人のとひし時つゆとこたへてきえなま
 しものをこれは二條のきさきのいとこの女御の御もとにつか
 うまつるやうにてゐたまへりけるをかたちのいとめてたくお
 はしけれはぬすみておひていたりけるを御せうとほりかは
 のおとゝたらうくにつねの大納言また下らうにて内へまいり
 たまふにいみしうなく人あるをきゝつけてとゝめてとりかへ
 したまうてけりそれをかくおにはいふなりけりまたいとわ

かうてきさきのたゝにおはしける時とや

天

②きけり―ナシ東―きにけり重 ⑨神なる―神なり東 ⑭とりかへしたまうてけり―とりかへし給てけり紹
 とりかへしたまふてけり東重 ⑮時とや―時とかや東

武

②きけり―きにけり岩―きにけり高 ③河―かわ高 ④ゐていきけれは―ゐてきけれは尊 ⑤いたう―いたふ高
 ⑦ゆみやなくひを―ゆみやなくひ尊 とくちにをりはや夜も―とくちにをりはや夜もあけなむと思つゝとくち
 にをりはや夜も四 ⑧ゐたりけるに―ゐたりける高 ⑨さはき―さわき高 ⑩ゐてこし―いてこし高 ⑪おは
 し―おし四岩尊高 ⑫とりかへしたまうてけり―とりかへしたまふてけり高 ⑬時とや―時とかや尊

流

①としをへて―としへて千明 ②きけり―きにけり奈 ③あくたかはといふ河―あくた川といふかは豊 ④
 いきけれは―いていきけれは明 をきたりける―置きける明奈 ⑤つゆを―露は豊 おほく―とをほく千 ⑥
 神さへ―いとかみさへ明 ⑦いとみしう―いみしう千明―いとみしく山―いとみしふ片 ⑧いたう―いた
 ふ片 ⑨をしいれて―おしいれて隆雅 おひて―をひて千豊 をり―おり雅 ⑩あなやと―あやなと飛 ⑪ゐ
 てこし―いてこし雅 ⑫なけとも―なけと飛 ⑬きえなまし―けなまし千 ⑭つかうまつる―つかふまつる片
 ⑮おはしけれは―おはしましけれは豊 ⑯おひて―をひて豊片 ⑰ほりかはのおとゝ―をり河のおとゝ明―ほり
 かはのをとゝ七 ⑱とりかへしたまうてけり―とりかへし給てけり七隆豊―とり返し給てけり明奈 ⑳いと
 わかうて―わかうて千―いとわかふて片 ㉑時とや―時とかや千七飛山明一奈片

古

①ありけり―ありける最 女のをうましましかりける―女のをうましましかりける榮―女のをうましましかりける女最 と

しをへて—としへて最 ②からうしてぬすみいていとい—からふしてぬすみいて最 きけり—きける慈—いきけり最 ③あくたかはといふ河—あくたかはといふかは承 ゐていきければ—いていきければ爲榮—おいていきければ宵 うへ—うゑ最 をきたりける—をきたる慈 ④つゆを—露をみて最 かれはなにそとなん—カ (ア朱)レハナニツト時 おとこにとひける—をとこにとひける相—おとこにとひければ慈—いひけり最 ゆくさきおほく—さきとをく最—ユクサキヲホク時 ⑤おに—をに爲最時 神さへ—かみさ元爲時—神なる慈—神も宵 ⑥女をは—女を爲 おく—をく最 ⑦をしいて—おしひいて爲 おとこゆみやなくひをおひて—おとこゆみやなくひをひて爲榮—おとこやなくいゆみをひて最—男ユミヤナクヒヲヒテ時 とくちにをり—戸くちにおり榮—とくちにをる宵 ⑧むたりけるに—いたりけるに最 おに—をに爲最時 ⑨あなやと—あやなと宵 神なる—神のなる爲—かみのなる承 さはき—さわき最 えきかさりけり—えきかさりける慈 ⑩やう／＼夜もあけゆくに—やう／＼夜のあけゆくに相—よやう／＼明行に最 ⑪かひなし—かひなしさてなむ最 ⑫こたへて—コタエテ時 きえなまし—けなまし相榮時—け(きえ)なまし爲最—け(きえ)なまし承 ⑬二條のきさきの—二條のきさい(き)の承 つかうまつる—つかふまつる慈時 ⑭ゐたまへり—いたまへり最 おはし—をはし爲時 ⑮おひて—をいて爲時—をひて最 御せうと—御せうとの爲 ⑯おと—をと最時 内へ—ウチエ時 ⑰とりかへしたまうてけり—とりかへし給てけり爲—とりかへし給いてけり承—とりかへしたまうてける慈—とりかへしたまふてけり宵最—トリカエシ給フテケリ時 ⑱おに—をに最時 いふなりけり—いふなり宵 ⑲きさきのたゝに—きさきのたゝ人に承 おはしける—をはしける最時 時とや—ときとかや承—ときとかや榮—時とかや宵時

大

とかや榮—時とかや宵時
 ①女のえうましかりけるを—女のおふましかりけるを大—えうましかりけるをむなを神 としをへて—としへて神 ②からうしてぬすみいて—からうして女こゝろをあはせてぬすみいて—大—からうしてをむな心あはせてぬすみ出て神 きけり—きにけり大 ③あくたかは—あくたかわ神 河—かは大—かわ神 ゐていきければ—いていきければ大—ゐてゆきければ神 ④かれはなにそとなん—かれはなにそと大—あれはなにそとなむ神 おとこにとひける—とひければをとこ大 ゆくさきおほく夜もふけにければ—ナシ大 ⑤おに—をに大神さへ—かみさ元神 ⑥女をは—おむなをは神 おく—をく大 ⑦おとこゆみやなくひをおひて—おとこはゆみやなくひを—いて大—おとこはゆみやなくひをおひて神 ⑧おに—をに大神 くひてけり—くひてけり神 ⑨神なる—神のなる大神 えきかさりけり—えきかさなりにけり神 ⑩やう／＼夜もあけゆくに—やう／＼夜のあけゆくに大 あしすりをしてなけとも—あしすりをしても大 ⑪とひし—といし神 こたへて—こたえて大 きえなまし—けなまし大—きへなまし神 ⑫二條のきさき—二條のきさい大 御もとに—もとに神 つかうまつる—つかうまつり人の大神 ⑬ゐたまへり—ゐたり神 かたちの—かたち大 めてたく—めてたく神 おはしければ—をはしけるを大—おはしけるを神 ⑭おひて—をうて大—おひて神 いてたりけるを—いてたりけるに神 ほりかはのおと—たらう—ほりかはの大将太郎もつねのをと—大—ほりかはの大将たらうもつねのおと—と神 ⑮なく人—なく人の大神 とりかへしたまうてけり—とりかへし給ひてけり大神 ⑯おに—をに大 いふなりけり—いへるなり大神 またいと—いと神 ⑰きさきのたゝに—たゝにてきさいの大—た

にきさきの神 おはしけるをばしける大おはしましける神 時とやとさきの事とそいとこの女御はそめとのきさきなり大とさきとかや神

塗

①女のえうましかりけるををんなのえあふましかりけるを不女のえあふましかりけるを群丹 よはひわた
りけるをいひわたりけるに不群丹 ②からうしてぬすみてからうしてをんなのこゝろあはせてぬすみ
て不群丹 ③いとくらきにナシ不群丹 ④きけりいてにけり不群丹 ⑤うへうを不をきたりけるをきた
る不群丹 ⑥ゆくさきおほく夜もふけにければゆくさきはいとほくよもふけければ不群丹 ⑦神さへいと
いみしうなり雨いたうふり不群丹 ⑧あめもいたうふりければかみさゑいといみしうなりければ不神さ
へいといみしうなりければ群丹 ⑨くらにのありけるに不群丹 おくをく不 ⑩をしいておしいれ
て群丹 とくちにをりとくちに不群丹 ⑪るたりけるにいたりけるほとに不るたりけるほとに群丹 ひ
とくちにをんなをはひとくちに不群丹 ⑫あなやとあやと不群丹 神なるかみのなる不群丹 えきか
さりけりゑきかさりけり不 ⑬やうく夜もあけゆくにやうく夜のあけゆくを不群丹 ゐてこしいて
こし不 女もなし女なし不群丹 あしすりをしてなけともあしすりしてなけと不群丹 ⑭こたへてこた
ゑて不 きえなましけなまし不群丹 ⑮いとこ御いとこ不群丹 御もとにもとに不群丹 つかうまつる
つかうまつりひとの不群丹 ⑯るたまへりいたまへり不 めてたくめてたう不群丹 ⑰おひてナシ不
群丹 御せうと御せうとの不群丹 ほりかはのおとたらうほりかはの大将もつねの不群丹 ⑱また
なとのいまた不群丹 ⑲なく人なく人の不群丹 とめてナシ不群丹 とりかへしたまつてけり

系したまひてけり不とりかへしたまひてけり群丹 ⑳おにをに不 いふなりけりいゑるなり不いへる
也群丹 またいまた不群丹 ㉑きさきのためたにたにきさきひの不群丹

昔男在計利得不獲借計留人乎歳乎歴而夜這渡計留爾幸爲而女心合而蓋出而最闇爾將 1
往計利灰汁田河與云河乎往計禮波草上爾置有計留惠澤乎是者何社常何夫爾問計留乎 2
行前遠夜終爾計禮者鬼在所友不知神副甚忌敷鳴雨毛痛零計禮者亭有倉爾女姑奧爾押 3
入而夫者弓箭負而戸口爾居早夜毛明何爲與思乍居有計留爾鬼速一口爾悔而計利穴哉 4
常雖云神鳴騷爾得不聞計利漸夜毛明行爾見者將來志女毛無葦摺乎師傳雖哭甲斐無 5
白玉歟何社與人適所問居露興應而消勝魂乎是者二條後宮從父兄女女御御許爾祝承 6
樣爾而居給經利氣流乎容貌適最妙栲御坐計禮波盜而負出有計流乎御背人堀河大將太 7
郎基經國經大納言未下廊爾而裏江參給路爾忌敷哭人適在計流乎聽付而留而取返而御 8
坐計留其乎是鬼與波云經流也計利未最稚而后宮適且爾御坐計流節之事也 9

眞 ①心合而蓋出而心合蓋出而九 ②悔而計利悔而計利内悔而計留九 ③見者見禮者内見禮者九
天 ④消勝魂乎消勝勝魂乎天 ⑤聽付而留而取返而聽付而留取返而天

七むかしおとこありけり京にありわひてあつまにいきけるにい 1

せおはりのあはひのうみつらをゆくに浪のいとしろくたつを
みて 2

いと、しくすきゆくかたのこひしきにうら山しくもかへる 3

なみかなとなむよめりける 4

武 ①おとこありけり京に—おとこありけり京に宮 ④すきゆくかたの—すきにし方の尊
②浪の—なみ千 しろく—しろく七隣—しろふ片 5

古 ①むかし以下たつをみて迄ナシ慈 おとこ—をとこ最 ありわひて—すみわひて最 あつまに—あつまへ宵
②おはり—をはり爲時 あはひの—ナシ最—アハイノ時 ④すきゆくかたの—スキニシカタノ時 かへる—カ
へ(エ)ル時 ⑤となむよめりける—となんよめりけり爲宵 6

大 ①あつまに—あつまへ大神 いきけるに—ゆきけるに大 ②おはり—をはり大 あはひの—あわひ大 しろく
—しろく大神 ⑤となむよめりける—となんよみける大 7

差 ①あつまに—あつまへ不群丹 いきけるに—ゆきけるに不群丹 ②おはり—をはり不 たつをみて—たちかへ
るをみて思ことなきならねはをとこ不—たちかへるをみておもふ事なきならねはおとこ群丹 ④すきゆくかた
の—すき行かたの不 かへる—かゑる不 ⑤となむよめりける—ナシ不群丹 8

昔男在計利花洛爾在侘而熱間江往計流爾妹背尾張境廻海頭乎行爾浪最白立乎視而 1

最敷過往方之戀敷爾浦山敷毛還並哉諾讀利計流 2

眞 ②還並哉—還直哉内桂九天 諾讀利計流—諾何讀利計流内桂—諾何讀利計留九 3

八 ①あつまに—あつまへ大神 いきけるに—ゆきけるに大 ②おはり—をはり大 あはひの—あわひ大 しろく
—しろく大神 ⑤となむよめりける—となんよみける大 4

すみ所もとむとて—ともとする人ひとりふたりしてゆきけりし 5

なの、くに、あさまのたけにけふりのたつをみて 6

しなのなるあさまのたけにたつ煙をちこち人のみやはとか 7

めぬ 8

天 ④とかめぬ—とかめむ(又)色 9

古

かゝて飛 すゝろなる―すゝなる雅 思ふに―おもふ千七飛山一片 ⑮みちは―道には七 いまするといふ
 を―いまするといふを― ⑰京にその人の―その人の七 ⑲しろう―しろふ片 ⑳しもつふさ―しもつさ千
 ⑳あり―有けり隆 ㉑かきりなくとをくも―かきりなくとほくも千 ㉓はしとあしと―はしとあしとの豊 ㉕
 おほきさなる―おほきさなるか七 いをくくふ―いほをくふ山 ㉗名にしおは―名にしほは、飛片 ㉙
 ①おとこ―をとこ最 えうなき―よ(え)うなき爲―えうなき最 思なして―思ヒテ時 ②方に―かたへ宵 ゆ
 きけり―いきけり最時 ③いきけり―ナシ最 みちしれる人もなくて―道しれりける人もなくて爲―みちしれ
 る人ひとりもなくて承宵 道しれりける人もなくて榮―みちしれりける人ひとりもなくて最 ④やつはしと
 いひける―八橋とはいひける爲承榮慈宵時 ⑦さはのほとりの―さわのほとり最 木のかけに―キノカケニ時
 おりゐて―をりゐて爲時 ⑧かれいひ―かれぬ最 ⑨くひけり―クイケリ時 さはに―さわに最 ⑩おもしろく―
 ヲモシロク時 さきたり―さきたりけり宵 それをみて―それを最 ある人のいはく―ある人のいわく最 ⑪
 すへて―すゑて爲承宵時 たひの心をよめ―たひの心は元あるうたよみて最 ⑫たひをしそ―旅おしそ宵 ⑬
 ⑭かれいひ―かれぬ爲―かれぬ最―カレイキ(ヒ)時 うへ―うゑ最 なみたおとして―涙をととして爲最時 ⑮
 ゆき―て―ゆきて―て最 うつの山に―ウツノ山へニ時 ⑯みちは―みち最 ⑰いとくらう―いとくらふ宵
 ⑱イトクラク時 つたかえてはしけり―つたかへてはしけり爲―つたかへてはしけり承―つたかゑての葉し
 けりて最 ⑲すゝろなるめをみることを―すそろなるめをみると最 思ふに―思ふ爲承慈時 ⑳みちはいかて
 か―みちにはいかて最 ㉑みしひと―もとみし人宵 御もとにとて―もとにとて承宵時―かたへ最 つく―こ

大

とつく宵 ⑲人にあはぬ―君(人)にあわぬ最 ㉑さ月のつこもりに―さ月のつこもり宵最 しろうふれり―し
 ろうふれり慈―しろくふれり承宵―しろうふりけりこれをみて最 ㉓ふるらん―ふりなむ慈 ㉕その山は―そ
 の山を宵時 たとへは―タトエハ時 ㉗しほしりのやうになん―しほしりのやうになん承 ㉙ゆき―て―ゆ
 きて慈―ゆきて―て最 武藏のくにと―武藏の國と榮 しもつふさのくにとの―しもつさの國との爲最―し
 もつふさの國との榮 いとおほきなる―おほきなる最―イトヲホキナル時 ㉛あり―ありけり宵 その河―そ
 のかわ最 ㉝かきりなくとをくも―かきりなくとほくも相―かきりなくとをくも承―カキリナクモトヲクモ時
 わひあへるに―ワヒアエルニ時 ㉟おりしも―をりしも相時―おりに宵―をりに最 しろきとりの―しろきと
 り慈 はしとあしと―足はしと宵 あかき―あかきか最時 ㉑おほきさなる―ヲホキサナル時 うへ―うゑ最
 いをくくふ―いほ(を)をくふ承―うほをくふ榮宵―いほをくふに最―イヲ、クウ時 ㉓とひけれは―とへは最
 これなん―これはなむ宵 ㉕名にしおは―名にしをは、爲時―名にしほは、宵 富こ鳥―宮とり慈 ㉗とよ
 めりけれは―よめりけれは慈―とよみけれは最 なきにけり―なきけり最
 ①えうなき―よふなき大―ようなき神 思なして―思ひて大 ②京にはあらし―京にはを(あ)らし大―きやう
 にをらし神 すむへきくに―すむへきところ大 もとめにとて―もとめて神 ゆきけり―いきけり大神 ④み
 ちしれる人もなくて―みちしれりける人ひとりもなくて大―みちしれる人ひとりもなくて神 ④いきけり―い
 きにいけり大 ⑤いひけるは―いひけるやうは神 水ゆく河のくもてなれは―みついで、(行)かはのくもてな
 れは大―みつのくもてしにて神 ⑥やつはしといひける―やつはしとはいひける大神 ⑦おりゐて―をりゐて

大 かれいひーかれいひる大 くひけりーくひけり神 ⑧おもしろくーをもしろく大 ある人のいはくーある人
いはく大 ⑨いつもしー五もんし大 すへてーをきて大ーおきて神 ⑩よめるーナシ大 ⑪かれいひーかれい
る大 うへーうゑ神 なみたおとしてーなみたをよとして大 ⑫うつつの山にいたりてわかいらむとするみちは
ーうつつのやまは神 ⑬いとくらうーいとくらく大ーいとくらくして神 つたかえてはしけりーつたかつらしけり
大ーつたかへてしけり神 ⑭物心ほそくーものころほそく大 ⑮いまするといふをーいまするそといふを
大 ⑯御もとにとてーもとにとて大神 ⑰人にー人の神 あはぬなりけりーあはぬころかな大 ⑱ひえの山ー
ひゑの山神 ⑲なりはしほしりのやうになんありけるーな(り)はしをりの山となんいひける大ーなをはしを
りのやまとなむいひける神 ⑳しもつふさーしもつさ大神 ㉑それをーナシ神 ㉒とをくもーとをく大 わひ
あへるにわたしもりーわひあえるにはたしもり神 ㉓日もくれぬーひくれぬ神 ㉔おりしもーをりに大神 ㉕
おほきさなるーおほきさなる大ーおほきさなるか神 うへーうゑ神 いをくふーいほをくう大ーいほくふ神
㉖みな人みしらすー人みなしらす大ー人みしらす神 わたしもりーわたもり神 ㉗名にしおはよーなにしをは
く大 ㉘とよめりければーとよみければみな神 なきにけりーなきけり大
①むかしおとこ以下ゆきけり迄ナク前段ニツヅク不群丹 ②友とするーともする不群丹 いきけりーもろとも
にゆきけり不群丹 ③いきけりーゆきけり不群丹 いふ所にーいふとこノ下二字分空白原本ニ蟲損アリタルナ
ルベシ不 ④そこをーそこ不群丹 いひけるはーいふ事は不群丹 水ゆく河のくもてなればー水のくもてにな
かれわかれて不群丹 ⑤はしをー木不群丹 やつはしといひけるー八橋とはいゑる不ー八橋とはいへる群丹

塗

⑦さほのほとりのーさほのほとりに不群丹 木のかけにー木景に不群丹 おりゐてーをりゐて不 かれいひー
かれいひ不 ⑧ある人のいはくー京いとこひしくおほえけりさりければある人不ー都いとこひしくおほえけり
さりければある人群丹 ⑨かみにーかしらに不群丹 すへてーすゑて不 たひの心をよめー旅心よめ不ーたひ
の心よめ群丹 ⑩よめるーひとの人よめり不群丹 ⑪かれいひーかれいひ不 うへーうゑ不 なみたおとして
ーなみたをとして不 ⑫いらむとするーゆくすへの不ーゆくすゑの群丹 ⑬いとくらうーいとくらく不群丹 つ
たかえてはしけりーつたかつらはしけりて不群丹 ⑭物心ほそくー物ころほそく不ーもの心ほそく群丹 ⑮
みちはーみちには不群丹 いまするといふをーおはするといふに不群丹 ⑯御もとにとてーもとにとて不群丹
⑰うつゝにもーうつゝとも不ー人にーひとの不群丹 ⑱さ月のつこもりにー五月つこもりに不群丹 しろうふれ
りーしろくふりたり不群丹 ⑲その山はこゝにたとへはーこの山はうゑはひろくしもはせはくはておほかさのや
うになむありける高は不ーこの山は上はひろくしもはせはくはて大笠のやうになん有ける高さは群丹 ひえの山
ーひゑの山不 ⑳ほととしてなりはしほしりのーナシ不群丹 ㉑しもつふさのくにとの中にーしもつさの國とふ
たつかなかに不ーしもつふさの國とふたつかなかに群丹 ㉒とおほきなるーいとおほきなる不 ㉓それをすみ
た河といふーそのかはの名をすみた河となむいひける不群丹 ㉔むれゐてーむれいて不 ㉕わひあへるにーわ
ひをれば不群丹 ㉖いふにーいふ不 ㉗おりしもーをりに不ーおりに群丹 あかきーあかきか不群丹 ㉘おほ
きさなるーおほきさなる不 いをくふーいをくう不 みえぬーみえぬ不 ㉙みな人ー人々不群丹 とひけ
れはーとゑは不ーとへは群丹 ㉚宮ことりとー都鳥と申と不群丹 ㉛名にしおはよーなにしははく不 わかお

もふ人は―我おもふ人不 舟こそりてなきにけり―舟人こそりてなきにけりその河渡すきて京にみしあひて物語してことつてやあるといひければみやこ人いかゝとはよまたかみはれぬ雲井にわふとこたよよ不―舟人こそりてなきにけりその河渡り過て都にみしあひて物かたりしてことつてやあるといひければ都人いかゝとよはよ山たかみはれぬ雲るにわふとこたへ上群丹

昔男在計利其壯士身乎衛府無物爾思作而花洛爾波不有東方爾可棲所將不見左行計利
本來緣友與須流人獨二人爲而往計利道被知人獨毛無而迷往計利水河國八橋與云所爾
將至彼所乎何八橋與云計流波水堰河之蛛手成波橋乎八渡瀬流爾賴而何八橋與云計流
其澤之頭之木蔭爾下居而何恰悔計利其澤爾垣津幡面白開有計利其乎見而或仁云賀幾
津播多常云五文字乎句首爾居而旅心乎讀與云計禮波

加良衣著乍穢爾志津麻志有禮者波留幽來寢多毗惜社思諾讀計禮波皆人粟豆之上爾
落涙而潤爾計利往々而駿河國宇都山爾至而吾將入與須流路者最苦勞細爾絡石鷄冠木
葉繁而物心細情有目尾見流事與思爾修行者值有如是路爾波如何御坐津流與云爾見禮
者見師人成計利京師爾其人之許爾左文乎書而傳

駿河有宇都山部現爾毛勤爾毛人爾不相成計利風使山乎觀者早苗月晦日爾玉塵最白

歷利

節不知山者布盡嶺何時左歟鹿子班爾雪迺歷覽其山者爰喻比叡山乎二十計重上將有
體爲而鳴者四乎知之樣爾何在計流猶往々而武藏國與霜懸國與之中爾甚大成河在其乎
墨田河與云其河之頭爾叢居而思遣者無限遠毛來爾計留哉與侘相流爾渡子早船爾乘日
毛將沒與云爾乘而將渡與須流爾皆人物侘敷而花城爾思人無爾師毛不有然時白鳥之髻
與足與赤之田鳥之大佐有水上爾游乍魚乎食京爾波不見鳥有渡子爾問計禮波是何鴛與
云乎聞而

名爾志負者卒言將問宮子鳥吾思人者有哉無哉與諾讀計禮波船舉而哭計利

- ① 衛府無物爾思作而―衛府無物思作而九 可棲所將不見―可棲所將竟內桂―可栖所(棲國)將竟天 ② 渡瀬流爾賴而何―渡瀬流爾賴而九 ③ 何恰悔計利―何悔計利桂 賀幾津播多―賀幾津幡多九天 ④ 加良衣
- ―賀良衣天 波留幽來寢多毗惜社思―波留幽來多毗惜社思桂 皆人―皆人天 ⑤ 絡石鷄冠木―絡石鷄冠
- 木天 ⑥ 修行者值有―修行者爾值有天 ⑦ 其人之許爾―其人許爾九 ⑧ 早苗月晦日爾―早苗月晦爾內桂
- ―早苗晦日九―早苗月晦日爾天 ⑨ 京爾波不見鳥有―京爾波不見鳥有皆人不知天 問計禮波―問計流爾

內桂九天

二 むかしおとこ武藏のくにまてまといありきけりさてそのくに
 一 がある女をよはひけりちゝはこと人にあはせむといひけるを
 二 はゝなんあてなる人に心つけたりけるちゝはなおひとにては
 三 ゝなんふちはらなりけるさてなんあてなる人にと思ひけるこ
 四 のむこかねによみてをこせたりけるすむ所なむいるまのこほ
 五 りみよしのゝさとなりける
 六 みよしのゝたのむのかりもひたふるにきみかゝたにそよる
 七 となくなるむこかね返し
 八 わか方によるとなくなるみよしのゝたのむのかりをいつか
 九 わすれんとなむ人のくにゝても猶かゝることなんやまさりけ
 十 る

武

① 武藏のくにまてまといありきけりさてそのくにゝゝむさしのくにゝ高 ② なおひとゝなを人七山明隆奈豊片雅

流

③ あてなる人にゝあてなる人にと豊 つけたりけるゝつけたりけるを片 なおひとゝなを人七山明隆奈豊片雅
 ④ ふちはらゝふりはら千 ⑤ いつかゝいつと飛

古

① おとこゝをとこ相 ありきけりゝきけり宵 さてそのくにゝあるゝその國にある最 ② よはひけりゝよはる
 けり相ゝよはひけりけり宵 あはせむゝあわせむ最 いひけるをゝしけるを宵 ③ つけたりけるゝつけたり最
 なおひとゝなほひと相爲ゝなをひと承慈宵最時 ④ をこせゝおこせ相 すむ所なむゝところは最 いるまのこ
 ほりゝむさしのくにいるまのこほり相爲榮宵最時 ⑤ なくなるゝなくらん慈 ⑥ くにゝてもゝ國までも最 か
 ることなんやまさりけるゝかゝることなむやまさりける爲ゝかゝる事やゝまさりけん最

大

② ちゝはゝちちはゝ大神 あはせむゝあわせむ神 ③ なおひとゝなを人大神 はゝゝはゝは大 ④ ふちはらゝ
 ふちわら大 このゝさてかの神 ⑤ たりけるゝたる大神 いるまのこほりゝむさしのくにいるまのこほり大神
 ⑥ なくなるゝなきける大ゝいふなる神 返しゝ返事大 ⑦ 猶ゝナシ大神 ことゝと一字分不明大

差

① 武藏のくにまてゝむさしのくに不群丹 さてそのくにゝあるゝそのくになる不群丹 ② 女をゝをんなお不
 いひけるをゝいひけるに不群丹 ③ なおひとゝたゝ人不群丹 ④ あてなる人にとゝあてなる人にとは不群丹
 ⑤ をこせたりけるゝをこせたる不群丹 すむ所なむゝすむとは不群丹 いるまのこほりゝむさしのくにいる
 まのこをり不ゝむさしのくにいるまのこほり群丹 ⑥ なりけるゝなり不群丹 ⑦ むこかね返しゝかゝしむこか
 ね不ゝかへしむこかねかへし群丹 ⑧ となむゝナシ不群丹 くにゝてもゝ國にても丹 猶ゝナシ不群丹 かゝ
 ることなんやまさりけるゝかゝる事はたゝすそありける不ゝかゝることはたゝすそありける群丹

昔男至武藏國迷行計利然其國在女乎夜這計利娜異人爾將會與云計流乎母何高貴在人爾心付有計留爺者直人爾而母何藤原成計流然何高貴在人爾與思計流此聲金爾讀而遣有棲所何武藏國入間郡三芳野郷有計流

三芳野廻田面雁毛永爾君之方爾社余留與鳴成聲金返

吾方爾余留與鳴成三芳野田面雁乎何歟將忘諾何至他國如是言者不停計流

眞 ②爺者—耶者桂九 母—ナシ九 ③棲所何—栖所有天

二 昔おとこあつまへゆきけるに友たちともにみちよりいひをこせける 1

わするなよほとは雲みになりぬともそらゆく月のめぐりあふまで 3

天 ①いひをこせける—いひをこせた(ケ)る色
流 ①いひをこせける—いひおこせける山奈—いひをこせける明

古 ①おとこ—をとこ相最—おとこ有けり慈 あつまへ—アツマエ時 ゆきけるに—いきけりに宵—いきけり最

友たちともに—ともたちとも承 いひをこせける—いひをこせたりける慈 ③雲みになりぬとも—雲井をへたつとも最

大 ①友たちともに—ナシ神 いひをこせける—いひをこせたりける大—いひをこせたる神 ④そらゆく—そらのゆく大

塗 ①おとこ—男有けり不群丹 友たちともに—ともたちに不群丹 いひをこせける—をこせける不群丹

昔男在計利集江往計流爾朋友等爾從路云遣計留
忘諾余期者雲居爾雖將成空行月廻廻會左右手

2 1

三 むかしおとこ有けり人のむすめをぬすみてむさしのへるてゆくほとにぬす人なりければくにかみにからめられにけり女をはくさむらのなかにをきてにけにけりみちくるひとこの野はぬす人あなりとて火つけむとす女わひて 4 3 2 1

天 ②をこせて—おこせて色

流 ①おとこ—女千 ②をこせて—おこせて山 ③をともせすなりにければ—をとせすなりにければ千—をともせ

古 ①昔—むかしをとこ最 おとこ—をとこ相最 きこゆれば、つかしきこえねはくるしと—ナシ承 ②をこせて

③をこせたる慈 ④なりければ—なりければ最 女—おほむな最 ④たのむには—おもふには相最時 ⑤み

てなむ—みて最 たへかたき心地しける—たえかたき心ちしける爲時—たえかねて最 ⑥とへは—トエハ時

おりにや—をりにや爲最時

大 ②むさしあふみと—むさしあふみとのみ大神 ③をともせすなりにければ—をともせさりければ神 ④たのむ

には—思ふには大神 ⑤たへかたき心地しける—たえかたき心ちしけり神 ⑥おりにや—をりにや大 ひと

しぬらん—人のしぬらむ神

塗 ①おとこ—をとこ不 はつかしきこえねは—はつしきこえねは不群丹 ②むさしあふみと—むさしあふみとのみ

不群丹 をこせて—ナシ不群丹 ④たのむには—おもふには不群丹 ⑤みてなむ—みてをむな不 たへかたき

心地しける—たえかたきこちしけり不—たへかたきこちしけり群丹 ⑥とへは—とえは不 おりにや—を

りにや不

昔武藏在男花洛有女之許爾聞禮者慙不聞苦與書而上表爾武藏鏡與書而遣而後不音成

爾計禮者從京女

武藏鏡然兼而思爾者不問毛頰志問毛愁師諾在乎見而何難堪心地爲計流

將問者言不問所恨武藏鏡如是節爾哉人者死覽

眞 ①不聞苦—不聞者苦内桂九 上表爾—上表爾者九 ②難堪心地爲計流—難堪心地計流天

一四 むかしおとこみちのくに、すゝろにゆきいたりにけりそこな

る女京のひとはめつらかにやおほえけんせちにおもへる心な

んありけるさてかの女

中／＼に戀にしなすはくはこにそなるへかりけるたまのを

はかりうたさへそひなひたりけるさすかにあはれとやおもひ

けんいきてねにけり夜ふかくいてにければ女

二夜もあけはきつにはめなてくたかけのまたきになきてせな

をやりつるといへるにおとこ京へなんまかるとて

くりはらのあれはの松の人ならばみやこのつとにいさとい
はましをといへりければよろこほひておもひけらしとそいひ
をりける 11

天 ⑤ひなひたりける—ひなひたり重 ⑨くりはらのあれはの—くりはらやあれはの東

武 ⑤さすかにははれ—さすかはれ高 ⑨くりはらのあれはの—くりはらのあれはの四岩尊高

流 ①そなる—そなりける七 ②京—ナシ雅 ③女—ナシ豊 ⑧おとこ京へ—男へ七 ⑨くりはらのあれは—
くわはらのあれは千—くりはらのあれは七飛山明—隆豊片雅 ⑩よろこほひて—よろこひて千

古 ①おとこ—をとこ相 ②みちのくに—みちのくにまで最 ③すゝろに—すゝろに最 ④ゆきいたりけり—ゆきた
りにけり慈—ゆきいたりぬ最 ⑤おほえけん—おもほえけむ相爲承—ヲホエケム時 ⑥せちに—せつに榮 ⑦おも
へる心なん—ヲモエル時 ⑧ありける—しける最 ⑨くはこ—くわ子最 ⑩たまのを—玉のお榮 ⑪うたさへ—
歌さえ最時 ⑫さすかに—かすかに慈 ⑬いきてねにけり—ゆきてねにけり榮 ⑭いてにければ女—いてにければ
おんな爲—いてにければ最 ⑮といへるに—トイエルニ時 ⑯おとこ—をとこ相最 ⑰くりはらのあれはの—くり
はらやあれはの承—くり原のあれはの榮慈宵時—くりはらやあれはの最 ⑱はましを—いわましを最 ⑲よろ
こほひて—よろこほり(ひ朱)て承—よろこひさへ宵—よろほひて最—ヨロコヒテ時 ⑳いひをりける—いひお
ける爲—いひをくりける承

大 ①みちのくに—みちのくにへ大 ②すゝろに—そそろに神 ③ゆきいたりけり—いたりけり大神 ④京のひ
とは—京ひとをは大神 ⑤おほえけん—思ひけん大神 ⑥おもへる心なん—おもへりける心大 ⑦くはこ—くはく
神 ⑧そ—一字分不明大 ⑨なるへかりける—なるへかりけり大 ⑩といへるに—といへりける大—といへるを神
おとこ—をとこ大 ⑪くりはらのあれはの—くりはらのあれはの大—くりはらのあれの神 ⑫はましを—いは
まし物を大 ⑬よろこほひて—よろこひて大神 ⑭いひをりける—いひける大—いひたりける神

差 ①ゆきいたりけり—いたりけり不群丹 ②京のひとは—京の人をは不群丹 ③めつらかにや—めつらやかに
か不群丹 ④おほえけん—おもひけん不群丹 ⑤おもへる心なん—おもゑるけしきなむ不—おもへるけしきな群
丹 ⑥ありける—みへける不—みえける群丹 ⑦かの女—をむな不 ⑧ひなひたりける—ひかめりける不群丹
⑨といへるに—といひける不—といひけり群丹 ⑩くりはらのあれはの—くりはらのあれはの不群丹 ⑪はま
しを—いはまし不群丹 ⑫よろこほひて—よろこひて不群丹 ⑬おもひけらし—思けり—不群丹 ⑭いひをりけ
る—いひける不群丹

昔男在計利至三津國蕭爾到爾計利爾所有女王城之人乎波日頰賀爾哉將念切爾思惠流
心何在計流然彼女
永々爾戀爾不死者桑子社成有可計流玉之緒計歌副社鶴部有計流然爾憐與哉將所念
往而寢爾計利三更出計禮者女

4 3 2 1
四三

四方開者木豆爾爲食久宅鷄未爾鳴而背乎取遣諾云流乎夫京何往與而

栗原迺波乃松之人有宮子之裏爾率與云倍諾云利計禮者悅而思計羅師常社云居計

流

5
6
7

眞 ①將念一將所念内桂九 ④寢爾計利一寢爾計利内桂九天 ⑥率與云倍一率與云信天

一五 むかしみちのくに、てなてうことなき人のめにかよひけるに

あやしうさやうにてあるへき女ともあらずみえければ 2

しのふ山しのひてかよふ道も哉人の心のおくもみるへく女 3

かきりなくめてたしとおもへとさるさかなきえひすこゝろを 4

みてはいかゝはせんは 5

流

①みちのくに、てみちのくに、山片 ②あやしうあやしふ片 さやうにて、さやにて七 ④めてたし、め
てし明 ⑤いかゝはせんは、いかゝはせむは一

古

①むかし一昔男相背 みちのくに、て陸奥にて榮 なてう、なてふ榮時、なむてう最 め、むすめ最時 か
よひけるに、かたらひ(かよひ)けるに最 ②さやうにて、さやうにも背 女とも、女にても背、女ニ三時 あ

らすみえければ、あらさりければ背 ③おく、をく慈最 みるへく、みるへき慈 ④おもへと、おもへとも最

一思エト時 ⑤いかゝはせんは、いかゝはせむ背、いかゝせむ最時

大

①みちのくに、てみつのくににて神 なてう、なてふ大 ②さやうにて、さやうにても神 女とも、女には

大、をむな神 あらずみえければ、あらずみへければ神 ③おく、をく大 ④おもへと、思へと大、おもひ

て神、さかなき、さかき神 えひすこゝろをみては、えひすこゝろもちては大神 ⑤いかゝはせんは、いかゝ

せん大、いかゝはせむ神

差

①みちのくに、て男みちのくにへいきありきけるに不、男みちの國へありきけるに群丹 め、むすめ不群丹

②あやしうあやしく不群丹 女とも、をんなには不群丹 あらずみえければ、あらずみえければ不 ④おく

一をく不 ④えひすこゝろをみては、えひす所にて不、えひす所にては群丹 ⑤いかゝはせんは、いかゝはせ

む不群丹

昔男在計利至三津國名云言無人之妻爾通計留爾謝然様爾而可有女爾而毛不有計禮者

信夫山偲而通路毛哉人迺心之奥毛可見女無限日出與雖思然恐夷心乎見而如何詮

眞 ①不有計禮者一不有者内桂九天 ②奥毛可見一奥毛可覽内桂九一奥毛可覽(見)天

1
2

一六 むかしきのありつねといふ人有けりみ世のみかにつかうま
 つりて時にあひけれとのちは世かはり時うつりにけれは世の
 つねの人のこともあらず人からは心うつくしくあてはかなる
 ことをこのみてこと人にもすまつしくへても猶むかしよか
 りし時の心なからよのつねのこともしらすとしころあひなれ
 たるめやうくとはなれてつゐにあまになりてあねのさき
 たちてなりたるところへゆくをおとこまことにむつましきこ
 とこそなかりけれいまはとゆくをいとあはれと思けれとまつ
 しけれはするわさもなかりけりおもひわひてねむころにあひ
 かたらひけるともたちのもとにかうくいまはとてまかるを
 なにこともいさゝかなることもしえせてつかはすことゝかきて
 おくに

二 手をゝりてあひみし事をかそふれはとおといひつゝよつは
 へにけりかのもたちこれをみていとあはれと思ひてよるの
 物までをくりてよめる
 三 年たにもとおとてよつはへにけるをいくたひきみをたのみ
 きぬらんかくいひやりたりけれは
 四 これやこのあまのは衣むへしこそきみかみけしとたてまつ
 りけれよろこひにたへて又
 五 秋やくるつゆやまかふとおもふまであるは涙のふるにそ有
 ける

天

④まつしくへてもまつしくしても重 ⑧あはれあわれ色 ⑩手をゝりて手をおりて紹 とおととをと

⑫あはれとあわれと色 ⑬をくりておくりて色 ⑭とおととをとて色 ⑮たへてたえて色

武

⑯うつくしくうつくしう四岩宮尊高 ⑰こと人にもこと人にも四岩宮高 まつしくへてもまつしうて

も高 ⑱手をゝりて手をおりて尊高 とおととをとと尊高 ⑲とおととをとと尊高

流

①つかうまつりて—つかまつりて片雅 ③うつくしく—うつくしう千七一陸置雅—うつくしうて飛山明奈—
 うつくしふ片 あてはかなることを^ああてはかことを千—あてはかなることをのみ片 ④こと人にも—ことに
 人にも千七飛山一置雅 ⑤あひなれたるめ—あひ馴たる女明 ⑥つゐに—ついに雅 あまに—あまりに奈 ⑦
 ことこそ—ことにこそ奈 ⑧なかりけれ—なけれ千 ⑨をりて—おりて千七飛明奈置片 とおと—とをと千七
 飛山明奈置片 ⑩とおとて—とほととて千—とをとて七飛山明奈置片 ⑪いひやりたりければ—いひやりければ
 飛山明奈 ⑫たへて—たえて七

古

①有けり—有ける慈 つかうまつりて—つかまつりて宵時 ②あひけれとのちは—あひければ(と)のちは慈
 世かはり時うつりにければ—よかはり(朱)ときうつりにければ承 世のつねの人のこともあらず—よのつねの
 人こともあらず最 ③うつくしく—うつくしう相爲承慈宵最時 あてはかなることを—あてはかなることをの
 み最 ④こと人にも—ことに人にも相爲承慈—ことに人にも榮 まつしくへても猶—まつしくへてもなを爲—
 まつしくてもなを宵時 むかしよかりし—よかりし最 ⑦ところへ—ところえ爲時 おとこまことに—をとこ
 まことに相—男まことに最 ことこそ—ことそ慈 ⑨あひかたらひける—あひかたらひける榮 ⑩つかはすこ
 と、かきて—つかはす事かきて最 ⑪手をりて—手をおりて承榮慈宵—テヲ、(オ朱)リテ時 あひみし事を
 —あひみしとしを最 とおと—とをとと相榮最時—と(を)と承 ⑮をくりて—おくりて爲—ををくりて宵 ⑯
 年たにもノ歌ヨリ第十九段おとこはある物かとも思たらす迄一葉落丁最 とおとて—とほととて相—とをとて爲
 榮時 いくたひ—イキ(ク)タヒ時 たのみきぬらん—たのみ米つらん榮 ⑰たへて—タエテ時 ⑱ふるにそ有
 ける—ふるにさりける相—ふるにさ(そあ)りける爲

大

②あひけれとのちは—あひたりけれとのちは神 ③人からは—人から大神 うつくしく—うつくしう大神 あ
 てはかなることを—あてやかなる事を大 ④まつしくへても—まつしくて大神 ⑥つゐに—つひに大—ついに
 神 ⑦ところへ—もとへ大神 ゆくを—ゆく大神 ⑩かう—やう—大 いまはとて—いまはきて神 ⑪
 いさゝかなること—ナシ神 ⑫おくに—をくに大神 ⑬あひみし事を—へにけるとしを大神 とおと—とを
 と大神 ⑭あはれと思ひて—あわれとおもひかく神 よるの物まで—よるのもの大 ⑮とおとて—とをとて大
 神 ⑯むへしこそ—むへしこの(そ)大 みけしと—みけしは大 たてまつりけれ—たてまつりけめ大 ⑰たへ
 て—たえて神

差

①つかうまつりて—仕て不群丹 ②あひけれとのちは—あひたりけれとのちには不群丹 世のつねの人のこと、
 もあらず—よのつねのときうしなへる人になりけり不—よのつね時うしなへる人になりけり群丹 ③人か
 らは—人から不 うつくしく—うつくしう不群丹 あてはかなることを—あてなる事を不群丹 ④まつしくへ
 ても—よのわたらひ心もなくまつしくて不群丹 ⑤心ながら—心ながらありわたりけるに不群丹 あひなれた
 るめ—ありなれたるめも不群丹 ⑥つゐに—ついに不 ⑦なりたる—尼になりけるか不群丹 ところへゆく
 を—もとへゆく不群丹 おとこ—をとこ不 ⑧いまはと—いまはとて不群丹 あはれと—あはれとは不群丹
 ⑨あひかたらひけるともたちのもと—かたらひけるともたちに不群丹 ⑩いさゝかなること—いさゝかの
 事も不群丹 えせて—せて不群—さて丹 ⑫おくに—をくに不 ⑬あひみし事を—へにける年を不群丹 とお

と一とをと不 ⑭かのーこの不群丹 これをーこれお不 よるの物までをくりてよめるー女のさうそくを一具
をくるとして不群丹 ⑮とおとてーとをとて不群丹 よつはーよつを不群丹 たのみきぬらんーたのみきつ覽不

群丹 ⑯いひやりたりければーいひたりければよるこひにそゑて不群ーいひたりければよるこひにそゑて丹

⑰あまのは衣ーはころも不 みけしとーみけしに不群丹 ⑱たへてーたゑかねて不ーたへかねて群ーかねて丹

昔紀有常與云人在計利三代帝爾祝承而時爾相計禮與代改時遷計禮者尋常之如毛不有
人柄者心高貴成事乎好而異人爾毛不似活心無貧而毛尙往古好有時乍心尋常之事毛不
知年來會馴有妻漸床別而終爾尼爾成而姉之前立而成有許江往乎夫實昵幾事社無禮與
今者左行乎最天晴與令念貧計禮者行態毛無梨計利思佗而懇爾會語計流朋友之許爾是
加浦今者左往乎何事毛聊有事毛不得爲遣事與書而與爾

手乎折而會見志事乎籌禮者拾十五四葉歷爾計利彼朋友是乎見而最天晴與思而夜留
之物至贈而讀

年多仁毛拾十而四葉經爾計留乎幾度君乎手飲將來覽是云而遣有計禮者

是哉此天翼衣宜社君之美家思與上計禮悅爾絕不得又

秋哉來流露哉滿加婦與思至有者淚之降爾社有計流

一眞

①時遷計禮者尋常之如毛不有ー時遷爾計禮者尋常人之如毛不有内桂九

②聊有事毛不得爲ー聊有事毛不

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

欠

欠

天

②をりて—おりに實紹

武

②をりて—おりに尊高

流

①なま心ある—なま心ありける奈 ちかう有けり—ちかふありけり片 ②をりて—おりに千飛明豊片雅

古

①おとこ—をとこ相 ちかう有けり—ちかうありけり(朱)承—ちかうありける慈—ちかふありけり榮時 ②き

くの花のうつろへるを—キクノハナノウツロエルヲ時 をりて—おりに爲承榮時—とりて慈 おとこのもとへ
やる—をとこのもとへやる相—男ノモトエヤル時 ④とをに—トヲホニ時 おとこ—をとこ相 ⑥おりにける
—ヲ(オ)リケル時

大

①ちかう有けり—とかくいひけり大—かういひけり神 ②きくの花のうつろへるを—きくのはなのうつろえた
るを神 をりて—おりに神 ④紅—くれないなる大—くれないなる神 ⑤いつら—いつる神 白雪—しらきく大 枝—え
た大—ゑた神 とをに—たは(とを)に大—たわわに神 みゆ—みる大 ⑤よみける—よみけり大 ⑥紅
—くれないなる大—くれないなる神 しらきく—しらゆき(きく)大—しらゆき神 おりにける—をりける大 ⑥そてかとも
みゆ—そてかともそみるとよめりけるはまたおとこある人となんいひける大—そてかともそみる神

塗

①おとこ—をとこ不 ちかう有けり—とかくいひけり不群丹 ②きくの花のうつろへるを—むめを不群丹 お
とこのもとへやる—やる不群丹 ④紅—くれないなる不 枝—ゑた不 とをに—たわに不—たは(とを)に群丹 ⑥
ふるかとも—ふるやとも不群丹 ⑤よみける—よみけり不群丹 ⑥紅—くれないなる不 うへ—うゑ不 しらきく—
しら雪不群丹 おりにける—をりける不 ⑥そてかともみゆ—そてかともそみる不群丹

PS1-PS2
切取見

昔生心在女在計利夫左右云計利女歌讀人成計禮波將試左菊花之取移乎折而夫許江遣

有 紅爾將匂者幾所等白雪之枝毛多和廻爾容歟友所見夫不知讀計利

紅爾匂之上廻白菊者折計流人之袖歟與社見流

眞 ①左右云計利女歌讀—左右云計利女歌讀天 ②不知讀計利—不知讀爾讀計利内桂 ③白菊者—白雪者

内桂九—白雪(菊)者天

一元 昔おとこ宮つかへしける女の方にこたちなりける人をあひし
 1 たりけるほともなくかれにけりおなしところなれは女のめ
 2 にはみゆる物からおとこはある物かとも思たらす女
 3 あま雲のよそにも人のなりゆくかさすかにめにはみゆる物
 4 からとよめりければおとこ返し
 5 あまくものよそにのみしてふることはわかるる山の風はや
 6

み也とよめりけるは又おとこある人となんいひける 7

流 ②ほともなく—ほとになく干 ③ある物かとも—ある物とも七片

古 ①おとこ—をとこ相 宮つかへ—ミヤツカエ時 あひしりたりける—あひしりたりけり相—あひしりける承

②おなし—ヲナシ時 ③おとこは—をとこは相 思たらす女—おもひたえす承 ④おとこ返し—をとこ返し相

爲—おとこかゑし最 ⑦とよめりけるは—とよめりければ爲—とよみけるは最 おとこ—をとこ相

大 ①女の方に—女の大神 あひしりたりける—あひしりたりけり大神 ②おなし—をなし大 ③ある物かとも—

あるものとも大 思たらす—おほえす大神 ④おとこ返し—おとこ大 ⑦とよめりけるは—とよみけるは神

おとこある人となんいひける—おとこあまたもたりける人になんありける大神

塗 ①女の方に—女不群丹 あひしりたりける—あひしりけり不群丹 ②おなしところなれは—をなし所なりけ

れは不—おなしところなりければ群丹 女の—さすかに女の不群丹 ③おとこは—をとこは不 ある物かとも

—あるものにも不群丹 思たらす—おもひたえは不群丹 ④おとこ返し—をとこ不—おとこ群丹 ⑤あまく

ものよそにのみして—ゆきかゑりそらにのみして不—行かへりそらにのみして群丹 みる—いる不群丹 ⑦と

よめりけるは—とよめるは不群丹 又—あまた不群丹 おとこある人となんいひける—をとこあるをむなにな

むあるける不—男ある女になむありける群丹

昔男宮仕師計流女之方爾兒達成計流人乎相知有計利無間離爾計利同所有計禮者女之 1

日爾者所見物乍夫者有物友不被念女

天雲乃四方爾毛人適成行之然爾目爾者所見魂乍諾讀計禮者夫返

天雲迺遠爾耳左古事者已居仙之風痛有

三 　むかしおとこやまとにある女をみてよはひてあひにけりさて
 1 　ほとへて宮つかへする人なりければかへりくるみちにやよひ
 2 　はかりにかえてのもみちのいとおもしろきをゝりて女のもと
 3 　にみちよりいひやる
 4 　君かためたおれる枝は春なからかくこそ秋のもみちしにけ
 5 　れとてやりたりければ返事は京にきつきてなんもてきたりけ
 6 　る
 7 　いつのまにうつろふ色のつきぬらんきみかさとはは春なか
 8 　ららし

天 ④かえての―かへての色重 ⑤たおれる―たをれる紹重 ⑥きつきて―つきて東

武 ③もみちの―ナシ高 をりて―おりて高 ⑧なかるらし―なかるへし尊

流 ④かえての―かへての飛 をりて―おりて千七飛豊片雅 ⑤たおれる―たをれる千七飛山明一隆奈豊片雅 ⑥

やりたりければ―やりたれば千 返事―返し雅 きつきて―つきて七

古 ①おとこ―をとこ相 女をみて―女を最 あひにけり―ある(ひ)にけり慈 さてほとへて―さと(て)ほとへて

承 ②宮つかへする―みやつかへする最―男ミヤツカエヌル時 かへりくるみちに―くるみち最 ③かえて―

かゑて最 おもしろきを―もしろき爲時 をりて―おりて承榮宵時 ④いひやる―いひやりける榮 ⑤君かた

め―きみかために爲 たおれる―たをれる相爲慈最―タヲ(オ)レル時 ⑥とてやりたりければ以下春なかるら

し迄ナシ慈 返事は―カヘ(エ)リコトハ時 きつきてなんもてきたりける―きつきてもてきたりけり最 ⑧う

つろふ色―うつろひ色相 つきぬらん―みえぬらむ最 さと―かた宵 なかるらし―なかるへし宵最時

大 ①女をみて―をむなを神 ②宮つかへする―みやつかへしける大神 かへりくる―かへくる神 ③かえての―

かへて大―かへての神 おもしろきを―りて―をもしろきをりて大―をもしろきをみて神 ④みちよりいひ

やる―みちより大 ⑤たおれる―たをれる大神 ⑥とて―とよみて大 きつきてなんもてきたりける―ゆ(き

つ―きてなんかへりことほもみちてきたりける大―きてなむもてきたりける神 ⑧うつろふ―うつろひ神 な

差 ①女をみて―女を不群丹 ②ほとへて―ほともへて不 宮つかへする―みやつかへしける不群丹 かへりくる

かゑりける不―かへりける群丹 ④かえて―山にかゑて不―山にかへて群丹 をりて―おりて不群丹 女の
―すみしをむな不―すみし女の群丹 ⑤みちよりいひやる―みちより不群丹 ⑥たおれる―たをれる不群丹
枝―また不 ⑦京にきつきて―京にいきつきて不群丹 ⑧なかるらし―なかるへし不群丹

昔男在計利大和在計流女乎夜這而會爾計利然間經而宮仕爲流人成計禮者還來道爾沾
洗計鷄冠木之黄葉最面白乎折而女之許爾從路云遣有計流

君之故被手折枝者乍春右社飽之黄葉爲爾計禮諾而遣有計禮波返事者京爾付而何持
用來計流

幾時間爾移歷色將付覽君之郷爾者春無流良志

三 むかしおとこ女いとかしこく思ひかはしてこと心なかりけり
さるをいかなる事かありけむいさゝかなることにつけて世中
をうしと思ひていてゝいなんと思ひてかゝるうたをなんよみ
て物にかきつけゝる

いてゝいなは心かるしといひやせん世のありさまを人はし
らねはとよみをきていてゝいにけりこの女かくかきをきたる
をけしう心をくへきこともおほえぬをなにゝよりてかかゝら
むといといたうなきでいつかたにもとめゆかむとかとにいて
ゝとみかうみゝけれといつこをはかりともおほえさりければ
かへりいりて

思ふかひなき世なりけり年月をあたにちきりて我やすまひ
しといひてなかめをり
人はいさ思ひやすらん玉かつらおもかけにのみいとゝみえ
つゝこの女いとひさしくありてねむしわひてにやありけんい
ひをこせたる

今はとてわするゝ草のたねをたにひとの心にまかせすも哉
返し

忘草うふとたにきく物ならば思けりとはしりもしなまし又
ありしよりけにいひかはしておとこ 18

わする覽と思心のうたかひにありしよりけに物そかなしき
返し 20

中そらにたちゐるくものあともなく身のはかなくもなりに
ける哉とはいひけれとをのか世々になりにつれはうとくなり
にけり 21 22 23 24

武

①おとこ女いかしこく—おとこいかしこく四岩—おとこ女いかしこく宮 ⑥とよみをきて—とよみおき
て高 ⑦心をくへきことも—心をくへきことも尊 ⑧とみかうみけれと—とみかうみけれと高 ⑨ありし
よりけに—ありしけに高 ⑩なりにけれは—なりけれは尊

流

①おとこ女いかしこく—おとこ女いかしこく明 ②いさゝかなることにつけて—いさゝかなることにつき
て明 ③思ひていて—おもひいて、飛山明奈 ④かるし—かるし七疊片 ⑤いて—ナシ明 かきをきたる
を—かきをきたるをみて七—かきをきたりけるを置 ⑦けし—けしを干 なに—よりてか なに—よりて七

古

⑧いといたう—いといとう七—いといたふ片 ⑨つかたに—いつかたへ片 もとめゆかむ—もとめてゆかん七
⑩とみかうみけれと—とみかうみけれと明 ⑪ななめをり—ななめをりて雅 ⑫いひをこせたる—いひおこせた
る奈 ⑬忘草うふと以下第廿二段その夜にけりいにしへ迄一葉落丁飛 ⑭なりにけれは—なりけれは隆
①おとこ—をとこ相最 ②おとこ—いかしこく—かしく最 ③こと心—こと心も最 なかりけり—なかりける慈—ナカ
リケリ時 ④思ひていて—おもひていて、爲—思ひつゝいて、最 ⑤かるし—かる(ろ)し承—かるし榮宵最
人はしらねは—人の(は)しらねは最 ⑥とよみをきて—とよみをきて慈—トヨミヲキ(朱)テ時 かくかきをき
たるを—かくかきをきたるをみて相宵—カクカキタルヲ時 ⑦心をくへきことも—心おくへきことも爲—心を
くへきことも承—心をくへきことも慈 おほえぬ—ヲホエヌ時 なに—よりてかか—らむと—なに—より
てか—らんと相時 ⑧とみかうみけれと—とみかうみけれは最—トミカウミケレト時 おほえ—ヲホエ時 ⑨
なりけり—なりける慈 すまひし—スマキ(ヒ朱)シ時 ⑩ななめをり—ななめをり最 ⑪おもかけにのみ—面
影にのみ榮—おもかけにのみ慈 ⑫女—女は最 ⑬いとひさしく—いとひさしく最 ⑭返し—返事最—カ(エ)シ時
⑮うふとたに—おふとたに榮—こふとたに慈 又—とて宵 ⑯ありしよりけに—ありしより爲 お
とこ—をとこ相—ナシ最 ⑰うたかひに—うたかひに榮—うたかひに最 ⑱返し—返事最—カ(エ)シ時 ⑲
とはいひけれと—といひけれは慈—といひけれとも最
①いとかしこく—かれこれ大 ②こと心—こと心も神 ③いかなる事かありけむいさゝかなることにつけて—い
かなる事かありけんいさゝかなることにつけて大—いかなることにつけて神 ④うたをなんよみて—歌を

なん大神 ⑤かるしーかろし大 ⑥とよみをきてーとよみて大神 かくかきをきたるをーかきをきたるをみて
 大神 ⑦心をくへきこともーころうかるへきことも大ー心うかるへきことむ神 なにによりてかかゝらむと
 ーなにによりてかゝらんと大ーなにによりてかゝらむと神 ⑧なきてーうちなきて大神 もとめゆかむも
 とめにゆかん大神 ⑨とみかうみけれとーとかうみけれと大 一つこをはかりともーいつこをはかとも大
 ⑩みえつーみゆらん大神 ⑪いとひさしくーいとひさしう神 ねむしわひてにやありけんーねんしわひてや
 ありけん大神 ⑫うふとたにーうし(おほふ)とたに大 又ノーたまノ大 ⑬ありしよりーありしよりも神
 おとこーをとこ大 ⑭あともなくーこ(あ)ともなく大 ⑮うとくーうたう神

差

①いとかしこくーいとかしこう不群丹 なかりけりーなかりけるを不群丹 ②さるをーナシ不群丹 いさゝか
 なることにつけてーはかなきことにつけて不群丹 ③と思ひてーとて不群丹 うたをなんよみてーうたな
 ん不群丹 ④かきつけゝるーかきつけけり不群丹 ⑤かるしーかろし不群丹 人はしらねはー人はしらすて不
 群丹 ⑥とよみをきてーとよみてをきて不群丹 女ー男不群丹 かくかきをきたるをーかくかきをきたるをみて
 不群丹 ⑦けしうーナシ不群丹 心をくへきこともーころうかるへき事も不群丹 なにによりてかかゝらむ
 とーなにによりてならむ不群丹 ⑧なきてーうちなきて不群丹 ⑨とみかうみけれとーとみかうみけれと不
 一つこをはかりともーいとこをはかとも不群丹 ⑩かへりいりてーかへりいりて不 ⑪我やーわれか不群丹
 ⑫といひてなかめをりーナシ不群丹 ⑬思ひやすらんーなかめやすらん不群丹 いとゝーいてゝ不群丹 みえ
 つゝーみえつゝ不 ⑭この女ーといひてなかめをりこの女不ーといひてなかめをりこの女群丹 いとひさしう

いとゝひさしう不ーいとゝひさしく群丹 ねむしわひてにやありけんーねむしかねてにやあらむ不群丹 いひ
 をこせたるーかくむをこしたり不ーかくいひをこしたり群丹 ⑯まかせすも哉ーまかせすみ哉不 ⑰返しーか
 返し男(忘草ノ歌ノ左肩ニ書入レタリ)不ー返しおとこ群丹 ⑱うふとたにーかるとたに不群丹 くー一字分空
 白原本虫損アリタルナルベシ不 ⑲おとこーをとこ不 ⑳心のーころ不 ㉑返しーか返し(中そらにノ歌ノ
 上ニ書入レタリ)不ーかへし群丹 ㉒たちゐるーたちゐる不 なりにける哉ーなりぬへきかな不群丹 ㉓とは
 いひけれとーといひけれと不

昔男女最賢思通而異心無計利然乎何有事歟將有簡略有言爾付而世間乎侘思而如是歌
 乎何讀物爾書付有計流

1 出而去者心輕與云哉將爲世乃有様乎人者不知而諾讀置而出而往計利此女是書置有
 2 乎見而計志宇心置流可言毛無乎依何將是與痛打哭而幾方爾竟將往與門爾出而左見右
 3 見見計禮土何所乎墓跡不念者還入而
 4 思鹿鳴世成計利年月乎化爾契而吾哉棲志諾云而長日居
 5 人者不知思哉爲覽玉蠶面影爾耳最見乍此女最久敷在而念兒侘而哉將有云遺計流
 6 今者左忘草之種乎多仁人之心爾不蒔毛哉返
 7
 8

萱草殖與多仁聞魂有者思計利常波知毛爲諾勝又々從有勝爾云通而壯士

忘覽與思心之息爾從有異魂社悲敷返

中空爾立居雲迺無跡身之墓毛無成爾計流哉諾云計禮與己之世々爾成爾計禮波疎社

成爾計流

眞

- ① 簡略有—簡路有天
- ② 左見右見見計禮土—左見右見之計禮土九—左見右見計禮土天
- ③ 何所乎墓跡不念者—何所乎墓跡不念計禮者內—何所乎墓迹(跡)不念者天
- ④ 年月乎—年月乎內
- ⑤ 吾哉棲志—吾哉栖志
- ⑥ 天
- ⑦ 殖與多仁聞魂有者—殖與多仁聞魂有九—植與多仁聞魂有者天
- ⑧ 無跡—無迹(跡)天

12 11 10 9

三 むかしはかなくてたえにけるなか猶やわすれさりけん女のも
 とより

うきなから人をはえしもわすれねはかつうらみつゝ猶そこ
 ひしきといへりければされはよといひておとこ

あひみては心ひとつをかはしまの水のなかれてたえしとそ

5 4 3 2 1

思とはいひけれとその夜いにけりいにしへゆくさきのことゝ
 もなといひて

秋の夜のちよをひとよになすらへてやちよしねはやあく時
 のあらん返し

秋の夜のちよをひとよになせりともことはのこりてとりや
 なきなんいにしへよりもあはれにてなむかよひける

11 10 9 8 7 6

武 ① いにしへよりもあはれにてなむかよひける—ナシ高 あはれにてなむ—あはれにて舞
 流 ② わすれさりけん—わすれたりけん七 ③ といひけれと—といひけれと千 ことゝもなと—ことなと片 ④

古 ① なか猶や—なかを(猶や)爲 女のもとより—女のもとよりうきなから人をはえしも承 ② えしも—えしと最
 ③ といへりければ—といひければ承最 されはよといひて—されはといひて慈 おとこ—をとこ相—ナシ最

④ あひみては—あひみての宵 なかれて—なかれて藥 ⑤ といひけれと—といひけれと最時 いにけり—い
 きてねにけり最 いにしへ—イニシエ時 ⑦ なと—なむと最 ⑧ 秋の夜のノ歌次ノ歌ト順序代レリ最 なすら
 へて—ナツラエテ時 あく時の—あくとき最 ⑨ 返し—返事最—カヘ(エ)シ時 ⑩ なきなん—ナキテム時 い

にしへーイニシエ時 あはれにてーいとあはれひて最

大

①むかしーむかしおとこ大神 たえにけるーたへにける大 ④といへりければーといひければ大神 されはよ
といひてーされはよとて神 ⑤あひみてはーあひみては神 たえしーたへし神 ⑥とはいひければとーといひけ
れと大神 いにけりーいきけりい大ーいきにけり神 ことゝもーこと神 ⑧秋の夜ノ歌細字補入大 なすらへ
てーなそらへて大 やちよしーやちよを大神 ⑩いにしへよりもあはれにてなむかよひけるーナシ大神

差

①たえにけるーたへにける不 なか猶やーなかをか不群丹 ②えしもーえしも不 ④といへりければーといひ
ければ不群丹 されはよといひておとこーされはよとおもひて不群丹 ⑤あひみてはーあひはみて不群丹 た
えしーたえし不 ⑦なといひてーそおもふ不群丹 ⑧なすらへてーなそらへて不群丹 あく時のあらんーあく
よしのあらむ不群丹 ⑨返しーかえし(秋の夜のちよをひとよになせりともノ歌ノ上ニ書入レタリ)不 ⑩いに
しへよりもあはれにてなむかよひけるーナシ不

昔墓無而絶爾計流中乎尙哉將不忘女之許從

浮乍人乎波江下不忘者豫恨乍尙社戀敷諾云計禮波然者余與云而壯士

會見面者一心乎通間廻水廻流而不絶常社思諾云計禮波其夜往寢計利古來廻言友云而

秋夜廻千夜乎一夜爾颯而八千代爲寐早飽辰將有返

秋夜廻千夜乎一夜爾雖成詞殘而鷄哉鳴何

1 2 3 4 5

眞

①女之許從ー女之許九 ②然者余與云而ー然者余與云而天 ③往寢計利ー往計利九 ④颯而ー颯而内桂
九ー颯(颯)而天 寐早ー寐早天

三

むかしるなかわたらひしける人の子とも井のもとにいてゝあ 1
そひけるをおとなになりにはおとこも女もはちかはして 2
ありけれとおとこはこの女をこそえめとおもふ女はこのおと 3
こをとおもひつゝおやのあはすれともきかてなんありけるさ 4
てこのとなりのおとこのもとよりかくなん 5
つゝゝるつのみつゝにかけしまろかたけすきにけらしないも 6
みさるまに女返し 7

くらへこしふりわけかみもかたすきぬきみならずしてたれ 8
かあくへきなといひくゝてつゝにほいのことくあひにけりさ 9

て年ころふるほとに女おやなくたよりなくなるまゝにもろと
 もにいふかひなくてあらんやはとてかうちのくにたかやすの
 こほりにいきかよふ所いてきにけりさりけれとこのもとの女
 あしとおもへるけしきもなくていたしやりけれはおとこゝと
 心ありてかゝるにやあらむと思ひうたかひてせんさいの中に
 かくれゐてかうちへいぬるかほにてみれはこの女いとようけ
 さうしてうちなかめて

風ふけはおきつしら浪たつた山夜はにや君かひとりこゆら
 んとよみけるをきゝてかきりなくかなしと思ひて河内へもい
 かすなりにけりまれゝかのたかやすにきてみれははしめこ
 そ心にくもつくりけれいまはうちとけててつからいるかひと
 りてけこのうつわ物にもりけるをみて心うかりていかすなり

にけりさりけれはかの女やまとの方をみやりて 22

君かあたりみつゝをゝらんいこま山くもなかくしそ雨はふ 23

るともといひてみいたすにからうしてやまと人こむといへり 24

よろこひてまつにたひゝすきぬれは 25

君こむといひし夜ことにすきぬれはたのまぬ物のこひつゝ 26

そふるといひけれとおとこすますなりにけり 27

天 ② なりにけれはとおとも女もはちなりけれはとおとも女もはち冷 ④ 心にくも心にくも東

武 ② なりにけれはなりけれは高 ④ えめとおもふゝえみめと高 ⑥ すきにけらしなゝすきにけらしも四岩す

きにけらしも(な朱)宮 ⑧ なとと高 ⑩ 女ナシ高 ⑫ かきりなくかきりもなく高 ⑭ 心にくも心よく

も尊 ⑮ うつわ物うつはもの四岩宮尊高 ⑯ みつゝをゝらんみつゝをおらん高 ⑰ こひつゝそふるこひ

つゝそぬる四岩尊高こひつゝそぬ(ふ)る宮

流 ① ゐなかわたらひゝるなかはたらひ陸いなかわたらひ奈 ② なりにけれはなりけれは千 ④ ありけれと

あそひけるを干有けれは飛 えめとおもふゝえめとおもひ明 ④ きかてなんありけるゝきかてなん有けり明

⑤ おとこの男奈 ⑥ すきにけらしなゝすきにけらしも千七山一 ⑦ 女返しかへし七 ⑧ ぼいのことくぼ

ゐのごと千—ほいことく七 ⑩なる—なる千 ⑪こほりに—さとに七—こほりこほりに山 ⑫おとこと心
—おとこと心明 ⑬あらむと—あらんとて明 思ひ—おもひて奈 ⑭こゆらん—ゆくらむ七 ⑮心にくも—
心にくも七陸奈 いまは—いまはと奈 いるかひ—いひかひ七奈—いるかい豊片 ⑯うつわ物—うつはもの
千七山明—陸奈豊雅 ⑰みつゝを—らん—みつゝををらむ一 ⑱からうして—からふして片 ⑲まつに—まつ
を千 ⑳こひつゝそふる—こひつゝそぬる千七飛山—陸奈豊片雅—わひつゝそぬる明

古

②おとな—ヲトナ時 おとこ—をとこ相最 ③ありけれと—有けりされと宵 おとこは—をとこは相—おとこ
最 この女をこそ—この女をとこそ慈えめとおもふ—えめと思ひ最 エヌ(メ朱)トオモフ時 ④おもひつゝ—
思て(つゝ)爲 おやの—おや承—ヲヤノ時 あはすれとも—あわれとも最 さてこの—この宵 ⑤おとこの—
をとこの相爲最 ⑥つゝゝむつのむつゝ—つゝゝいつのいつゝ爲—つゝゝむつゝゝむつゝゝいつゝゝいつゝゝ最
すきにけらしな—すきにけらしも相爲 ⑦返し—返事最—カ(エ)シ時 ⑧なといひ—て—かくいひ—て
相時—かく(な)いひ—て爲—なといひて承—なとかくいひて榮—かくいひて宵最 つるに—つるの(に)最
ほいのことく—ほいのことく相—ほいのことく榮—ほいのことく慈—ほいのことく最 ⑩おや—をや爲時 ⑪い
ふかひなくて—ゆひかひなくて榮—いふかひなく最 あらんや—あらはや慈 かうち—かわち最 ⑫さりけ
れと—さりけれとも最 もとの女—もとの女は宵 ⑬おもへる—ヲモエル時 なくて—なく最 おとこ—をと
こ相 ⑭せんさい—せむさる最 ⑮かうちへ—かわちへ最—カウチエ時 いとよう—いとよく承—いとやう榮
—いとよふ最 ⑯うちなかめて—うちなきて最 ⑰おきつしら浪—をきつしら浪最 こゆらん—ゆくらむ(こゆ)ら

大

ん爲—ゆくらん承最時 ⑮よみけるを—よみてけるを最 河内へも—かわちへも最—カウチエモ時 いかすな
りにけり—ゆかすなりにけり榮 ⑯まれ—かのたかやすに—かのたかやすのこほりに最 きて—いきて相
⑲心にくも—心にくも爲榮慈最 つくりけれ—つくりひ最 うちとけて—うちとけて榮 いるかひとて—
いひかひとて宵—いひかひとて最 ⑳うつわ物—うつはもの爲承慈宵時 もりける—モリキケル時 いか
すなりにけり—ゆかすなりにけり榮—いかすなりにける慈 ㉑かの—この最 ㉒みつゝを—らん—みつゝをを
らん承—みつゝををらむ宵時—みつゝををらむ最 ㉓みいたすに—みいたす承 やまと人—やまとの人最 い
へり—イエリ時 ㉔まつにたひ—まつをたひ—相最—まつを(に)たひ—爲 ㉕たのまぬ—たのめぬ最
時 こひつゝそふる—こひつゝそぬる相爲承慈宵時 ㉖おとこ—をとこ相
⑳ありけれと—ありけれは神 おもふ—おもひ大神 おとこをと—をとこをこそと大 ㉗あはすれとも—あは
するをも大神 ㉘おとこ—をとこ大 ㉙つゝゝむつの—つゝゝむつゝ神 すきにけらしな—すきにけらしも大神
㉚女返し—返し女大 ㉛なと—かく大神 つるに—つひに大 ほいのことく—ほいのこと大—ほいのこと神
㉜女—女は大神 おや—をや大 なく—なくなり大神 ㉝けしきも—けしき大 ㉞せんさいの中にかくれる
て—かくかうちへいぬるかほにて大—せさいの中にかくれる神 ㉟かうちへいぬるかほにて—せさいのなか
にかくれてゐて大 いとよう—いとよく大神 ㊱うちなかめて—うちなかめて—うちなかめてよめ
る神 ㊲おきつしら浪—をきつしらなみ大 こゆらん—ゆくらむ寛大神 ㊳かなしと—かなしみ神 いかす—ゆか
す大 ㊴きて—いきて大神 ㊵てつから—つくらくしをさしかけてかみをまきあけてをもなかなる女てつから

塗

大―かみをかしらにまきあけておもたかなる女のでつから神 いるかひとりて―いひかひをとりにて神 ②うつ
 わ物―うつは物大神 もりける―いひもりける神 心うかりて―ナシ大神 ③女―女は神 みやりて―詠やりて
 神 ④夜ことに―夜かことに神 ⑤いひけれと―いひたれと大 おとこ―をとこ大 なりにけり―なりにける神
 ①ゐなかわたらひ―いなかわたらひ不群丹 ②おとな―をととな なりにければ―なりければ不 おとこ―を
 とこ不 ③ありけれと―ありければ群丹 えめとおもふ―えめ不―えめ群丹 ④おや―をや不 あはすれとも
 ―あはする事も不群丹 ⑤おとこ―をとこ不 かくなん―なむ不群丹 ⑥すきにけらしな―をひにけらしな不
 いも―きみ不群丹 ⑦女返し―かゑし女(くらへこしノ歌ノ右肩ニ書入レタリ)不―返し群丹 ⑧あくへき―な
 つへき不群丹 なといひノて―かくいひて不群丹 つゐに―ナシ不群丹 ⑩女―女の不群丹 おや―をや不
 なく―なくなりて不群丹 たよりなくなるまゝにもろともいふかひなくて―たよりなかりければかくて不群
 丹 ⑫いきかよふ所―いきかよふ不 さりけれと―されと不 ⑬おもへる―おもゑる不 けしきもなくて―け
 しきもなくくるれは不群丹 いたし―いたしたてゝ不群丹 ⑭かくれるて―かくれいて不 かうちへ―かの河
 内へ不群丹 この女―をむな不 ⑮おきつしら浪―をきつしらなみ不 こゆらん―ゆく覽不群丹 ⑯よみける
 を―よめりけるを不群丹 いかす―をさノかよはず不―おさノかよはず群丹 ⑰まれノかのたかやすに
 ―さてまれノかのたかやすのこほりに不群丹 きて―いきて不群丹 ⑱てつから―かみをかしらにまきあけて
 おもなかなるをむなのでつから不群丹 いるかひ―いるかひを不―いひかひを群丹 ⑳うつわ物―うつは
 物不群丹 もりける―もりていたりける不―もりてゐたりける群丹 ㉑みつゝをくらん―みつゝをくらむ不群

丹 ②いへり―いゑり不 ③たのまぬ―たのめぬ不群丹 こひつゝをふる不―こひつゝをふる
 群丹 ④といひけれと―といゑりけれと不―といへりけれと群丹

昔鄙活爲計流人適兒鞆井之許爾出而遊計流乎長爾成爾計禮波壯士毛女毛慙通而在計
 禮跡夫者此女乎社令得思女毛此夫乎社與念乍母之合言乎毛不聞何在計流然其夫之許
 從右何

筒井津々五幹爾懸志麻呂之長生爾計良志諾妹不見問爾返女
 競來振別髮毛肩將勝不君爲而誰歟可上是五十日云而終爾如本意會爾計利然年來歷
 間爾女之親無便無成隨爾諸共爾云甲斐無而將有哉左河内國高安郡爾往通所出來爾計
 利雖然此本妻惡與思經流氣色毛無而沒禮者出立而遣計禮波夫異情在而如是似哉將有
 與思猶而前裁之中爾隱居而彼河内將去而爾而見者此女最能假相師傳打長目而
 風吹者與津白波龍田山夜半兒哉君之獨往覽諾讀計流乎聞而無限悲與思而河内江毛
 治不往在爾計利恰彼高安爾往而見者最初社糞毛作計禮今者打解而髮乎卷上而自飯匙
 乎取而籠子之器爾盛計流乎見而心愁惜而不往成爾計禮波彼女大和之方乎見遣而
 君之方見乍乎將居生馬山雲勿隱莫天者雖歷諾云而見出有爾令辛倭人將來與云有計

禮者悅而待爾度々過爾計禮波

君將來與云志每夜過寢禮者不特魂廻戀乍社歷諾云計禮與夫不住成爾計利

眞

④五幹一五幹(幹朱)内一五幹桂九 ③前裁一前裁内桂 彼河内將去而爾而 彼河内江將去而爾而天 ⑨
河内一河内國天 ⑩見遣而一觀遣而内桂 ⑪生馬一生駒天 ⑫不特魂廻 不特魂廻内桂九一不特魂廻天

二四

むかしおとこかたるなかにすみけりおとこ宮つかへしにとて
 わかれおしみてゆきにけるまゝに三とせこさりければまちわ
 ひたりけるにいとねむころにいひける人にこよひあはむとち
 きりたりけるにこのおとこきたりけりこのとあけたまへとた
 ゝきけれとあけてうたをなんよみていたしたりける
 あらたまの年の三とせをまちわひてたゝこよひこそにゐま
 くらすれといひいたしたりければ
 あつさゆみま弓つき弓年をへてわかせしかことうるはしみ

1 2 3 4 5 6 7 8

せよといひていなむとしければ女

あつさ弓ひけとひかねと昔より心はきみによりにし物をと
 いひけれとおとこかへりにけり女いとかなくしてしりにたち
 てをひゆけとえをいつかてし水のある所にふしにけりそこな
 りけるいはにおよひのちしてかきつけゝる
 あひおもはてかれぬる人とゝめかねわか身は今そきえは
 てぬめるとかきてそこにいたつらになりけり

9 10 11 12 13 14 15

天

①宮つかへしにとて一みやつかへしにとて色 ④きたりけり一きたりた(ケ)り色 ⑤といひていなむとしければ女一といひてなんいなんとしければ重 ⑥しりにたちてをひゆけと一しりにたちてをひゆけと冷 ⑦えをいつかて一えをいつかて紹東重 ⑧およひ一をよひ紹重

武

②まちわひたりけるにいとねむころにいひける人にこよひあはむとちきりたりけるにこの一まちわひたりけるにいとねむころにいひける人にこよひあはむとちきりたりけるをこの宮 ③ちきりたりけるに一ちきりたりけるを四岩宮 きたりけり一きにけり算 ⑥にみまくら一にいまくら高 ⑦をいつかて一をいつかて四岩宮算高

流

①むかしおとこむかしおとこ女七 ②わかれおしみてわかれをおしみて片 まちわひたりまちわひたり
隆 ④きたりけり來たりけり明 ⑤女ナシ千 ⑥をひゆけとおひゆけと千七をいゆけと一 元をいつ
かて元をひつかて干山明隆奈豐片雅元おひつかて七 ⑧およひをよひ七奈豐片

古

①おとこ男女相爲榮最時おとこ女承 かたるなかかたるなか承かたいなか最 おとこをとこ相最
宮つかへミヤツカエ時 ②わかれおしみてわかれをしみて相榮 わかれをしみて最時 ゆきにけるい
きにける宵 ままにママニ時 ③とせこさりければみとせにりにければ最 まちわひたりけるにまち
わひて慈まちわひたりけるにやありけん宵 ④こよひあはむとこよひなんあはむと爲こよひあわむと最
ちきりたりけるにチキリケルニ時 ⑤おとこをとこ相 あけたまへとアケ給エト時 たきければた
きければ宵 ⑥うたをなんよみて歌をなむよみて榮 ⑦まちわひてすみわひて最 ⑧いひいたしたりけ
れはいひいたしたりければをとこ相 ⑨うるはしみうるわしみ相最 ⑩いなむとしければいなんとすれ
は承 ⑪といひけれといひければ慈ていひければ最 ⑫かへりかゑり最 女いとかなしくて女はい
とかなしくて爲女いとかなしくて榮女かなしふて最 ⑬をひゆけとおひゆけと最ライユケト時 元を
いつかて元おひつかて相元をひつかて承慈宵最 し水水最 そこなりけるそこなる最 ⑭およひを
よひ爲慈宵時おほゆひ最 かきつけるかきつけり慈 ⑮あひおもはてあひをもはて爲 きえはてぬ
めるきえはてにけるぬめる承きえはてぬめり慈

大

①おとこおとこ女大神 おとこをとこ大ナシ神 ②わかれおしみてわかれをしみて大わかれをし
みて神 ゆきにけるゆきにける大神 まちわひたりけるにまちわひたるに神 ④おとこをとこ大 きたり
けりこのとナシ大 たきければたきければ大神 ⑤あけてうたをなんうたをなむ神 よみていたし
たりけるよみていたしたりける大よみていたしける神 ⑦いひいたしたりければいひいたしたりければおと
こ大神 ⑧といひていなむとしければ女ナシ大 ⑩あつさ弓ノ歌ハ細字補入大 ⑪おとこをとこ大 女い
とかなしくて女いとかなしうて大 ⑫をひゆけとをいゆけと神 元をいつかて元をひゆかて大 ⑬およ
ひをよひ大 ⑭きえはてぬめるきえはてにける大きへはてぬめる神 ⑮そこにいたつらにいたつらに

大神

①かたるなかかたいなか群丹 おとこをとこ不 ②わかれおしみてわかれをしみて不 まちわひたりけ
るにまちわたりけるに不群丹 ④たきければたきければ不群丹 ⑤あけてうたをなんあけてなむ
たを不群丹 ⑥にみまくらにひまくら不 ⑦いひいたしたりければいひいたしたりければをとこ不いひ
いたしたりければおとこ群丹 ⑧といひていなむとしければ女といひていなんとすれはうらみてをむな不群
丹 ⑩かへりかゑり不 女いとかなしくて女いとかなしうて不群丹 ⑫をひゆけとをひゆけと不群丹
元をいつかて元をひつかて不元をひつかて群丹 そこなりけるそこなる不群丹 ⑬いはいわ不 およ
ひをよひ不群丹 かきつけるかきつけり不群丹 ⑭きえはてぬめるきえはてぬめる不 ⑮そこにい
たつらにいたつらに不群丹

昔男女片田舎爾住計利壯士宮仕師爾左別乎惜而往計流隨爾三年左右乎不來計禮波待

侘有計流爾最勲爾云計流他爾今夜將會與契計流爾此夫來有計利此戸開給與持計禮者
不開歌乎何讀而使用有計流

璞歲迺三季乎待侘而只今夜社新枕將爲諾云出有計禮者壯士

梓弓檀弓槻弓年乎歷而已爲志神言忠令見諾云而將去與爲計禮波女

梓弓雖引雖不引從昔心者君爾賴似志魂乎諾云計禮與夫還爾計利女最悲而後爾立而

追行與得追不付妙美井之在所爾伏爾計利爾所有計流石爾及後爲而書付計流

相不念離寢留人乎留不得吾身者今社消終寢目留諾書而彼所爾徒爾成爾計利

眞 ①待侘有計流爾—待侘有計流天 ②契計流爾—契計流天 此戸開給與—此戸開與桂九 ④諾云出有計禮

者—諾云有計禮者天 ⑥雖引雖不引—雖引不引天 ③消終寢目留—消終寢目留內桂九 徒爾—從爾天

三五 むかしおとこ有けりあはしともいはさりける女のさすかなり

けるかもとにいひやりける

秋のゝにさゝわけしあさの袖よりもあはてぬる夜そひちま

さりける色このみなる女返し

みるめなきわか身をうらとしらねはやかれなてあまのあし
たゆくゝる

武 ④色このみなる—いろこのみなりける高

古 ①あはしともいはさりける—あはれともいわさりける最 さすかなりける—さすかになりける最 ②いひや

りける—いひさける樂 ③さゝわけしあさの—さゝわけあさの慈 あはて—あわて最 ぬる—こし爲 ④色こ
のみなる—色このみなりける最 返し—返事最—カエシ時

大 ①あはしともいはさりける—あはれ(し)ともいはさりける大 さすかなりけるか—さすかなりける大 ④色こ

のみなる—いろこのみける神 ⑤あしたゆくゝる—あしたゆきくる大—あしたゆかゝる神

塗 ③秋のゝに—秋の野の不群丹 ④色このみなる—いろこのみなりける不群丹 返し—かゑし不 ⑤わか身を—

わかみの不 しらねはや—しられはや群丹

昔男在計利不相友不云計流女乃然成計留之許江遣計流

秋野爾小竹別朝之從袖毛不會眠夜社漬勝計留好色有計流女返

見日無吾身乎浦與不知早不枯泉郎足緩來流

眞 ①不云計流—不云計流天 遣計流—遣流天

三 六 七 八 九
むかしおとこ五條わたりなりける女をえゝすなりにけること
ゝわひたりける人の返ことに
おもほえず袖にみなとのさはく哉もろこし舟のよりし許に

武 ①女を—女の高 ⑤もろこし舟の—もろこし舟も高

流 ①えゝすなりにける—えゝすなりける飛山明奈片

古 ①おとこ—をとこ相 五條わたりなりける—五條わたりなるける承 えゝす—えす承 なりにける—なりに承

慈 ②返ことに—カエリコトニ時 ③みなとの—涙(涙)の最—ナミタノ時 もろこし舟の—もろこし舟も承

大 ①おとこ—ナシ大神 五條わたりなりける—五條わたりなる大 ②わひたりける—わらひたりける大—わらひ

ける神 返ことに—返しに神 ③おもほえず—おもほえず榮 みなとの—なみたそ大—みなとそ神 さはく哉
—さはくらし大神 もろこし舟の—もろこしふねも大

差 此段ナシ

昔男五條渡成計流女乎得不獲成爾計流事與慙有計流人之返事爾

不所念袖爾浪渡躁哉諸來船廻依志計爾

眞 ②躁哉—操哉内桂九

2 1

三 七 八 九
昔おとこ女のもとにひと夜いきて又もいかすなりにければ女
の手あらふ所にぬきすをうちやりてたらひのかけにみえける
をみつから

我許物思人は又もあらしとおもへは水のしたにも有けりと
よむをこさりけるおとこたちきゝて

みなくちに我やみゆらんかはつさへ水のしたにてもろこゑ
になく

1 2 3 4 5 6 7

天 ②たらひのかけにみえけるをみつから—たらひのかけにみえけるみつから色 ⑥水のしたにて—水のしたにも

(テ)色

武 ②たらひのかけに—たらひかけに尊—たらひのかけに高 ⑤こさりける—かのこさりける四岩宮尊高

流 ②たらひのかけに—たらひのかけに片 ⑤こさりける—かのこさりける千七飛山一奈豊片—かのこさりける雅

古 ①おとこ—をとこ相—ナシ最 ひと夜いきて—ひと夜ゆ(い)きて爲 又も—又相最 なりにければ—なりにけ
り最 女の手あらふ所に—女の手あらふころに宵—女ノテアラウトコロニ時 ②たらひのかけに—たらひの影

に最時 みえけるを—みえければ宵 ④とおもへは—おもへは慈 したにも—影にも最 ⑤こさりける—かのこさりける相爲承宵最時—(か)のこさりける爲—かのこさりける藥 おとこ—をとこ相最 ⑥かはつさへ—かわつさえ最—カハツサエ時 もろこゑになく—マロコエニナク時

大

①ひと夜いきて又も—ひとよいきにけりまたも大—ゆきて又神 女の手あらふ所に—女のをやはらちてよあらふところに大神 ②たらひのかけにみえけるをみつから—たらひにかけのみゆるをみてみつから大—たらひの水になくかけのうつりたるをみて女神 ④とよむを—とよみけるを神 ⑤こさりける—かのこさりける大神 たちきよて—きよて大神 ⑥もろこゑになく—もろ心なり(こへになく)大—もろこゑなり神

差

①女の—人のむすめの不群丹 ひと夜いきて—いちやはかりいきて不群丹 女の手あらふ所に—女のをやはらちて手あらふところに不—女のおやはらちて手あらふ所に群丹 ②うちやりて—とりてなけすてければ不群丹 たらひのかけにみえけるをみつから—たらひの水になくかけのみえけるをみつから不—たらひの水になくかけのみえけるをみつから群丹 ④又もあらし—またあらし不群丹 したにも—したに群丹 とよむを—とよめりけるを不群丹 ⑤こさりける—このこさりける不群丹 おとこ—をとこ不 たちきよて—きよて不群丹 ⑥かはつさへ—かはつさえ不 もろこゑになく—もろこゑになく群丹

昔男在計利女許爾一夜往而復毛不往成爾計禮波女之母腹立而手盥貫簀乎抛計禮波手
洗之水術鳴影乃遷計流乎見而

2 1

吾計物思人者復毛不有常思者水之底仁毛在計利諾讀利計禮者彼不來計流夫聞付而
水口爾我哉所見覽蝦蟇津副水底爾而諸音爾鳴

4 3

六 昔いろこのみなりける女いて、いにければ
く なたとてかくあふこかたみになりにけん水もらさしとむすひ
し もののを

3 2 1

天

②なりにけん—なりにけり(ン)色

流

②かたみに—かたみと片 なりにけん—なりぬらん奈

古

①いろこのみなりける—色このみなる最 いて、いにければ—いて、いにければいふかひなくてをとこ相—いて、いにければ(は)いふかひなくておとこ爲—いて、いにければいふかひなくておとこ藥—出にければいふかひなくておとこ最 ②なりにけん—成ぬらむ最—ナリニケ(ヌラ)ム時 むすひし—ちきりし宵最

大

①いろこのみなりける—おとこいろこのみなる神 いて、いにければ—いて、いにければおとこいふかひなかりて大—出ていにければいふかひなくておとこ神 ②あふこかたみに—あふとかたみに神 むすひし—ちきりし神

塗 ① いてゝいにければは—いてゝいにければいふかひなくて男不—いてゝいにければいひかひなくて男群丹 ② あ

ふこかたみに—あふこかたみと不群丹 なりにけん—なりぬらん不群丹 むすひし—ちきりし不群丹

昔好色有計流女出而往計禮者云貝無而壯士

何而右相期筭爾成爾計無水令不漏杜結志魂乎

眞 ① 云貝無而—云貝(貝)無而天 ② 何而右—何而在天 成爾計無—城爾計無九 水令不漏杜—水令不漏杜

内桂九—水不漏社天

元 三 1 2 3 4

に

花にあかぬなけきはいつもせしかともけふのこよひにゝる

時はなし

武 ① めしあつけられたりけるに—めしあつけられたりけるに高

流 ① めしあつけられたりけるに—めしつけられたりけるに明

古 ① 春宮の女御—東宮の女御榮 めしあつけられたりけるに めし慈—めしあつめられたりけるに最 ② けふの

こよひに—けふのこよひに承 なる時はなし—にるおりはなし相—にる時そなき榮—にるをりはなし最

大 ① 御方の花の賀に—御かたにはなのえんに大神 めしあつけられたりけるに—めしあつめられたりけるに大神

② なる時はなし—にるをり(とき)はなし大—にるおりはなし神

塗 ① むかし春宮の女御の—二條后の春宮のみやすところとまうしける時不—二條后の春宮のみやす所と申ける時

の群丹 御方の花の賀に—御かたのはなのえんに不—御かたの花の宴に群丹 めしあつけられたりけるに—め

しあけられたりける肥後すけなりける人不—めしあつけられたりけるに肥後のすけなりける人群丹 ② けふ—

あふ不 なる時はなし—しくものはなきとよみてたてまつれり不—しくものそなきとよみてたてまつれり群丹

昔二條後宮廼東宮之御息所與申計流時花賀爾食被上有計流爾近衛司有計流人

花爾不飽歎心者何時毛作志香友今日今夜爾似時無

眞 ① 食被上有計流爾—食被上有計禮波内桂九天

三 1 2 3

むかしおとこはつかかりける女のもとに

ん

流 ②つらき心のつらき心干

古 ①はつかなりけるはかなかりける最 ②なかくみゆらん—なかくみゆらんあつけあけられたりけるに惡—なかくもあるかな背

大 ①はつかなりけるはへりける大—はつかなる神 ②許—はり大 おもほえて—おもほへて神

塗 ①おとこ—をとこ不 女のもとに—をむなに不群丹 ②おもほえて—おほへて不 なかくみゆらん—なかくみるらん不群丹

皇太后宮越後本 ②おもほえて—おもほへて越 なかくみゆらん—なかくみゆらんといへりてまたほとへてなとてかくあふこかたみとなりけんみつもらしとちきりし物を越

昔男端有計流女之許爾

會言者魂緒計所念而面黃心之長所見覽

2 1

三 昔宮の内にてあるこたちのつほねのまへをわたりけるになに

のあたにか思けんよしやくさ葉よならんさかみむといふおと 2

こ 3

つみもなき人をうけへは忘草をのかうへにそおふといふな 4
るといふをねたむ女もありけり 5

武 ②よしやくさ葉よ—よしやくさはよ(の)四宮—よしやくさはの岩高—よしやくさはに尊 ⑤といふをねたむ女もありけり—ナシ高

流 ②よしやくさ葉よ—よしやくさはの一隆 ⑤ありけり—あり片

古 ①宮の内にて—宮に最 つほね—みつほね相 まへ—まゑ最—マエ時 ②よしやくさ葉よ—よしやくさ葉に(の)爲—よしやくさの慈—よしやくさはの承背最時 さかみむといふ—さかみむといふを最 おとこ—をとこ相 ④うけへは—ウケエハ(ウラミハ朱)時 をのか—おのか爲 うへ—うゑ最 おふといふなる—おふといふなり慈—おもふといふなる背—ヲウト(思フト朱)イフナル時 ⑤ありけり—ありける慈

大 ①つほね—みつほね大 わたりけるに—わたるに大神 なにの—なに大—なにを神 ②よしやくさ葉よ—よしやくさはの大神 さかみむといふ—さかみんといふを大神 ④うけへは—うけよや大 をのか—おのか神 おふと—をふと大 ⑤ねたむ女もありけり—ねたむけありけり大

塗 ①宮の内にて—男宮のうちにて不群丹 つほね—みつほね不 まへ—まゑ不 わたりけるに—わたるに不群丹 なにのあたにか—なにをあたとか不群丹 ②よしやくさ葉よ—よしやくさはの不群丹 さかみむといふ—さかみむといひければ不—さかみんといひければ群丹 おとこ—をとこ不 ④うけへは—うちへは不 ⑤ねたむ女

もありけり—ねたうをむなもおもひけり不群丹

昔宮之裏爾而或兒達之局之前乎渡爾何乎怨爾歟念計無余師哉草葉之將生態將見與云乎壯士

科裳無人乎咒咀者忘草己之上爾社負常云成諾云乎舒女毛在計利

眞 ①草葉之—草葉余天 ②舒女毛—奸(舒)女毛天

三 むかし物いひける女に年ころありて

いにしへのしつのをたまきくりかへしむかしを今になすよしも哉といへりけれとなにもおもはすやありけん

武 ③おもはすやありけん—おもはすありけむ高

流 ①女に—女干 ④といへりけれと—といへりけれは雅

古 ①むかし—むかし男宵 年ころ—とし月最 ②いにしへの—イニシエノ時 しつのをたまき—しつか(の)をたまき慈 ③といへりけれと—といへりけれは承慈—といへりけれとも最—トイエリケレト時 おもはすやありけん—おもはすやありけんしらすかし宵

大 ⑤といへりけれとなにもおもはすやありけん—ナシ神

塗 此段ナシ

昔男物云計流女爾年來在而

古賤女之麻乎卷持返往古乎今爾成世師毛哉諾云計禮與何友不思哉將在

眞 ②不思哉將在—不念(思)哉將在天

三 むかしおとこつにくにむはらのこほりにかよひける女このた

ひいきては又はこしとおもへるけしきなれはおとこ

あしへよりみちくるしほのいやましに君に心を思ます哉返

し

こもりえに思ふ心をいかてかは舟さすさほのさしてしるへ

きるなか人の事にてはよしやあしや

武 ①おとこ—ナシ高 ⑥さほ—さを高

流 ③ 君に心をきみか心を明

古 ① おとこをところ相ナシ承 かよひける—まよひける最 ② いきては—ゐきては最 又は—またも最 おも

へるけしきなれは—おもへるけしきなむ有ければ宵—おもゑるけしきなれは最—オモエルケシキナレハ時 お

とこ—をとこ相 ④ いやましに—いかてかは最 君に心を思ます哉—舟さすさほのさしもしるへきいなかの入

大 ① つのくに—つのくにの大 ② いきては—はいきて大神 おとこ—をとこ大 ③ 返し—をむなかへし神 ④ さ

してしるへき—さしてしる賢(へき)大 ⑤ ゐなかな人の事にてはよしやあしや—ゐ中人のことはあしやよしや

塗 ① ゐななかひとの事にてはよしやあしやいかに神

② ゐはらのこほり—菟原のこをり不 かよひける女—すみける女にかよひける不群丹 ③ いきては—かゑりな

は不—かへりなは群丹 又は—またはよも不群丹 おもへるけしきなれは—おもへるけしきをみて不群丹 お

昔男攝津國菟原郡爾通計流女今度往而又者不來與思經流氣色鳴者壯士

從葦部滿來鹽廼彌倍爾君爾心乎思増哉返

龍江爾思心乎如何河船差棹廼指而可知鄙人之詞似而者善哉惡哉

眞 ④ 船差棹廼—船着棹廼天

言 むかしおとこつれなかりける人のもとに

いへはえにいへはねはむねにさはかれて心ひとつになけくこ 2

ろ哉おもなくていへるなるへし 3

天 ③ おもなくていへる—おもなくていへる冷—おもなくていへる玄

武 ① つれなかりける人の—つれなかりける人(女)の四 ② いへはえに—いえはえに高

流 ① むかしおとこ—昔おとこ明

古 ① おとこ—をとこ相 つれなかりける人の—つれなかりける人の榮 ② いへはえに—いへはいふ慈—いゑはえ

に最—イエハエニ時 さはかれて—さかれて慈 心ひとつに—コ、ロヒトツニ時 ④ おもなくていへる—をも

大 ② いはねは—思へは大 ③ おもなくていへる—おもひく—ていへる大神

塗 ② いへはえに—いゑはゑに不 いはねはむねに—いはねはむねの不群丹 ③ おもなくていへる—おもひく—て

いゑる不—おもひく—ていへる群丹

昔男顔強有計流人之許爾

三 むかし心にもあらでたえたる人のもとに

玉のを、あはおによりてむすへれはたえての、ちもあはむ

とそ思

天 ②あはお―あはを紹色 よりて―より紹

武 ②あはお―あはを尊高

流 ②あはお―あはを千七飛山明一隆奈豊片雅

古 ②玉のを―タマノヲホ時 あはお―あを相―あはを爲承慈背最時 むすへれは―むすふれは慈

大 ①たえたる―たへたる神 ②あはお―あはを大神 たえての、ちも―あひての、ちも大神

塗 ①心にも―男こゝろにも不群丹 たえたる―たえにける不―たえにける群丹 人―女不群丹 ②あはお―あはを不群丹 たえての、ちも―あひての、ちも不群丹 あはむとそ思―あはぬなりけり不群丹

昔男心爾毛不有絶有人之許爾

玉緒乎沫緒爾搓而被結者絶迺後毛將相與思社思

2 1

三 昔わすれぬるなめりと、ひことしける女のもとに

谷せはみ峯まてはへる玉かつらたえむと人にわかおもはな

くに

3 2 1

武 ②おもはなくに―おもはなくに返しいつはりと思物からいまさらたかまことをか我はたのまむ高

流 ②わか―われ片

古 ①わすれぬるなめり―わすれぬるなめり榮―わすれぬるなめり背最 女のもとに―人のもとに最 ②峯まて―みねより慈 はへる―ハエル時 たえむ―たえむ最

大 ②おもはなくに―おもはなくに返しいつはりと思ふものからいまさらたかまことをかわれはたのまん大―おもはなくに女かへしいつはりとおもふものからいまさらたかまことをかわれはたのまむ神

塗 ①わすれぬるなめり―わすれぬるなめり不群―忘ぬるなめり丹 ②はへる―はゑる不 たえむ―たえん不 人―人を不群丹 おもはなくに―おもはなくに女かへし偽と思ふ物から今さらたかまことをか我はたのまん群丹

れはたのまむ不―おもはなくに女かへし偽と思ふ物から今さらたかまことをか我はたのまん群丹

小式部内侍本 ①女のもとに―女におとこ小 ②玉かつら―あをつら小 わか―われ小 おもはなくに―思は

なくにをんないつはりと思ふ物からいまさらたかまことをかわれはたのまん小

昔男忘寝留何目梨與問言爲計流女爾

谿狹美至蜂所這玉葛將絶與人爾吾莫念爾

眞 ②將絶與人爾—將絶與人爾天

2 1

三 昔おとこ色このみなりける女にあへりけりうしろめたくや思
けん

61 我ならてしたひもとくなあさかほのゆふかけまたぬ花には
ありとも返し

ふたりしてむすひしひもをひとりしてあひみるまてはとか
しとそ思

武 ③あさかほの—あさかほの尊

古

①おとこ—をとこ相最 色このみなりける—色このみなる相 女にあへりけり—女にあひいへりけり宵—女ニ
アエリケリ時 うしろめたくや—うしろめたくや爲—うしろめたく最—ウシロメタナクヤ時 ④花にはあり
とも—ハナニアリトモ時 ④返し—返事最 ⑤あひみる—あひみむ最

6

大

①おとこ—ナシ大神 色このみなりける—いろこのむ大 女にあへりけり—女をかたらひて大 うしろめたく
や—うしろめたなくや大

差

①女にあへりけり—人をかたらひて不群丹 うしろめたくや—うしろめたなしとや不群丹 ④あさかほの—あ
さかふの不 ④返し—女かゑし(ふたりしてノ歌ノ右肩ニ書入レタリ)不—女かへし群丹 ⑤ひも—物不群丹
あひみる—あひみむ不群丹

皇太后宮越後本

①おとこ—ナシ越 色このみなりける—いろこのみなる越 女にあへりけり—女にあへりける
越 ⑤あひみる—あひみぬ越

昔男好色成女爾相爾計利後目痛哉將念

吾不成下紐解勿權花暮影不待花爾者雖有返

令二人所結紐乎令獨會見流左右手者不解與社思

眞 ②下紐解勿—下紐勿解天

3 2 1

三 むかしきのありつねかりいきたるにありきてをそくきけるに
よみてやりける

2 1

君により思ならひぬ世中の人はこれをやこひといふらん返
 し
 ならはねは世の人ことになにをかも戀とはいふと、ひし我
 しも

九六

天 ⑤とひし我しも—とひし我か(シ)も色
 武 ③思ならひぬ—おもひならいぬ高 返しならはねは世の人ことになにをかも戀とはいふと、ひし我しも—ナシ
 流 ①かりいきたるに—かりいきけるに雅
 古 ①かりいきたるに—かりいきたるに宵時—かりいきけり最 ありきてをそくきけるに—きておそくきける
 ②よみてやりける—よみてやれりける最 ③返し—返事最—カへ(エ)シ時 ④戀とはいふと—戀といふ
 とも(は)最
 大 ①かりいきたるに—ものいきて大—ものにゆきて神 ありきてをそくきけるに—をそくかへりけるに大神
 ④世中の—世の中に大
 塗 ①かりいきたるに—物にいきて不群丹 ありきてをそくきけるに—ひさしうかみらさりけるに不—ひさしうか
 へらさりけるに群丹 ②よみてやりける—いひやる不群丹 ③返し—かえし(ならはねはノ歌ノ上ニ書入レタ
 リ)不 ⑤とひし我しも—とひわふれとも不群丹

昔紀有常物爾往而遅來計禮波讀而遣計流
 依君思將學世中之人者是親戀與云覽返
 不習者代每人何乎鴨戀與者云與問志吾師裳
 眞 ⑤問志吾師裳—問師吾師裳天

3 2 1

三
 むかし西院のみかと、申すみかとおはしましけりそのみかと
 のみこたかいこと申すいまそかりけりそのみこうせ給ておほ
 んはふりの夜その宮のとなりなりけるおとこ御はふりみむと
 て女くるまにあひのりていたりけりいとひさしうゐていて
 たてまつらすうちなきてやみぬへかりけるあひたにあめのし
 たの色このみ源のいたるといふ人これも、のみるにこのくる

6 5 4 3 2 1

まを女くるまとみてよりきてとかくなまめくあひたにかのい 7
 たるほたるをとりて女のくるまにいらたりけるをくるまなり 8
 ける人このほたるのともす火にやみゆらんともしけちなむす 9
 るとてのれるおとこのよめる 10
 いてゝいなはかきりなるへみともしけち年へぬるかとな 11
 こゑをきけかのいたる返し 12
 いとあはれなくそきこゆるともしけちきゆる物とも我はし 13
 らすなあめのしたの色このみのうたにては猶そありけるいた 14
 るはしたかふかおほち也みこのほいなし 15

天

⑮あはれ—あわれ色 ⑯したかふ—したかふ色

武

①みかと、申す—みかと申高 おはしましけり—おはしましける尊 ④ゐていてたてまつらす—ゐていてまつらす宮 ⑤うちなきてやみぬへかりける—ナシ高 ⑥ものみるに—このみるに尊 ⑧いらたりけるを—いらたりける高 ⑩したかふ—したかふ高 ⑪ほいなし

流

①みかとのみこ—みかとみこ千 ③御はふり—御はうふり片 ④いてたりけり—いてたりける明 ひさしう—ひさしふ片 ゐていてたてまつらす—ゐてたてまつらす隆 ⑥このくるま—こ車七 ⑧くるま—ナシ雅 ⑨けちなむするとて—けちなんとするとて豊 ⑩ともしけち—ともしけち明 ⑫猶そ—なをうそ七

古

①おはしましけり—おはしましける最—ヲハシマシケリ時 ②たかひこ—たかひこ最 いまそかりけり—いまそかりける最 おほんはふり—おほんはうふり相—ヲホムハフリ時 ③おとこ—をとこ相 御はふり—御はうふり相—御はふり榮 ④女くるま—おんな車宵 いてたりけり—いてたりける慈 ゐていて—ゐていたし最 ⑤といふ人—といふ人と慈 ものみるに—ものみる相最—物みるに榮 ⑦みて—みなして最時 あひたに—ほとに最 ⑧ほたるをとりて—ほたるとりて慈 女のくるま—車宮—女くるま承最時—女のくるま榮 いらたりけるを—入たるを最 ⑨ほたるの—ほたるを(の)最 ともし—ともし最 けちなむするとて—けちなんすめるととて相最時—けちなんすめるととて爲—けちするとて慈—けちなむすとして宵 ⑩おとこの—をとこの相—おとこの最 ⑪かきりなるへみ—かきりなるへき慈 年へぬるか—としいぬるか慈 なくこゑをきけ—なく聞(聲)をきけ榮 ⑫返し—返事最—カエシ時 ⑬ともしけち—ともしける(ち)爲—ともしけち最 しらすな—シラスヤ時 ⑭あめの—御子のほゐなくあめの最 うたにては—歌にて慈 猶そありける—なをそなりける承 ⑮したかふ—したかふ最時 おほち—ヲホチ時 みこのほいなし—御子のほひなし榮—ナシ最 ①おはしましけり—をはしけり大 ②たかひこ—たかひこ大 いまそかりけり—いますかりけり神 うせ給て—うせたまふて神 ③おとこ—をとこ大 ④女くるまにあひのりて—ナシ神 ひさしう—ひさしく大 ⑤やみ

大

ぬへかりける—やみぬかゝりける大—いてたてまつりぬかゝりける神 ⑥これもよのみるにこのくるまを—ナ
 シ大神 ⑦よりきて—よりきぬ神 とかく—とかう大神 かのいたる—いたる大 ⑧女のくるま—女くるま大
 神 ⑨ともす火にやみゆらん—ともすひにやあらむ大—ともすにやあらむ神 けちなむするとて—けちなんす
 とて大—けちなむとすめるとて神 ⑩おとこの—をとこの大 ⑪年へぬるか—としへぬなりと大 ⑫かのい
 たる返しいとあはれなくそきこゆるともしけちきゆる物とも我はしらすな—ナシ神 ⑬なくそきこゆる—けに
 (なく)そかなしき(きこゆる)大 ともしけちきゆる物とも—もしひのきゆらんことも大 しらすな—えしら
 す大 ⑭うたにては—歌には大 猶そありける—なをくそ(をえせうたにそ)ありける大—なをうちありける神
 いたるはしたかふかおほち也—ナシ神 ⑮みこのほいなし—ナシ大神

釜 此段ナシ

昔西院帝與申御門御坐計利其帝親王崇子與言御在計利其親王疾給而葬夜其宮際有計
 流夫御葬將見左女車爾相乘而出有計利最久將出不奉打泣而將病部賀利計流間爾向爾
 夫車立計其者源至與云天下好色有計利此車乎女獨之車與思而左右妯問爾彼至螢乎取
 而此車爾入有計禮者車有計流人此螢之燈火丹哉將似與思而滅何與爲左男讀
 出而去者限可爲燈盡年歷寢流歟與哭聲乎奇希彼至返
 最天晴鳴莫所聞燈火之滅流魂友我者不知勿諾何返有計流天下好色適歌仁者直社在

計流

眞

①御坐計利—御坐計利(朱)天 疾給而—疾給而天 ②螢乎取而此車爾入有計禮者車有計流人此螢之—ナシ九
 ③此車爾—此女車爾天 ④哭聲乎奇希—哭聲乎奇哉九—哭聲乎寄(奇)希天 ⑤鳴莫所聞—鳴莫所聞(聞)天

四 昔わかきおとこけしうはあらぬ女を思ひけりさかしらするお 1
 やありて思ひもそつくとしてこの女をほかへをひやらむとすさ 2
 こそいへまたをいやらす人のこなれはまた心いきおひなかり 3
 けれはとゝむるいきおひなし女もいやしけれはすまふちから 4
 なしさるあひたにおもひはいやまさりにまさるにはかにおや 5
 この女をゝひうつおとこちのなみたをなかせともとゝむるよ 6
 しなしゐていてゝいぬおとこなくゝよめる 7
 いてゝいなは誰か別のかたからんありしにまさるけふはか 8
 なしもとよみてたえいりにけりおやあはてにけり猶思ひてこ 9

そいひしかいとかくしもあらしとおもふにしんしちにたえい 10
 りにければまとひて願たてけりけふのいりあひ許にたえいり 11
 て又の日のいぬの時はかりになんからうしていきいてたりけ 12
 るむかしのわか人はさるすける物思ひをなんしけるいまのお 13
 きなまさにしなむや 14

天

武

④をいやらす―をひやらす紹 いきおひ―いきほひ紹 ④いきおひなし―いきほひなし紹 すまふ―すまう紹
 ⑤をいやらす―をひやらす高 なかりければ―なかりけれと高 ⑥おとこちのなみたを―おとこちのなみたを

流

①けしうはあらぬ―けしうあらぬ七 女を―をんな片 ②をひやらむ―をいやらむ千七一 ⑤また―いまた
 飛山明一隆奈 をいやらす―をひやらす飛明隆奈片雅 いきおひ―いきをひ千片―いきほひ七山明隆聖 ④
 いきおひなし―いきをひなし千片―いきほひなし七隆聖―いきおひなし雅 すまふ―すまう七聖雅 ⑤さるあ
 ひたに―さるあいたに千 にはかに―にはかも雅 おや―このおや七 ⑥をひうつ―をいうつ七一―おひうつ
 飛山明奈 ①願―くはん片 ②わか人―わかう人聖

古

①おとこ―をとこ相最 思ひけり―おもひける慈 おや―ヲヤ時 ②ほかへ―ホカエ時 をひやらむ―をいや

らん爲宵―おひやらん最 さこそいへまた―さこそいへいまた爲―さこそいへいまた承
 宵最―サロツイエイマタ時 ③をいやらす―をひやらす相榮慈―おひやらす最 いきおひ―いきをひ相榮慈宵
 時―いきをい爲―いきをる最 ④いきおひなし―いきをひなし相榮―いきをいなし爲時―いとおひてなし慈―
 いきをるなし最 すまふ―スマウ時 ⑤さるあひたに―さるあいたに爲 まさる―まさり慈 にはかに―には
 や最 おや―このおやの最―ヲヤ時 ⑥をひうつ―をいうつ爲時―おひうつ最 おとこ―をとこ相最 ⑦ゐて
 いて―いぬ―いていて―いぬ榮 おとこなく―よめる―をとこなくよめる相―ナシ最 ⑧けふはかなし
 も―けふはかなしも女のくしたりけるものにみちよりいひおこせりいつこまでをくりはすると人とはゝあかぬ
 わかれのなみた川まで宵 ⑨とよみてたえいりにけり―とよみてたえいりにければ慈―とあるをみておとこた
 えいりにけり宵 たえいりにけり以下しんしちにマデナシ最 おや―ヲヤ時 ⑩まとひて願たてけり―まとい
 てくわんたてけり榮―まとひて願たてにけり最 ⑪いぬの時はかりになん―いぬの時はかりに最 いきいてた
 り―いきたり最 ⑫わか人―わかき人承―人最 物思ひをなん―物思ひなむ榮 いまの―いまいまの爲 おき
 な―ヲキナ時

大

①けしうはあらぬ女を―けしからぬ人(女)を大―けしからぬ人を神 おやありて―をやありて大―をやありと
 て神 ②をひやらむ―をいやらむ大―おひやらむ神 さこそいへ―さこそいへと神 ③をいやらす―おひやら
 す神 また心いきおひなかりければ―ナシ大―又神 ④とゝむるいきおひなし―とゝむるいきをいなし大―と
 ゝむるいきほひもなし神 女も―をむな神 すまふ―すまう大 ちからなし―ちからもなし神 ⑤おや―をや

大 ⑥女を―女をついに大―をむなひをつゐに神 をひうつ―をうつ大 おとこ―をとこ大 なかせとも―
 なかせと神 とゝむるよしなし―さうるよしなし大―さふるよしなし神 ⑦ゐていてゝいぬ―さてゐていてぬ
 大神 ⑧いてゝいなは―いとひて(てゝいな)は大―いとひては神 かたからん―かたな(か)らん大 ⑨とよみ
 てたえいりにけり―とよみてたへいりにけり大神 おやあはてにけり―ナシ大―をやあはてきにけり神 猶―
 なをさりに大 ⑩しんしちに―まことに大神 たえいりにければ―たえいりたれば大―たへいりにければ神
 ⑪まどひて願たてけり―まどひつらふき願をたてけり大―まどひてみつをふ願をたてけり神 たえいりて―
 たへいりて神 ⑫いぬの時はかりになん―いぬのときはかりにおむな神 いきいてたりける―いきいてたりけ
 る女かへる人につけていつくまでをくりはしつと人とはゝあかぬなこりのなみたかはまてとありけるをきゝて
 こそおとこはたえいりける大―いきいてたりける女かへるひとにつけていつくまでをくりはしつと人とはゝあ
 かぬわかれのなみたかはまてとありけるをきゝておとこはたへいりける神 ⑬わか人―わかき人大神 さる
 すける―かゝる神 いまのおきなまさにしなむや―ナシ大―いまのよのおきなまさにしなむや神
 ⑭おとこ―をとこ不 けしうはあらぬ女を―けしうあらぬ人を不群丹 おやありて―をやありて不 ⑮思ひも
 そ―おもひも不群丹 をひやらむとすさこそいへまたをいやらす―ならむといふ不群丹 ⑯また心いきおひな
 かりければ―心のいきほひなくて不―またこゝろのいきをひなくて群丹 ⑰とゝむるいきおひなし―ゑとゝめ
 す不―えとゝめす群丹 すまふ―すまう不 ⑱さるあひたに―さこそいゑまたゑやらすなるあひたに不―さこ
 そいへまたえやらすなるあひたに群丹 にはかに―ナシ不群丹 おや―をや不 ⑲をひうつ―おひいつ不―を

塗

ひいつ群丹 なかせとも―をとせとも不―おとせとも群丹 とゝむるよしなし―とゝむるぢからなし不群丹
 ⑲ゐていてゝいぬ―ついにいぬれ女返人につけていつくまでをくりはしつと人とははあかぬわかれのなみたか
 わまて不―つひにいぬれ女かへし人につけていつくまでおくりはしつと人とはゝあかぬわかれのなみた河まで
 群丹 おとこ―をとこ不 ⑳いてゝいなは―いとひては不群丹 かなしも―かなしな不群丹 ㉑とよみてたえ
 いりにけり―とよみてたへいりにけり不 おや―をや不 猶―なをさりに不群丹 ㉒しんしちに―まことに不
 群丹 たえいりにければ―たへいりたれば不―たえいりたれば群丹 ㉓まどひて願たてけり―まどひて願たと
 たてけり不群丹 たえいりて―たえいりて不 ㉔いぬの時はかりになん―いぬ時はかりになん不 ㉕わか人―
 わか男不群丹 さるすける―かゝるすける不群丹 物思ひをなん―ものおもひなん不群丹 おきな―をきな不
 ㉖しなむや―しなむやは不群丹

昔稚男氣志浦者不有女乎思計利猿爲流母在而思毛社付左此女乎外江追將遣與爲然社 1
 五十戸土毛未追捨仁之孥成者留流勢無女毛賤計禮波摸力無思者彌倍計利率爾仁母此 2
 女乎遂爾追捨夫千之涙乎雖落障夜志裳無然間爾將爲出壯士泣哭讀 3
 厭而者誰歟別將難有志爾勝今日者賀無裳女返爾付而 4
 何所至而逐者志津與人問者不飽別之淚河至而諾讀而他江沒寢禮者母繞爾計利尙去 5
 爾思而社云然最是師裳不有與思爾右他江沒有計禮者迷而願立計利今日之日沒計自復 6

日之黄昏爾何辛爲而往便有計利往古之稚人者右歌流物乎何爲計流今代之翁當爾指南
哉時者彌生晦成計流

眞

①昔稚男—昔稚男内 追將遣與爲—追將遣與天 ②遂爾—遂爾内桂九 ③女返爾付而何所至遂者志津與
入問者不飽別之涙河至而—ナシ内桂天 ④辛爲而—辛(辛)爲而桂 右歌流—左歌流桂 物乎何爲計流—
物思乎何爲計流九

四 昔女はらからふたりありけりひとりはいやしきおとこのまつ
しきひとりはおてなるおともたりけりいやしきおともた
るしはすのつこもりにうへのきぬをあらひて、つからはりけ
り心さしはいたしけれとさるいやしきわさもならはさりけれ
はうへのきぬのかたをはりやりてけりせむ方もなくてた、な
きになきけりこれをかのあてなるおとこき、ていと心くるし
かりければいとさよらなるろうさうのうへのきぬをみいて、

やるとて

外 むらさきの色こき時はめもはるに野なる草木そわかれさり
けるむさしの、心なるへし

天

⑨わかれさりける—わかれさりけり(九)色
①いやしきおとこのまつしき—いやしき男このまつしき高 ④わさも—わさし四岩 ⑤せむ方もなくてた、な
きになきけり—ナシ四岩 ⑥わかれさりける—わかれさりけり岩

流

②もたりけり—もたりける明 ④さるいやしき—またさるいやしき千七 ⑤はりやりてけり—はかりやりてけ
り雅 た、なきに—た、なきになきに七 ⑥なきけり—なきにけり奈 これを—それを七 ⑦きよらなる—き
よらかなる七隆 うへのきぬを—きぬを明

古

①おとこ—をとこ相最 ②おとこ—をとこ相最 もたりけり—モチタリケリ時 いやしきおとこ—いやしきを
とこ相最 もたる—モチタル時 ③しはすのつこもりに—しわすのつこもりに相—しはすのつこもりに承—し
はすつこもりに慈—しはすかりに最 うへの—うゑの最—ウエ(へ)ノ時 あらひて—あらひてと最 ④いたし
けれと—いたしけれとも最 さるいやしき—またさるいやしき相榮背最—またさるいやしき爲 ⑤うへ—うゑ
最 せむ方もなくて—せんかたなくて最 ⑥おとこ—をとこ相最 ⑦きよらなる—きよらなる榮—きらかなる
最 ろうさうの—ろふ(う)さうの爲 うへのきぬを—きぬを慈時—うゑのきぬを最

大

① いやしきおとこのまつしき―あてなるおとこ神 ② ひとりはいまひとり神 あてなるおとこ―あてなるおとこを大―いやしきおとこのまつしき神 もたりけり―したり神 もたる―もたりけるか大―もたるか神
 ③ うへの―うえの大 ④ いたしけれと―いたしたりけれと神 きるいやしき―またさるいやしき大―さやうの神 ⑤ うへのきぬ―きぬ大神 せむ方もなくて―せんかたなくて大神 ⑥ なきけり―なきをり神 ⑦ きよらなる―きよなる大―けうらなる神 ろうさうの―ろうさふの神 うへのきぬを―うえのきぬを大―うへのきぬを神 みいて、やるとて―たゝかたときにして、やるとて大―たゝかたときに出でてやるとてよめる神 ⑧ わかれさりける―はかれさりける大

塗

② おとこ―をとこのとくある不―男のとくある群丹 もたりけり―もちたりけり不群丹 いやしきおとこ―そのいやしき男不群丹 もたる―もちたる不群丹 ③ うへの―うえの不 ④ いたしけれと―いたしけれとも不群丹 さるいやしき―いまたさる不群丹 ⑤ うへ―うえ不 はりやりてけり―はりさきてけり不群丹 たゝなきに―なきにのみ不群丹 ⑦ きよらなる―きよけなりける不群丹 ろうさうの―四位の不群丹 うへのきぬを―うえのきぬ不―うへのきぬ群丹 みいて、やるとて―たゝかたときにみいて、不群丹

昔女朋比二人在計利一人者賤夫之貧一人者高貴有壯士持有計利賤夫用有女師馳之晦
 爾袍乎洗而自張計利志者至計禮與未然有賤行毛不習計禮者衣袂乎張破而計利將作片
 裳無而只哭爾泣計利是乎彼高貴有壯士聞而最心苦在計禮者清氣有六位袍乎只片時爾

見出而遣左讀

紫色深時者目毛張爾野有草木社不別計流武藏野心可在

四

昔おとこ色このみとしるく女をあひいへりけりされとにく
 〵はたあらさりけりしはくいきけれと猶いとうしろめたく
 3 さりとていかてはたえあるましかりけりなをはたえあらさり
 4 けるなかなりけれはふつかみか許さはることありてえいかて
 5 かくなん
 6 いて、こしあとたにいまたかはらしをたか、よひちと今は
 7 なるらんものうたかはしさによめるなりけり

天

⑦ よめるなりけり―よめるなるへし重

流

① にくゝはた―にくゝは七 ④ ふつかみか許―ふつか三日はかり明 えいかて―いかて明

古

① おとこ―をとこ相 色このみ―色こ(朱)のみ承 あひいへりけり―アヒイエリケリ時 にくゝはた―にくゝ

ははた背くは最 ⑤さりとていかてはたさりていかす(て)はた爲さりていかてたく背さりて
てはいかて最 ⑥えあるましかりけりなをはたえあさりけるなかなりければニアルマシカリケルナカナリ
ケレハ時 けりなをはたえあさりけるヨリ第四十六段といへりければよみてやる迄二葉落丁最 ⑥かはらし
をさかはかしを相 ⑦ものうたかはしさモノ、ウタカハシサ時

大

①おとこナシ大神 あひいへりけりあひくへりけり大あいしりたりけり神 されとさりければ大ナ
シ神 にくははたいとにくははた大にくはた神 ②あさりけりあらさりければ大神 しはくし
はし大神 猶いとうしろめたくなをうしろめたる大神 ③さりとていかてはたえあるましかりけりなをはた
えあさりけるなかなりければさりとてえいかてはあさりければ大さりとていかてはえあさりけりな
をはたあさりけるなかなりければ神 ④えいかていかて大神 ⑤いてこしあとたにいてく行くことた
に(こ)しあとたに大出てゆくあとたに神 ⑥いまたいまはは かはらしをさかはらねは大かはかねは神

差

⑦ものうたかはしさことのうたかはし大よめるなりけりよめるうたなり大
①あひいへりけりあひしれり不群丹 されとナシ不群丹 にくははたにくも不群丹 ②あさりけり
あさりけりとも不あらさりけりと群丹 しはいきければナシ不群丹 猶いとうしろめたくなを
いとうたかひうしろめたなし不群丹 ③さりとていかてはたえあるましかりけりなをはたえあさりけるな
なりければうへにいとたははあさりけり不群丹 ④ふつかみか許さることありてふつかはかり不群
丹 ⑤えいかていかて不群丹 ⑥いてこしあとたにいてく行く不群丹 かはらしさかはかねに不群丹

昔男在計利好色與知々女乎相謂計利然計禮者數往計禮與猶最後目痛然左當將不往者
得不有計流中成計禮者二三日障事在而得不往是何

1 2 3

出而跡谷未替乎誰之通路及今者成覽猶伏爾讀流可鳴

眞 ①女乎相謂計利女爾相梨計利内桂九 ②誰之通路及誰之通路與天 猶伏爾猶佐爾内桂九

四三

むかしかやのみこと申すみこおはしましけりそのみこ女をお
ほしめしていとかしこうめくみつかうたまひけるを人なまめ
きてありけるを我のみと思ひけるを又人きつつけてふみやる
ほときすのかたをかきて
ほときすななくさとのあまたあれは猶うとまれぬ思も
のからといへりこの女けしきをとりにて
名のみたつしてのたおさはけさそなくいほりあまたとうと

1 2 3 4 5 6 7

まれぬれは時はさ月になんありけるおとこ返し

いほりおほきしてのたをさは猶たのむわかすむさとにこゑ

したえすは

10

天

⑥この女—この色

武

②かしこ—かしこく四岩宮尊高 めくみつかうたまひけるを—めくみつかふたまひけるを高 ⑦してのたおさ—してのたをさ高 ⑨してのたをさは—してのたおさは四岩宮尊高

流

①そのみこ—そのみこ隆 ②かしこ—かしこく千七飛山明一隆奈 めくみつかうたまひけるを—めくみつかふたまひけるを片 ⑤思ものから—思もから七 ⑥けしきをとりにて—けしきおとりて千 ⑦してのたおさ—してのたをさ七 いほり—いほり千 ⑧してのたをさは—してのたおさは飛山一隆奈豊片雅—してのたおさ明

古

①おはしましけり—ヲハシマシケリ時 ②かしこ—かしこく相爲承慈宵—カシコフ時 めくみつかうたまひけるを—めくみつかふたまひけるを爲宵時 人なまめきてありけるを—人なまめきてありけるを榮—いとなまめきて有けるか宵 ⑤思ひけるを—ヲモヒケルヲ時 ⑥けしきをとりにて—けしきおとりて承榮 ⑦してのたおさ—してのたをさ承榮時 いほり—いほり相 ⑧さ月になん—さ月になん承 おとこ—をとこ相爲 返し—カヘ(エ)シ時 ⑨おほき—ヲホキ時 してのたをさは—してのたおさは榮慈

大

①みこおはしましけり—をはしけり大—みこをはしましけり神 おほしめして—おほして大神 ②めくみつか

うたまひけるを—めくみつかひ給ける大—めくみつかひたまひけるを神 人—人の大 ③我のみと思ひけるを—ナシ神 きよつけて—きよて大 ⑥けしきをとりにて—けしきおこりて神 ⑦してのたおさ—してのたをさ大神 あまたと—あまたに(と)大—あまたに神 ⑧おとこ—をとこ大 ⑨してのたをさは—してのたをさを大神

⑩たえすは—たへすは神

差

①かやのみこと—かやうのみこと不—かやのみことと丹 おはしましけり—をはしけり不 おほしめして—ナシ不群丹 ②めくみつかうたまひけるを—めしつかひ給けり不群丹 人なまめきてありけるを—いとなまめきて有けるをわかき人はゆるささりけり不群丹 ③又人—又人々丹 ④かきて—つくりて不群丹 ⑤といへり—といえりけり不—といへりけり群丹 ⑦してのたおさ—してのたをさ不 あまたと—あまたに不群丹 ⑧さ月になんありける—五月なむありければ不—さ月になんありければ群丹 返し—またかえし不—又返し群丹 ⑨おほき—おほき不 してのたをさは—してのたおさは群丹 ⑩たえすは—たえすは不

昔賀陽親王與申御子御坐計利其親王女乎念而最賢惠乍通給計流乎最囁而吾耳與思計
流乎又他聞付而文遣與而霍公之像乎書而

霍公汝鳴鄉迺多有者名乎將被疾思物乍諾云計禮者此女氣色劣而
名耳立志手之田主者朝社鳴五百里多爾將被疾者時者蕤賓爾何在計流男返
五廬入多幾死代之田亭乎猶特吾棲鄉爾音爲不絶者

1 2 3 4 5

眞

②又他聞付而—他聞付而天 書而—書天 ③氣色劣而—氣劣而天 ④藁賓—生賓天 ⑤死代之田亭—死之田亭九—死手之田亭天 吾棲鄉爾—吾栖鄉爾天

四 むかしあかたへゆく人にむまのはなむけせむとてよひてうと
1
き人にしあらさりけれはいゑとらしさかつきさゝせて女のさ
2
うそくかつけんとすあるしのおところたよみてもものこしにゆ
3
ひつけさす
4

いて、ゆく君かためにとぬきつれは我さへもなくなりぬへ
5
きかなこのうたはあるかなかにおもしろければ心とゝめてよ
6
ますはらにあちはひて
7

天 ②いゑとらし—いへとらし紹

武 ⑥心とゝめて—心とめて高 ⑦あちはひて—あちわひて高

流 ①はなむけ—はなけ雅 ②いゑとらし—いへとらしに七—いゑとらしに明—奈雅 ③心とゝめて—こゝろとめ

て山奈片 ⑦あちはひて—あちはへて奈

古

①あかたへ—アカタエ時 ②いゑとらし—いへとらしして相—いゑとらしして爲榮—家とらしに背—イエトウ
シニ時 女のさうそく—女のさうそく榮 ③おとこ—をとこ相爲 うたよみて—うたをよみて背 ゆひつけさ
す—ニイツケサス時 ⑤我さへも—ワレサエモ時 なりぬ—おりにぬ慈 ⑦あちはひて—アチハイテ時

大

①あかたへ—おとこあかたへ神 ②いゑとらし—いゑとらしにて大—いへとらしして神 女の—をんな大 さ
うそく—さうそくを神 ③おとこ—をとこ大 うたよみて—うたをよみて神 ゆひつけさす—ゆいつけさす大
神 ⑤君かためにと—君をいはふと大神 ⑥心とゝめてよますはらにあちはひて—心とめてよますはこきあち
はひえしもいてこし大—心とゝめてよます神

塗

①よひて—よひたりけるに不群丹 ②いゑとらし—いゑとらしして不—いへとらしして群丹 さゝせて—さゝ
せなとして不群丹 ③かつけんとす—かつく不群丹 おとこ—をとこ不 うたよみて—うたおよみて不—うた
をよみて群丹 ⑤我さへも—われさゑも不 ⑥このうたは以下あちはひて迄ナシ不群丹

昔縣江行人爾饒將爲左喚而外人爾毛不有計禮者家童子左酒坏差爲而女之裝束何與將
負左女爾相代而主夫歌讀而裳腰爾結付指

出而行君之故爾與絶津禮波吾副喪無不將成哉此歌者或之中爾面白計禮者心留而不
讀者腹爾深味毛出不來

1 2 3 4

眞 ①不有計證者—不有計證者内—不有計證者桂—不有者九 ②不將成哉—可將成哉内桂九

四五
 1 むかしおとこ有けり人のむすめのかしつくいかてこのおとこ
 2 に物いはむと思けりうちいてむことかたくやありけむ物やみ
 3 になりてしぬへき時にかくこそ思しかといひけるをおやき、
 4 つけてなく、ついたりければまとひきたりけれとしにけれ
 5 はつれ、とこもりをりけり時はみな月のつこもりいとあつ
 6 きころをひに夜ゐはあそひをりて夜ふけてや、す、しき風ふ
 7 きけりほたるたかくとひあかるこのおとこみふせりて
 8 ゆくほたる雲のうへまでいぬへくは秋風ふくとかりにつけ
 9 こせ
 10 くれかたき夏のひくらしなかむれはそのこと、なく物そか

なしき

天

武

流

古

⑥ころをひに—比ほひに紹 夜ゐは—よひは紹 や、す、しき風ふきたり重
 ③おや—ナシ高 ④ついたりければまとひきたりけれとしにけれはつれ、と—ついたりければまとひきたり
 けれとしにけれはつれ、と④—ついたりければつれ、と高 ⑦ほたるたかくとひあかる—ほたるたかうと
 ひあかる四岩宮尊高 このおとこ—このおとこ四
 ④まとひきたりけれと—まとひてきたりけれと豊 ⑤をりけり—おりけり雅 ⑥ころをひに—ころほひに隆豊
 雅 夜ゐは—よひは明奈片雅 あそひをりて—あそひをくりて明—あそひおりて雅 や、す、しき風ふきけり
 —や、す、しき風ふせりて雅 ⑦ほたるたかく—ほたるたかう千飛山明—隆奈—ほたるたかふ片
 ①このおとこに—このをとこに相—コノ男時 ②うちいてむことかたくやありけむ—心よはくうちいてん事か
 たくやありけむ宵 ③かくこそ思しか—カクソ思ヒシ時 おや—ヲヤ時 ④なく、ついたりければ—なく、
 いたりければ慈 まとひきたりけれとしにけれは—まとひきたりけれとしにけれは榮—まとひきたりければ
 しにければ慈—まとひきたりけりされとしにければ宵 ⑤つれ、とこもりをりけり—つれ、とこもりをり
 ける慈—つれ、とこもりおりけりさてなむよめる暮かたき夏の目くらしなかむれはそのこと、となくなみたお
 ちけり宵 ⑥ころをひに—ころほひに相宵 夜ゐは—よひは爲承—よるには宵—ヨヒニハ時 や、す、しき風
 ふきけり—や、す、しき風ふきける慈 ⑦ほたるたかくとひあかる—ほたるたかうとひあかる相承榮慈宵—ほ
 たるたかふ(う)とひあかる爲—ホタルタカフトヒアカル時 このおとこ—このをとこ爲 ⑩物そかなしき—な

大

みたおちけり(此歌時はみな月のノ前ニアリ)宵

②うちいてむことかたくやありけむこゝろよはくうちいてん事かたくやありけん大神 ③かくこそ思しか
 かうこそおもひしか神 けるをおやきつけてなくつたりナシ大 おやをや神 きをつけてき
 て神 ⑤つれつれこもりをりけりつくつれこもりをりけり大つれつれこりてをりけり神 ⑥ころを
 ひにころをいに大ころほひに神 夜るはよひは大神 夜ふけてあか月大 やすしき風ふきけり
 や涼しきかせふきて神 ⑦ほたるたかくとひあかるほたるあまたとひあかるを大ほたるのなまたかうと
 ひあかるを神 おとこをとこ大 みふせりてみをりて神 ⑧いぬへくはゆくへくは大 かりにつけせ
 かりにつけせとなむよみける神 ⑩くれかたきくれかたに大神

差

①むかしおとこ有けり人のむすめのかしつくいかでこのおとこに物いはむと思けり昔すきものこゝろは
 ありあてやかなりける人のむすめのかしつくをいかでものいはむとおもふ男ありけり不昔すき者の心はえあ
 りあてやかなりける人のむすめのかしつくをいかで物いはんと思ふ男有けり群丹 ②うちいてむことかたくや
 ありけむこゝろよはくひいてんことやかたかりけん不群丹 ③しぬへき時にしぬへきとき不群丹 とい
 ひけるをといふに不群丹 おやをや不 きをつけてきつけたりけり不群丹 ④なくつつけたりけれ
 はナシ不群丹 まとひきたりけれとまとひきたるほとに不群丹 しにけれはしにけれは不群丹 ⑤つ
 れつれこもりをりけりいゑにこもりてつれつれとなかめて不家にこもりてつれつれとなかめて群家に
 (朱)こもりてつれつれとなかめて丹 時はみな月のつこもり昔みやつかへしける男すゝなるけからに

ひて家にこもいたりけり時はみな月のつこもりなりけり不むかし宮つかへしける男すゝなるけからに
 ひて家にこもりゐたりけり時はみな月のつこもりなり群丹 いとあつきころをひに夜るはあそひをりてナシ
 不群丹 ⑥夜ふけてゆふくれに不群丹 やすしき風ふきけり風すしく吹不群丹 ⑦ほたるたかくと
 ひあかる螢なととひちかうを不螢なと飛ちかふを群丹 このおとこナシ不群丹 みふせりてまほりふ
 せりて不群丹 ⑧雲のうへまで雲のうへまで不

昔男在計利人娘之祠如何此夫爾物將言與思計利心弱打將出言難哉將有物病爾成而可
 死時爾是社思歎與云計流乎母聞付而泣哭傳多利計禮波夫雖迷來死似計禮波徒然與
 籠居計利時水皆盡之晦最日赤近比宵者遊居而五更而良涼風吹計利螢高蜚并此壯士見
 臥而

蜚螢至雲上可去者飽風吹常雁爾傳越

難沒夏之日沒詠者其事常鳴魂社悲敷

眞

- ① 物病爾—物疾爾天
- ② 夫—彼夫桂
- ③ 時—時者天
- ④ 最日赤近比—最日赤近比九
- ⑤ 蜚螢—蜚(行)螢
- ⑥ 其事—其言天

6 5 4 3 2 1

1 むかしおとこいとるはしき友ありけりかた時さらすあひ思
 2 ひけるを人のくにへいきけるをいとあはれとおもひてわかれ
 3 にけり月日へてをこせたるふみにあさましくたいめんせて月
 4 日のへにけることわすれやし給にけんといたく思ひわひてな
 5 む侍世中の人の心はめかるれはわすれぬへき物にこそあめれ
 6 といへりければよみてやる
 7 めかるともおもほえなくにわすらるゝ時しなればおもか
 8 けにたつ

武

③ たいめんせて—えたいめんせて四岩宮尊—えたいめんせて高 月日のへにける—月日へにける高 ④ し給に
 けん—しまいにけむ岩 思ひわひて—わひて高 ⑤ 物にこそ—ものにそ尊

流

⑥ をこせたる—おこせたる飛明奈 たいめんせて—えたいめんせて千七飛山明一隆奈尊 ④ し給にけん—し
 たまひけん—飛山明片—しまひにけむ奈 思ひわひて—わひて千—おもひにわひて明 ⑤ 世中の—よのなか
 のなかの雅

古

① おとこいとるはしき—をとこいとるわしき相 ② 人のくにへ—人ノクニニ時 いきけるを—ゆ(い)きけ
 るを爲 あはれと—あはれに相宵—あはれに(と)爲 ③ をこせたる—をこせたり慈 たいめんせて—えたいめ
 むせて相承藥慈宵時 月日のへにけること—月日へにけること爲—月日のへにけることゝ慈 ④ し給にけん—
 —しまひけん—承時 思ひわひて—おもひて慈 ⑤ といへりければ—といへりければ藥—トイエリケレハ
 時 ⑦ おもほえなくに—ヲモホエナクニ時 おもかけ—をもちかけ爲

大

① かつた時さらすあひ思ひけるを人のくにへいきけるをいとあはれとおもひてわかれにけり—かたときもえさら
 ぬみちにゆきにけり大—かたときもえさらぬみちにいきけり神 ② あさましくたいめんせて—あさましうたい
 めせて神 月日のへにけること—月日へにける事大—月へにけること神 ④ し給にけん—し給けん大 いたく
 —いたう大神 ⑤ めかるれは—ナシ大 ⑥ よみてやる—よみてやりける大 よみてやれりける神 ⑦ おもほえ
 なくに—おもほへなくに神 おもかけにたつ—おもかけにもつ(たつ)大

塗

此段ナシ

昔男最華美友在計利片時得不去思計流乎人之國江往計流乎路爾往爾計利陰精火精歷
 而遣有文爾淺猿得右得不對面恒娥火精之經寢留事忘哉爲給計無與最痛思侘乍侍世中
 人之心者被目離者可將忘物爾社在禮與云遣有計禮者
 目離友所念鳴丹所忘時志無計禮波面影爾立

1 2 3 4

眞 ①路爾往爾計利—最哀與思而別爾計利九天 ②忘哉爲給計無與—忘哉爲給計無天 世中—世中之天

毘 むかしおとこねんころにいかてと思女有けりされとこのおと

こをあたなりときゝてつれなさのみまさりつゝいへる 2

おほぬさのひくてあまたになりぬれは思へとえこそたのま

さりけれ返しおとこ 3

おほぬさと名にこそたてれ流てもつるによるせはありとい

ふ物を 6

天 ③たのまさりけれ—たのまさりけり重

武 ⑤流ても—なかれては高

流 ①いかてと—いかてかと七 思女—思ける女飛山明奈 ④返しおとこ—女かへしおとこ明 ⑤おほぬさと—お

ほぬさと明 ありといふ物を—ありてふ物を七陸片雅—あるてふ物を明

古 ①おとこ—をとこ相 思女有けり—おもひ女ありける慈 されと—されとも最 おとこを—をとこを相爲 ②

まさりつゝいへる—まさり宵 ③思へと—ヲモエト時 ④返しおとこ—返事最—カヘ(エ)シオトツ時 ⑤おほ

ぬさと—おほぬさの(と)爲—ヲホヌサト時 よるせは—あふ(よる)せは最 ありといふ物を—ありとこふ物を

榮—ありてふものを宵最—アリテイ(ト朱)ヲ物ヲ時

大 ①おとこを—おとこ大神 ②まさりつゝいへる—まさりていへる大—まりていへる神 ③おほぬさの—おほぬ

さを神 思へとえこそ—おもへとへこそ神 ⑤つるに—つひに大 よるせは—あふせは大—よるては神 あり

といふ物を—ありてふ物を大神

差 ①ねんころに—ねんころに丹 おとこを—男不群丹 ②つれなさのみ—つれなさの群丹 まさりつゝいへる

—まさりて不群丹 ③なりぬれは—きこゆれは不群丹 思へとえこそ—おもゑとゑこそ不 ④返しおとこ—か

ゑしをとこ(朱)不—返し群丹 ⑤つるに—つひに不 ありといふ—おるて—不—あるて不群丹

昔男在計利鄭重爾如何與思女在計利雖然此夫化有與聞而顔強耳倍乍云利計流

御麻廼彈手多爾成寢禮者思常得社不手飲計禮返夫 3

御麻與名爾社立禮流傳藻終爾頼湍者有云魂乎 2

眞 ①顔強耳—強顔耳天 ②不手飲計禮—不手飽計禮九

只 昔おとこ有けりむまのはなむけせんとして人をまちけるにこさ

りければ 2

今そしるくるしき物と人またむさとをはかれすとふへかり
けり 3

武 ⑤とふへかりけり—とふへかりける高

塗 ①おとこ—をとこ不 ②むまのはなむけ—ものへゆく人にむまのはなむけ不群丹 ③人を一日ひと日不—ひと日群丹

昔男在計利物江往人爾饒將爲左待計流爾不來者

今社知苦物常人將待郷乎波不枯問部借氣梨

咒 ①むかしおとこいもうとのいとおかしけなりけるをみりて 1

②うらわかみねよけにみゆるわか草をひとのむすはむことを 2

③しそ思ときこえけり返し 3

④はつ草のなとめつらしきことのはそうらなく物を思ける哉 4

武 ①みりて—みおりに高 ②返し—ナシ尊

流 ①いとおかしけなりけるをみりて—いとをかしけなりけるをみりて—明片—いとおかしけなるをみりて—雅

②うらわかみ—うらはかみ奈

古 ①おとこ—をとこ最 ②いとおかしけなりけるをみりて—いとをかしけなりけるをみてをりて爲—いとおかし

③けなるをみりて宵—いとをかしききをしらへけるをみて最—イトヲカシケナルキムヲシラフトテミヲリテ

④時 ②ことをしそ思—ことおしそおもふ榮 ⑤ときこえけり—ときこえければ宵 ⑥返し—返事最—カヘ(エ)シ

時—④なと—なも最

大 ①おとこ—おとこの大 ②いとおかしけなりけるをみりて—いとをかしけなるをみりて大—いとをかしけ

③なるをみて神 ④うらわかみ—うらをかみ大 ⑤ことをしそ思—ことをこそおもへ大—ことをこそおもへ神 ⑥

⑦返しはつ草のなとめつらしきことのはそうらなく物を思ける哉—かへしはつくきのなとめつらしきことのはを

うらなく物を思けるかな(或本在此返歌トシテ載セタリ)大—ナシ神

塗 ①いとおかしけなりけるをみりて—をかしけなるをみて不—おかしけなるをみて群丹 ②むすはむ—むすは

ぬ不群丹 ③ときこえけり—ときこえければ不—ときこえければ群丹 ④返し—かえし不

昔男妹乃最可咲有乎見而

未稚美寝好爾所見稗草乎人之將結言惜社思返

初草適名社目頼敷言社浦無魂乎思計流哉

眞 ①可咲有乎—可咲有乎天 ②稗草乎—稗草乎天 ③惜社—借社天

3 2 1

吾 昔おとこ有けりうらむる人をうらみて

鳥のこをとをつゝとをはかさぬともおもはぬ人をおもふも
のかはといへりければ

あさつゆはきえのこりてもありぬへしたれかこの世をたの
みはつへき又おとこ

吹風にこそこの櫻はちらすともあなたのみかた人の心は又女
返し

ゆく水にかすかくよりもはかなきはおもはぬ人を思ふなり
けり又おとこ

ゆくみつとすくるよはひとちる花といつれまてゝふことを
きくらんあたくらへかたみにしけるおとこ女のしのひありき
しけることなるへし

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

武

⑨又おとこナシ高

流

②とをつゝとおつゝとをを千とおは隆 ⑩しのひありきしけることしのひありきしける事

とも七豊雅しのひありきしける奈

古

②とをを相 ⑤といへりければ女相といへりければ返し宵トイエリケレハ時

⑦返し返事最カヘ(エ)シ時 ⑨又おとこナシ相時またおとこ爲 ⑩よはひ月日宵 ちる花とちる

花承 までふマテウ時 ⑪あたくらへかた(あた)くらへ最 おとこ女の相女之最

②とをつゝとほつゝ神 おもはぬ人をおもふものはひとのころをいかしたのまむ神 ③といへりけれ

はといへりければ女大といえりければ女神 ④あさつゆはあつさゆみ(さつゆは)大 ⑤又おとこを

こ大おとこ神 ⑥こそこの櫻はこそこのさくらはな大 人の心は人の心や(は)大一人のころよ神 ⑨又お

とこナシ大神 ⑩よはひ月日大 ⑪きくらんきくけん大きくてむ神 かたみにしけるかたみにしけ

る大 おとこ女の女大神 しのひありきしけることしのひありきすること大しのひあるきすること

塗

①うらむるナシ不群丹 ②とをつゝとおつゝ不 とををとおは不 おもはぬ人をおもふものはい

かたのまむ人のころをしらつゆをけたてちとせはありぬともいかたのまむ人のころお不思はぬ人をお

もふものは白露をけたて千とせはありぬともいかたのまん人の心を群丹 ③といへりければといえりけ

れはをんな不といへりければをんな群丹 ④きえのこりてもきえのこりても不 ⑤又おとこまた男(吹

風にノ歌ノ右肩ニ書入レタリ)不 ⑥人の心は一人のこゝろや不群丹 女返し―かゑしをむな不―返し女群丹
⑨又おとこ―また男(ゆくみつとノ歌ノ右肩ニ書入レタリ)不 ⑩あたくらへ―あたにて不群丹 かたみにしけ
る―たかひに不群丹 おとこ女の―ナシ不群丹 しのひありきしけること―しのひありきする事をいふ不群丹

昔男在計利怒人乎浦見而

鳥子乎拾乍拾者雖重不思人乎思魂河波諾云計禮者女

朝露者消殘而毛可將有誰歟此世乎手飲可終返男

吹風爾去年櫻者雖不散穴手飲難人之心波又女返

行水爾數書頼藻墓無者不思人乎思浦成計利化競互爾爲計流夫女之忍行爲計流言可成

眞 ④消殘而毛―消殘而天 ⑤思浦成計利―思成計利天

五 昔おとこ人のせんさいにきくうへけるに

ひうへしうへは秋なき時やさかさらん花こそちらめねさへか
れめや

武 ①せんさいに―せんさいに高

流 ②うへしうへは―うつしうへは千 ちらめ―あらめ片

古 ①おとこ―をとこ最 せんさいに―せんさいに最 きくうへけるに―菊をうゑけるをみて最 ②うへしうへは

―うつ(へ)しうへは爲―うゑしうへは最 時や―としや爲 ねさへ―ネサエ時

大 ①せんさいに―せんさいに大神 きくうへけるに―菊をうへけるに神 ②うへしうへは―うつしうへは大―うゑ

しうゑは神 かれめや―かれめ神

塗 ①人の―人不 せんさいに―前栽不群丹 きくうへけるに―うゑけるに不―うへけるに群丹 ②うへしうへは

―うつしうゑは不群丹 ねさへ―ねさゑ不

昔男人家之前栽爾菊殖計流乎見而

遷植者秋無時哉將開花社散目根副枯目哉

眞 ①前栽爾―前栽爾内桂九 殖計流乎―植計流乎天

2 1

五 むかしおとこありけり人のもとよりかさなりちまきをこせた

りける返事に

2 1

あやめかり君はぬまにそまとひける我は野にいてゝかるそ
わひしきとてきしをなむやりける

天

①かさなりちまきをこせたりける—かさなりちまきをこせたりける玄—かさりちまきをこせたりける遺實東

武

①かさなりちまきをこせたりける—かさりちまきをこせたりける四宮高—かさりちまきをこせたりける岩

流

①かさなりちまきをこせたりける—かさりちまきをこせたりける千飛山明一隆雅—かさりちまきをこせける

古

①おとこ—をとこ相最 ②返事に—返しに千—返し奈

大

①かさなりちまきをこせたりける—かさりちまきをこせたりける大—かさりちまきをこせたりける神

差

①かさなりちまきをこせたりける—かさりちまきをこせたりける不群丹 ②返事に—かゑり事に不 ③かるそわひ

昔男在計利人廻從許權鷺尾遣有計流返事爾

菖蒲刈君者沼爾社迷計流吾者野爾出而獨社佗敷諾云而難乎何遣計流

眞 ①新鷺尾—新鷺尾天 ②祭社佗敷—祭社佗敷天

むかしおとこあひかたき女にあひて物かたりなとするほとに
鳥のなきければ

いかてかは鳥のなく覽人しれす思ふ心はまたよふかきに

流

②鳥のなきければ—ナシ千

古

①おとこ—おとこありけり宵 物かたりなと—物かたり承—物かたりなむと最 ②鳥のなきければ—鳥のなき

大

①女にあひて—女に大神 など—なんと大 ②鳥のなきければ—とりなきぬれは大—とりのなきぬれは神

差

①あひかたき—ありかたかりける不群丹 女にあひて—女に不群丹 ②鳥のなきければ—鳥のなきぬれは不

昔男在計利會難有計流女爾會而物語爲留問爾鳥鳴計禮者

如何是波鳥鳴覽人不知思浦心者未能深爾

眞 ②思浦心者―思心者天

五 昔おとこつれなかりける女にいひやりける

行やらぬ夢地をたのむたもとはあまつそらなるつゆやを
くらん 2 3

天 ②夢地をたのむ―夢地をたとる東

武 ②夢地をたのむ―ゆめちをたとる四岩宮尊高

流 ②夢地をたのむ―夢ちをたとる千七飛山明一隆奈片雅

古 ①おとこ―をとこ相 女に―女のもとに最 いひやりける―いるやりける最 ②夢地をたのむ―ゆめちをた
る爲承慈時―夢地にたとる最 つゆやをくらん―ツユソヲクラム時

大 ①いひやりける―いひやる大神 ②夢地をたのむ―ゆめちをたとる大―やまちをたとる神

塗 ①いひやりける―いひやりけり不群丹 ②夢地をたのむ―ゆめちをたとる不―夢路をたとる群丹 あまつそら
なる―あまつそらなき不群丹

昔男顔強有計流女爾云遣計流

去不遣夢路乎尋袂爾波天津空有露哉置覽

五 むかしおとこ思かけたる女のえうましうなりての世に

おもはすはありもすらめと事のはのをりふしことにたのま
る、哉 2 3

天 ②をりふし―おりふし重

武 ②をりふし―おりふし尊高

流 ①えうましう―えいふましう七―えうましうふ片 ②をりふし―おりふし七飛明隆奈豊片雅

古 ①思かけたる―おもひかけたり慈 えうましう―えいふましう相承―えいふ(う)ましう爲 なりての世に―な
りてのよと慈―なりてのち肖―なりてよみける最 ②ありもすらめと―ありもやすらめ承―ありともすらめ慈
―ありもやすらめと最 をりふし―おりふし承榮

大 ①おとこ―ナシ大神 女―人大神 えうましう―えあふましく大―えいふましう神 なりての世に―なりての

ち到大 ②をりふし―おりふし神

塗 此段ナシ

昔男在計利思繫有人適得難成而之代爾

不思想者有毛爲覽目雖言適時節每被手飲哉

眞 ①思繫有 ②思擊有天

弄 むかしおとこふして思ひおきて思ひ思ひあまりて

わかそては草の庵にあらねともくるれはつゆのやとりなり

けり ③ ② ①

流 ①おきて思ひ思ひあまりて ②おきておもひあまりて干

古 ①おとこをとこ相爲最 おきて思ひ思ひあまりて ②をきておもひ思あまりて爲最時 ③おきておもひ思ひあま

りて承 ②わかそては草の庵にわか袖の(は)草のたもと(いほり)に承 やとりなりけり ③やとりふりけり慈

大 ①おきて思ひ思ひあまりて ②をきて思ひおもひあまりて大 ③おきておもひあまりて神 ④草の庵に ⑤くさのた

もと(いをり)に大 ⑥くさのいほりに神 やとりなりけり ⑦やとりなりける神

塗 ①おきて思ひ思ひあまりて ②をきておもひあまりて不 ③おきておもひあまりて群丹 ④やとりなりけり ⑤やと

りそなる不群丹

昔男在計利寐寤思餘而

吾袖者草庵爾雖不有暮禮披露乃宿與社成

② ①

五 昔おとこ人しれぬ物思ひけりつれなき人のもとに

こひわひぬあまのかるもにやとるてふ我から身をもくたき

つる哉 ③ ② ①

武 ②こひわひぬ ③こひわひて岩

流 ②こひわひぬ ③戀わひて雅

古 ①おとこをとこ相 物思ひけり ②ものおもひしけるか宵 ③かるもに ④かるて(も)に最

大 ①おとこナシ大神 物思ひけり ②物思ふおとこ大神

塗 ①おとこナシ不群丹 物思ひけり ②ものおもひけるをとこ不 ③物おもひける男群 ④物(朱)おもひける男丹

人 ①女不群丹 ②やとるてふ ③やとるてう不

男人不知物思爲流男顔強人之許爾

戀佗寐泉郎適刈藻爾宿云乍吾身面碎釣哉

② ①

五 夫
 1 むかし心つきて色このみなるおとこなかをかといふ所に家つ
 2 くりてをりけりそこのとなりなりける宮はらにこともなき女
 3 とものみなかなりければ田からんとてこのおとこのあるをみ
 4 ていみしのすき物のしわさやとてあつまりりていりきければこ
 5 のおとこにけておくにかくれにければ女
 6 あれにけりあはれいく世のやとなれやすみけんひとのをと
 7 つれもせぬといひてこの宮にあつまりきゐてありければこの
 8 おとこ
 9 むくらおひてあれたるやとのうれたきはかりにもおにのす
 10 たくなりけりとてなむいたしたりけるこの女ともほひろはむ

11 といひければ
 12 うちわひておちほひろふときかませは我も田つらにゆかま
 13 しものを

天

⑤かくれにければ―かくれければ色

武

①おとこ―をとこ四岩宮高 ②そのの―その高 こともなき―ことなき高 ③おとこ―をとこ四岩宮高 ④か
 くれにければ―かくれければ高 ⑤すみけん―すみける高 ⑥あつまりきゐてありければ―あつまりきゐてあ
 りければ宮 このおとこ―おとこ四岩宮高

流

①家―いゑ明一片 ②をりけり―おひけり雅 となりなりける―となりなる七 ③田からん―國からむ明 ④
 しわさや―しはさや奈 ⑤かくれにければ―かくれければ七 ⑥あつまりきゐてありければ―あつまりゐてあ
 りければ一 このおとこ―おとこ七飛山明一奈片 ⑦といひければ―といひければと奈 ⑧ひろふ―ひろふ千

古

①むかし―むかしをとこ最 おとこ―をとこ相爲 なかをか―なかおか爲 家―いゑ爲慈時―いゑを承 つく
 りてをりけり―つくりそ慈―つくりてけり最 ②そのの―その最 となりなりける―となりける爲 宮は
 らに 宮はらより肖 ③るなか―いなか最 田からん まからん慈 おとこ―をとこ相最 ④しわさや―しは
 さや肖 あつまりりて―あつまりりて榮―アツマリテ時 いらきければ―いらきければ榮―いらければ最―イリキ
 タレハ時 ⑤おとこ―をとこ相爲 にかけておくにかくれにければ―にかけてをくにいらければ最 ⑥やとなれや

すみわひぬ今はかきりと山さとに身をかくすへきやともと 3
 めてんかくて物いたくやみてしにいたりたりければおもてに水 4
 そゝきなとしていきいてゝ 5
 わかうへに露そをくなるあまの河とわたるふねのかいのし 6
 つくかとなむいひていきいてたりける 7

天

④しにいたりたりしにりにけ(た)り 冷⑦となむいひていきいてたりける—ナシ道

武

①おとこ—をとこ四岩宮高

流

⑥露そをくなる—露やをくらむ片 かい—かゝる七—かひ飛山明隆奈

古

①ひむかし山にすまむと—ひんかしのやまにすまむとて最 ③今はかきりと—今はかきりの榮 ④物いたく—
 いたく最 しにいたりたりしににりたり承 おもて—をもて爲時 ⑤そゝきなと—そゝきなむと最 ⑥わかう
 へに—我うゑに最 露そをくなる—つゆそおくなる爲 かい—かひ爲榮宵 ⑦となむいひていきいてたりける
 —となんいひていきいてたりけり宵—となむいひていきいてたりけり最

大

①京を—京をは大—みやこを神 ひむかし山—ひかしゃやま大 ③かきりと—かきりの神 もとめてん—もとめ
 む神 ④物いたく—物いたく大—ものいたく神 しにいたりたりしににりたり神 おもて—をもて大 水そゝき

塗

なとして—みつをゝきなとして大 ⑥露そをくなる—みつ(つゆ)そをくなる大 かい—かち大—かひ神
 ①京を—みやこを不群丹 思ひりて—おもひいきて不群丹 ③今はかきりと—今はかきりの不群丹 ④かく
 て—なむとよみをりけるに不群丹 物いたく—ものいたう不群丹 水そゝきなとして—みつそゝきなむとして
 不—水そゝきなとし群丹 ⑥わかうへに—我うゑに不 かい—かひ不群丹 ⑦となむいひていきいてたりける
 —といひてそいきいてたりける不群丹 此段第二十五段にツヅケテ合セテ一段トシタリ不群丹

昔男在計利如何將思東山爾栖與思而讀

棲將侘今者限廼山家爾身乎可隱屋門求而牟與而物痛病而死入有計禮波面爾水灌何

與爲而生出而

吾上爾露社置成漢河門渡船廼鹿之死付歟諾何云而氣出有計流

眞 ①栖與思而讀—將與思而讀內桂—將栖與思而讀九 將栖與思而入讀天 ②棲將侘—栖將侘天 ③生出而
 —ナシ内天 ④門渡船廼—門渡船天

〇 1 2 3 4
 むかしおとこ有けり宮つかへいそかしく心もまめならさりけ
 るほとこのいへとうしまめにおもはむといふ人につきて人のく

にへいにけりこのおとこ宇佐の使にていきけるにあるくにの
 3
 しその官人のためにてなむあるときゝてをんなあるしにかは
 4
 らけとらせよさらすはのましといひければかはらけとりてい
 5
 たしたりけるにさかなゝりけるたちはなをとりて
 6
 さ月まつ花たちはなのかをかけはむかしの人のそてのかそ
 7
 するといひけるにそ思ひいてゝあまになりて山にいりてそあ
 8
 りける
 9

武

①おとこをとこ四岩宮 ④をんなあるし女のあるし高 かはらけとらせよさらすはのましといひければか
 はらけとりてかはらけとらせよさらすはのましといひければかはらけとりて宮

流

①いそかしくいそかはしく奈 心もこゝろ千 ②いへとうしいゑとうし一奈置 ③使つかる山 ④官
 人くわむ人飛くはんん片 めにてめしにて明 ⑤さらすはのましさすはのまし明 ⑥にナシ片

古

①おとこをとこ相最 有けり有ける慈 宮つかへ宮つかえへ爲みやつかひ宮みやつかえ最時 ②
 ほとのとに宵最 いへとうしいゑとうし爲最時 人のくに 人ノクニエ時 ③おとこをとこ相爲最

大

④あるとありと最 ⑤さらすはのましさらすのまし慈さらすはえのまし最 かはらけかわらけ最 ⑥
 たちはなをとりて花たちはなをとりて宵 ⑦かをかけはかほかけは爲 ⑧ありけるあなる相
 ①いそかしくいそかしう大神 ②ほとのとほとと神 いへとうしいゑとうし大いとうし神 ④しその官
 人のためにしその官人のために大しその方人のために神 かはらけかけらは神 ⑥たちはなをとりて
 はなたちはなをとりてつかひ大神 ⑧いりてそありける入てそあむなる神

塗

①宮つかへみやつかへも不群丹 いそかしくいそかしくて不群丹 まめならさりけるほととのまめならさ
 りければ不群丹 ②いへとうし家童とし不群丹 といふといひける不群丹 ④しその官人のために
 しその官人のために不群丹 ⑤さらすはのましさらすはのまむ不群丹 とりてとらせて不群丹 ⑦かをかけ
 はかほかけは不 ⑧といひけるにそといゑりけるにそ不といへりけるにそ群丹 いりてそありけるい
 りにける不群丹

昔男在計利宮仕急心毛不被儼計流間爾彼家童子問女爾將思與云人爾付而他國江往計
 1
 利此夫宇佐使爾而往計流爾或國迺承官人之妻爾而何在與聞而女主爾酒坏取爲余不
 2
 然者不吞常云計禮者盃取而出有計流爾看有在計流橋乎取而
 3
 早苗月待花橋乃香乎聞者往古人之袖迺香社作流諾云計流爾社思出而尼爾成而山爾
 4
 入爾計流
 5

眞 ①問女爾—問女爾天 ②取爲余—取爲爾天 ④香乎聞者—香乎聞而(者)桂 ⑤入爾—ナシ九

六 昔おとこつくしまていきたりけるにこれは色このむといふす

き物とすたれのうちなる人のいひけるをきゝて 2

そめ河をわたらむ人のいかてかは色になるてふことのなか 3

らん女返し 4

名にしおはゝあたにそあるへきたはれしま浪のぬれきぬき 5

るといふなり 6

武 ①おとこ—をとこ四岩宮高 ⑤名にしおはゝ—名にしをはゝ高 ⑥いふなり—いふなる高

流 ①色このむといふ—色このみといふ豊 ⑤名にしおはゝ—なにしほはゝ一片 ⑥いふなり—いふなる片

古 ①色このむといふ—色このみといふ最 ④返し—返事最—カエシ時 ⑤名にしおはゝ—なにしほはゝ爲最—ナ

ニシヲハ、時 たはれしま—たわれしま慈

大 ①おとこ—ナシ大 ②すき物と—すきものそと神 ⑤名にしおはゝ—なにをはゝ大 ⑥なにしはゝ神 あるへき

おもひ神 たはれしま—たはれ行(しま)大

①おとこ—ナシ不群丹 ②いきたりけるに—いきたりける男ありけり不群丹 ③色このむといふ—いろこのむなる

不群丹 ④すき物と—すきものそと不群丹 ⑤きゝて—きゝてをとこ不—きゝて男群丹 ⑥そめ河—そめかわ不

⑦そめかは群丹 ⑧色になるてふ—いろになるてう不 ⑨ことなからん—ことなかるへき不群丹 ⑩女返し—を

むなかゑし不 ⑪名にしおはゝ—なにしほはゝ不 あるへき—おもふ不群丹

昔男至筑紫往有計流爾是者色好與云軼者與籬中成人迺云計流乎聞而

染河乎將渡人迺如何河波色爾出云言迺無將有女返

名爾志負者化爾社可有遊島浪迺沾衣將著與云也

3 2 1

眞 ①軼者—軼者九

三 むかし年ころをとつれさりける女心かしこくやあらさりけん

はかなき人の事につきて人のくになりける人につかはれても 2

とみし人のまへにいてきて物くはせなとしけりよさりこのあ 3

りつる人たまへとあるしにいひければをこせたりけりおとこ
我をはしらすやとて

いにしへのにほひはいつらさくら花こけるからともなりに
ける哉といふをいとはつかしと思ていらへもせてゐたるをな
といらへもせぬといへはなみたのこほるゝにめもみえすもの
もいはれすといふ

これやこの我にあふみをのかれつゝ年月ふれとまさりかほ
なきといひてきぬゝきてとらせけれとすてゝにけにけりいつ
ちいぬらんともしらす

天

武

- ② はかなき人の事につきて人のくになりける人につかはれてもとし人のまへにいてきてはかなき人の事につきて人のくになりける人につかはれてもとし人のまへにいてきて ③ 物くはせなと物くわせなと色
- ④ をこせたりけりおこせたりけり色をこせたりける東 ⑦ などいらへもせぬいらへもせぬ玄
- ① あらさりけんあらさりけむ宮 ⑧ いてきていてきて高 ⑨ けりナシ尊 ⑩ しらすやしらすや四岩尊高

流

古

大

- ⑦ などいらへもせぬなどいらへぬ高 ⑩ まさりかほなきまさりかほなみ四岩尊高 ⑪ まさりかほなみ(き)宮
- ① をとつれさりけるおとつれさりける飛 ③ しけりしける祭 ④ をこせたりけりをこせたりける一 ⑤ しらすやしらすや飛山明一祭片 ⑥ こけるからともこけるかことも片 ⑩ まさりかほなきまさりかほなみ
- 千七飛山明一隆奈豊片雅 ① とらせけれととらせけれは片 ⑫ いぬらんともしぬとも干
- ① をとつれさりけるおとつれさりける承最 ② はかなき人の事につきてはかなき人のことにつけて慈人
のくになりける人につかはれてもとしナシ慈 もとみしともとみし承 ③ まへにまゑに最マエニ時
いてきていてきて薬 物くはせなと物くわせむと最 ④ たまへとあるしにたまへと最タマエトアル
シニ時 おとこをとこ相最時 ⑤ しらすやしらすや慈 ⑥ いにしへのイニシエ(へ)ノ時 こけるからとも
こけるか(ら)とも承 ⑦ といふをといふ爲 いらへいらへイラエ時 ゐたるをいたるを最 などいらへも
せぬナトイラエモセマ時 ⑧ みえすみえすと最 ⑨ いはれすいわれす最 ⑩ まさりかほなきまさりか
ほなみ相爲承榮慈最時 ⑪ とらせけれととらせけれとも最 ⑫ しらすしらすかし肯
- ① 年ころをとつれさりけるおとことしころをとつれふりける大 みける神 心かしこくやあらさりけんこ
ろかしこくやなかりけん大 心かしこくやあらさりけむ神 ② はかなき人の事につきてはかなき人のいふ
ことにつきて神 ③ よさりゆふさり神 ④ をこせたりけりをこせたり大神 おとこをとこ大 ⑤ こける
からともこけるかことも大神 ⑦ ゐたるをねたるを神 などいらへもせぬなとかいらへもせぬ大 など
かいらむもせぬ神 ⑨ といふといふに神 ⑩ まさりかほなきまさりかほなみ大神 ⑪ にけにけりきにけ

リ大 ⑩いぬらんともいぬらんと大いけむとも神

差

①をとつれさりける—をとろへさりける不群丹 ②しけりしありきけりなきかみをきぬのふくろにいでて
 とほやますりのなきあをよそきたりける不群丹 ③おとこ—ナシ不 ④いにしへの—いにしゑの不 こける
 からとも—わかるかことも不群丹 ⑤あたるを—いたりけるを不 ⑥といへは—といゑは不 こほるゝに—な
 かるゝに不群丹 みえず—みえず不 ⑦といふ—といゑはをとこ不—といへはおとこ群丹 ⑧まさりかほなき
 —まさりかほなき不群丹 ⑨いつち—いつこに不群丹

昔年來不音信計流女心賢哉不有計無無墓人適言爾付而人之國成計流人爾仕禮計流間
 爾本所見人之前出來而物食世何與爲計利夕去此在津流人賜與主爾云計禮波遣有計利
 壯士吾乎波不知哉左

古之句者幾等櫻花扱留之如毛成爾計流哉諾云乎最慙與思而報毛不爲居有乎何報者
 不爲與云者淚之落爾目毛不見物毛不被言與云又夫

是哉兒之吾爾近江乎遁乍年月雖歷勝面無美諾云而衣絶而雖爲被取捨而往爾計利何
 所去覽友不知

眞 ⑨遣有計利—遣有計利内

1 2 3 4 5 6 7

三

むかし世こゝろつける女いかて心なさけあらむおとこにあひ
 えてしかなとおもへといひいてむもたよりなさにまことなら
 ぬ夢かたりをす子三人をよひてかたりけりふたりのこはなさ
 けなくいらへてやみぬさふらうなりける子なんよき御をとこ
 そいてこむとあはするにこの女けしきいとよしこと人はいと
 なさけなしかてこの在五中將にあはせてし哉と思心ありか
 りしありきけるにいきあひてみちにてむまのくちをとりてか
 う／＼なむ思ふといひければあはれかりてきてねにけりさて
 のちおとこみえさりければ女おとこの家にいきてかいまみけ
 るをおとこほのかにみて
 一もゝとせにひとゝせたらぬつくもかみ我をこふらしおもか
 けにみゆとていてたつけしきをみてむはらからたちにかゝり

12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

て家にきてうちふせりおとこかの女のせしやうにしのひてた
てりてみれば女なけきてぬとて 13

さむしろに衣かたしきこよひもやこひしき人にあはてのみ 14

ねむとよみけるをおとこあはれと思てその夜はねにけり世中 15

のれいとしておもふはおもひおもはぬをおもはぬ物をこ 16

の人はおもふをおもはぬをもけちめみせぬ心なんありける 17

天 ②おもへと—おもふと東 ④御をとこそ—御おとこそ綴色 ⑤かりしありきけるに—かりしありきけるに
色 ⑥よみけるを—よみてけるを色

武 ④御をとこそ—御おとこそ四岩宮高 ⑩おとこ—をとこそ四岩宮高 ⑪女なけきて—女なけきて四 ⑬おと
こ—をとこそ四岩宮高 ⑭おもふはおもひ—おもふを思ひ高

流 ①女—女の七置 ②いひいてむもたよりなさに—いひいてんたよりなさに飛山明奈片 ③ふたりのこは—ふ
たりの子は明 ④さふらう—さふらふ七隆奈置 御をとこそ—御おとこそ七山明一隆奈置片雅 ⑤いとなきけ
なし—なきけなし明片 ⑥家—いゑ一 いきて—ゆきて干 ⑦家—いゑ飛一片 ⑧ぬとて—いぬとて干 ⑨そ
の夜は—その夜置 ⑩おもはぬを—おもはぬは奈 ⑪おもはぬ物をこの人はおもふをおもはぬ—ナシ雅

古

おもはぬ物を—思はぬを七 ⑧おもはぬ—おもわぬ奈

①おとこに—をとこに相爲時 ②おもへと—おもふと慈 たよりなさに—たよりなきに慈 まことならぬ—ま
ことならぬ爲 ③夢かたりをす—夢かたりを最 子三人をよひて—子三人よひて最—コ三人ヲヨヒテ、時
かたりけり—かたりける慈最 ④いらへて—いらへもせて最—イラエテ時 さふらう—さふらふ爲慈 御を
とこそ—御おとこそ爲慈—御おとこそ最—御オトコ、ソ時 ⑤あはするに—あわするに最
⑥あはせてし哉と思心あり—あはせてしかなむとおもふ心にて最 ⑦ありきけるに—あるきけるに最 とりて
—とらへて最 かう／＼なむ—かう／＼となむ最 ⑧あはれかりて—あはれかり慈—アハレカリテ時 きて—
いきて最 きてのち—きてのちに背 ⑨おとこみえさりければ—をとこみえさりければ相爲—をとこのみへさ
りければ最 おとこの家—をとこのいへ相—おとこのいゑ爲慈最時 かいまみけるを—かひまみけるを最—カ
イマミニケルヲ時 ⑩おとこ—をとこ相爲最 ⑪おもかけにみゆ—おもかけにたつ(みゆ)爲—おもかけにたつ
背最—ヲモカケニタツ時 ⑫とて—といひて最 みてむはらからたちにかゝりて—みてむはら(ら)かう(ら)た
ちにかゝりて承—みせむいらからたちにかゝりて慈 ⑬家—いゑ爲慈最時 うちふせり—うちふして慈—ふせ
り最 おとこ—をとこ相爲 しのひて—ナシ最 ⑭ぬとて—ぬるとて最 ⑮かたしき—うちしき慈 こひしき
—コヒシキ時 あはてのみねむ—あわてねな／＼ん最 ⑯とよみけるを—とよめ(み)けるを榮—とよみてけるを
慈—とよめりけるを背 おとこ—をとこ相慈最 ⑰おもはぬ物を—思わぬを最 ⑱けちめ—そのけちめも最

大

①世こゝろつける—よこゝろありける大神 あひえてしかな—あひみてしかな大神 ②いひいてむも—いひい